



平成 27 年度
奈良の福祉グループふるぽの
事業報告書

奈良で障がい者の就労を支援しています

平成 28 年 5 月

NPO 法人ふるぽの
社会福祉法人ふるぽの



ぷろぼの活動理念

「地域自立」

“ぷろぼの”はラテン語で公共性、よき社会の実現・・を意味する言葉です。
私たちは、誰もが自立した生活ができる地域社会づくりを目指します。

- 1. 古都奈良の地を大切にします
- 2. 人にやさしい福祉ごころを育みます
- 3. 夢と勇気を持って日々努力します

「夢と目標」

下学して上達す（かがくしてじょうたつす）
身近なことを根気よく学ぶことで、もっと大切なことがわかるようになります。

- 1. 六ヶ月後は夢を目標にしています
- 2. 一年後は目標に近づいています
- 3. 三年後は仕事で頑張っています

「活動方針」

プライドのある自立を目指して・・・障がい者の就労をITで支援します。
“ぷろぼの”は障がい者が一般就労に必要な本格的なIT技術を習得できる
就労支援専門の福祉事業所です。
すべての障がい者がプライドや生きがいをもって
地域社会で自立した生活ができるようにお手伝いをいたします。

目次

| | |
|----------------------------|-----|
| 理事長挨拶 | p3 |
| 活動一覧 | p4 |
| I システム開発委員会（就労支援プログラムの開発） | p9 |
| システム開発委員会とは～平成 27 年度の活動内容～ | p10 |
| 平成 27 年度の総括と今後の方針 | p11 |
| 訓練プログラムの紹介 | p12 |
| 平成 27 年度システム開発委員会活動記録 | p20 |
| II 福祉事業（就労訓練） | p21 |
| 生駒事業所 | p22 |
| 高の原事業所 | p26 |
| 新大宮事業所 | p30 |
| 大和八木事業所 | p34 |
| 就職支援セミナー | p38 |
| III 就労事業（働く場づくり） | p41 |
| IT センター奈良 | p42 |
| IT センター大和八木 | p50 |
| 農業事業 大和農芸グループ | p56 |
| IT センター榛原 | p58 |
| IV 就業支援 | p61 |
| 就業支援 | p62 |
| V 生活支援・相談支援 | p67 |
| 生活支援・相談支援 | p68 |
| VI 児童支援事業部（放課後支援の事業） | p69 |
| ぷろぼのスコラ概要 | p70 |
| ぷろぼのスコラ生駒校 | p73 |
| ぷろぼのスコラ大和八木校 | p76 |

目次

Ⅶ 地域貢献活動..... p79

 平成 27 年度 主な地域貢献活動..... p80

Ⅷ 福祉ビル..... p81

 ぷろぼの福祉ビル..... p82

Ⅷ 利用者の意識調査..... p87

 平成 27 年度利用に関するアンケート 就労移行支援..... p88

 平成 27 年度利用に関するアンケート 就労継続支援..... p100

事業所一覧..... p107

平成 27 年度の事業及び活動報告書の作成について

いつも、私どもの事業や活動にご理解ご協力をいただき、有難うございます。職員一同心より御礼申し上げます。現在、新大宮に地元の木材をふんだんに使用した木造 5 階建ての「ぷろぼの福祉ビル」を建設しています。ここを障がい福祉事業の拠点として、また地域や企業の方との交流の場としてご活用いただくために準備を進めています。このビルのオープンが待ち遠しい中、皆様には、平成 27 年度の事業や活動を報告書にして、お伝えいたします。

就労移行支援事業

ぷろぼのグループは、障害者総合支援法による障がいのある方の「就労を支援する事業」をしています。利用される多くの方の就職への思いをお聞きして、実現するために日々の訓練に取り組んでいます。その基本となっているのが「ぷろぼの就労支援プログラム」です。数年にわたり直接福祉の現場を担当している職員たちが、日々の訓練から得たものを書き加えてきました。利用される方の多くは就職経験が少ないので、働くことを具体的に体験しイメージできるように、「健康のこと」、「生活のこと」、「社会性のこと」、「働く技能のこと」の 4 つの項目から、最大 2 年間でのステップアップを踏まえ、支援計画としてまとめ実践することを心がけてきました。27 年度の就職者数は 24 名でした。4 月から榛原事業所が本格的に活動を始めています。

就労継続支援事業

障がいのある方が働くことができる「職場をつくる事業」も拡大しています。これは、県内に従業員 50 人以上の企業が少なく、また業種が偏っていることが要因になっています。訓練が終了し就職準備性が整った方でも、希望する職場や職種を探すことが難しく、障がいのある方も障がいのない方と同様に大阪など県外に通勤することが多くなっています。

働く場づくりの事業として

中古パソコンのリユース事業、記帳の事業、HP や印刷物を制作する事業、EC サイトの構築事業、データ入力事業、シェアオフィスの事業、大和茶の栽培に携わる事業、よもぎの 6 次産業化事業などを本格的に実施しています。

そこで働く就労継続支援 A 型の方が 28 人、また B 型の方が 38 人になっています。

放課後等デイサービス事業

障がいのある主に高等部の生徒さんを対象にスコラ事業を実施しています。昨年 5 月には生駒校に続き、スコラ大和八木校もでき“たのしく社会人スキルを学ぶ”ことをテーマに、感覚統合、コミュニケーション力や IT スキル等のプログラムに取り組んでいます。27 年度の卒業生は 7 名でした。

社会貢献活動

障がいのある方が就職後に地域で自立した生活をするためには皆様のご理解が必要です。そのためにも地域との交流や連携は重要になります。4 月から障害者差別解消法が本格的に施行されましたが、制度だけでなく日常的に障がいについてのご理解をいただくために、自治会や地域のイベントに参加することを心がけています。また J リーグを目指す奈良クラブの 3 選手を雇用してサッカーの応援にもがんばっています。

ぷろぼのグループの理念は、福祉の心を育み、古都奈良を元気にすることです。そのために福祉事業で培った経験やノウハウを活用して、これからも社会貢献の活動に取り組んでいきます。これらの取組に理事や評議員の方、関係機関の方、地域の皆様のご理解とご協力をいただいていることを心から感謝申し上げます。

平成 28 年 4 月吉日

奈良の福祉グループぷろぼの 代表 山内 民興
職員一同

ぷろぼのスコラ

主に障がいのある高校生を対象に放課後等デイサービス事業を行っています。卒業後の進路選択の幅を広げ、楽しく学ぶキャリア教育プログラム。それが、ぷろぼのスコラです。



ぷろぼのスコラ生駒

ぷろぼのスコラ大和八木

ぷろぼのスコラ新大宮

平成28年夏ぷろぼの福祉ビルで開業予定

第5回(平成26年度)キャリア教育
アワード(中小企業単独の部)にて、
最優秀賞(経済産業大臣賞)を受賞しました。

相談

ご利用までの流れ

お問い合わせは本部事務局 0742-81-7032まで

福祉サービスを受けるための相談、
訓練計画の相談、ケース会議参加、
モニタリング(障がいのこと、生活の
こと、働くこと)について
相談・助言します。

【このような方が対象です】

- 障がいのある方 ※障害者手帳が無くてもご相談ください。
身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、
内部障害、高次脳機能障害、難病の方
- 中途障がい等でリハビリをされている方
- 働くことを希望されている方
- 障がいのある学生の方
(PCスキル、簿記、社会人スキルを学びます。)



【福祉サービス制度の紹介】

自立訓練

就職準備性を高める訓練をします。原則2年以内の利用です。

就労移行支援事業

就労を目指して訓練をします。原則2年以内の利用です。

就労継続支援A型

雇用契約を結び、福祉サービスを受けて働くことができます。

就労継続支援B型

福祉的な働く場・訓練の場です。

放課後等デイサービス事業

学校の放課後や長期の休日に利用できます。

生活援助事業(グループホーム)

ワンルームで自立した生活ができます。夕食付(平日のみ)

就労支援員の役割

- ハローワークでの求人方法から履歴書の作成指導、面接への同行など
- 実習先や就職先への訪問
- 就労支援員と訓練指導員とが密に連携し、就労準備のできた訓練生を就職へと導く。
- 訓練し、評価し、見合う就職先につなげる。



就職後、初期から3年間の長期にわたり、職場定着の支援を行います(3年を過ぎても必要に応じて支援します)。

- 職場定期訪問の実施
- 職場とご本人を交えたケース会議の実施
- 就職者の集いの場を設けた心のケアの実施等により
安心と自信をもって就労を続けられるように支援します。

訓練の場

働きたいという思いを支える
ために様々な取り組みを通じ
て就労の実現を支援します。



テクノパークぷろぼの生駒 定員 20 名…近鉄生駒駅徒歩 5 分

基本プログラムに加え、らままつり・いこまんどこまつりでの活動等地域に密着した取り組みをしています。
"つながり"をキーワードにして就職された方々との交流も含めトータルに就労支援を行っています。

テクノパークぷろぼの大和八木 定員 20 名…近鉄八木西口駅徒歩 3 分 近鉄八木駅徒歩 7 分

基本プログラムに加え、ITセンター大和八木と連動した手作業訓練、奈良クラブの選手による体幹トレーニングでの体力づくり、イベント会社の協力による施設外就労訓練等特別なプログラムを実施しています。

テクノパークぷろぼの高の原 定員 20 名…近鉄高の原駅徒歩 5 分

基本プログラムに加え、プチマーケット「コロッツ」での販売訓練、請負による作業訓練、人間力の育成・コミュニケーションスキルの向上を目指した青空トレーニング等を行っています。また、近隣イベントへの参加等地域貢献活動にも取り組んでいます。

テクノパークぷろぼの新大宮 定員 20 名…近鉄新大宮駅徒歩 5 分 JR 奈良駅徒歩 15 分

基本プログラムに加え、奈良市アダプトプログラム推進事業(さわやかクリーン奈良)への参加、大宮まつりでの活動等地域貢献活動に取り組んでいます。また、奈良クラブの選手による体幹トレーニングでの体力づくりも行っています。平成28年夏からぷろぼの福祉ビルで事業を開始します。

IT センター榛原 定員 6 名…近鉄榛原駅徒歩 1 分

奈良県南東部榛原のゆったりとした雰囲気の中で訓練を行います。
就労継続支援B型との多機能型の施設です。

アースカローズぷろぼの新大宮 定員 20 名…ぷろぼの福祉ビル

「プログラミング」「SST(コミュニケーション講座)」「ビジネスマナー」「料理」など座学と体験で、
楽しみながら就職準備性を高めていきます。(平成28年夏開業予定)

社会人スキル(就職準備性)

バランスよく身につけていく必要があります。



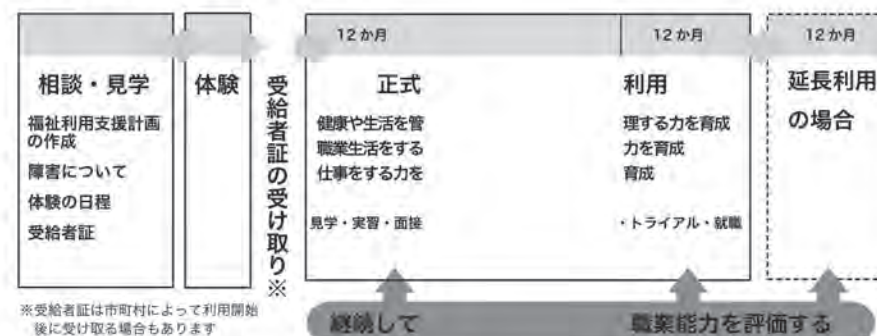
適性技能・資格・経験

定時出勤や連絡、指示の遵守、報連相、
対人技能、ビジネスマナー、PC 操作

起床、就寝、食事・栄養、体力・休養、
清潔・移動、金銭管理、ルールを守る

体調管理、症状・感情コントロール、
定期的な通院・服薬

就労移行支援プログラム



※受給者証は市町村によって利用開始
後に受け取る場合があります

継続して

職業能力を評価する

支援の流れ

STEP

0 放課後等デイサービス
》》》 ぷろぼのスコラ
就労は学生の早い段階から

STEP

1 相談支援
》》》 特定相談支援事業所ぷろぼの
就労移行支援のご利用をお考えの方へ

STEP

2 自立訓練(生活訓練)
》》》 アースカローズぷろぼの
就職準備性を高めるために
(2年間の訓練プログラムを提供)

STEP

3 就労移行支援
》》》 テクノパークぷろぼの
働きたいという思いを実現するために
(2年間の訓練プログラムを提供)

STEP

4 就労継続支援
》》》 ITセンター
多様な働き方ができるように
(A型事業・B型事業)

STEP

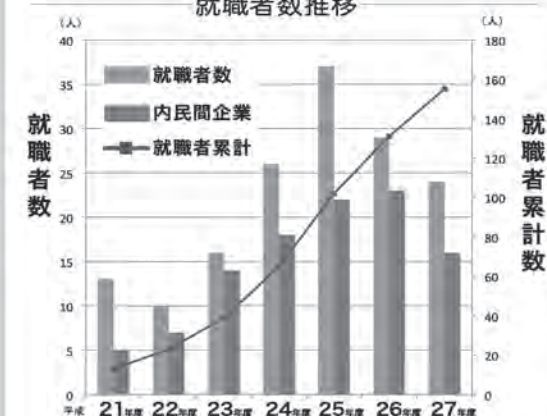
5 定着支援
》》》 就業支援事業部
就職後の職場定着を図るために

STEP

6 自立支援
》》》 グループホームぷろぼの
地域で自立した生活を送るために

就職実績

就職者数推移



就職者のうち、平成25年度から平成27年度末までの3年間における
一般企業就職者の職場定着率は、91%です。

就職支援セミナー



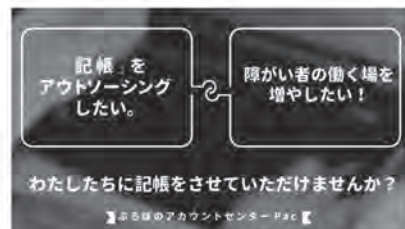
ぷろぼのグループ全体の利用者を対象に
就職活動期に必要な生活習慣等に関する
就職支援セミナーを開催しています。

働く場 多様な働き方ができるように

IT センター奈良



グラフィックボード動作テスト



proideランディングページ

福祉3R事業
(中古パソコン、パソコンパーツ再販業務)

中古パソコンの有効活用と資源の循環業務を通じて、地域のネットワークづくりを目指しています。3Rとは、Recycle(資源の再利用) Reuse(製品の再利用) Relation-ship(人と人との結びつき)の3つのRのことです。

Pac 記帳サービス事業
(帳票類の会計処理・記帳入力)

全国の契約している会計事務所様より帳票類などの会計資料を預かり、専用ソフトに金額や摘要を入力する仕事をしています。個人事業主様向けサービスもしています。平成28年夏からぶろぼの福祉ビルで事業を開始します。

URL <http://pac.vport.org/>

Proide 開発&制作事業
(印刷物やHPの制作と開発)

主に奈良県や近畿一円の福祉事業所様や企業様のHPや印刷物の製作をしています。簡単HP作成更新ツールにてお客様のコンセプト、イメージに沿ったテンプレートの提案をさせていただきます。

平成28年夏からぶろぼの福祉ビルで事業を開始します。

URL <http://proide.vport.org/>

IT センター大和八木



シェアオフィス事業

地域が元気になること、面白いことを一緒に考え、新しい事業を創造できる場として展開を図っていきます。

ぶろぼの商店街 <http://sci-coro.com/>

ネットショップ「ぶろぼの商店街」を運営しています。商品の製造やネットショップの管理は、障がいのある方々の仕事となっています。(サイ◇コロ・ネイチャースタイル)



エーヨン様のECサイト

ネットショップ事業

商品を作りたい・売りたい人達と繋がり、良いもの・面白いものが広がる事業展開を進めています。



商品製造事業

企業内の技術が必要な業務と手間仕事を切り分け、手間仕事を行うことで企業様がコア事業に集中できる仕組みを作ります。



システムコンサルチーム

システム開発会社のエム・エー・ディー様と連携し、システム開発の上流工程を担う仕事を行っています。

大和農業事業



お茶づくり

お茶づくりは、感じる、(植物と)過ごす、育てる、採る、利用するなど、楽しみながら心と体を使い、健康を育みます。その結果、ストレス軽減、意欲回復、認知機能の維持・向上、日常生活に必要な能力の維持・向上、社会性の向上、生活の質の維持・向上など、いろいろな効果が期待できます。

IT センター榛原



よもぎ栽培

「東吉野村に農業を興して村おこしを!」を合言葉に、東吉野村の大自然に囲まれた場所に畑を借りて、特産品であるヨモギの栽培事業を行っています。収穫したよもぎで「よもぎ風呂」等に加え、販売(ITYにて)する6次産業化に取り組んでいます。



マテリアルセンター

未来の社会に必要な仕事

3Rセンターでは、プログラミング制御の新規事業化を考えています。教育の現場では、「プログラムによる計測・制御」が必修科目となり、不足するITエンジニアの育成の動きが活発化しており、未来の社会に必要な仕事の開発、人材の育成に取り組むことで、障がいのある方々や地域に新しい働き方を提案したいと思っています。



グループホーム

自立した生活を支援します

ぶろぼのグループのサービスを利用中または就職した方が、地域で自立した生活を送るため、地域のアパートと契約し貸与しています。共有スペース(居室)では平日の朝・夕に世話人が入り、夕食の提供や生活支援を行います。



地域活動

みんなが住みやすい町をつくるために

奈良クラブ応援プロジェクト

現在JFL所属で、Jリーグを目指すサッカーチーム奈良クラブの選手を3名雇用。「事業所にスター選手がいる」ことが訓練への意欲向上と余暇活動の支援にもつながり、選手の知識を活かした「体幹トレーニング」プログラムも生まれました。また、奈良クラブホームゲームには訓練生を招待し、みんなで応援をして楽しんでいます。



なら風パソコン講座

地域にお住まいの高齢の方、障がいのある方などを対象としたパソコン教室事業を実施しています。この事業は、地域のNPO法人奈良シニアIT振興会(POAY)様と協働開催をしています。POAY様は、シニアのPC指導者の活躍の場が、ぶろぼのは障がい者の指導補助としての就労訓練の場が、地域にはPCを気軽に学ぶ場が生まれています。

クリーン活動

奈良市が市民と協力する取組み「さわやかクリーン奈良」に参加。ホテル日航奈良様横の花壇の手入れと事業所から花壇までの市道のゴミ拾いを行っています。生駒市では、「まちなかふろーらむ」と呼ばれる花壇の管理を行っています。

自治会活動への参加

地元地域の自治会主催の催しへ積極的に参加しています。地元で開催する夏祭りは訓練生が住民の方と触れ合う大切な機会となっています。自治会の方より、広報とチラシの組み綴りから各戸へのポスティング作業のご依頼を頂くなどつながりが広がっています。

I システム開発委員会 (就労支援プログラムの開発)

システム開発委員会とは・平成 27 年度の活動内容

1 システム開発委員会の組織と活動

システム開発委員会は、ぷろぼのグループ内の就労移行事業所・相談支援事業所・就労継続事業所の各部署の代表者により構成されています。利用者の方の自己実現のため就労支援システムの開発・改善のため支援の流れの構築や、支援に必要な書類の作成などに取り組んでいます。

そのほか、支援経過の記録・分析のための WEB システムである「就労支援システム Port」の機能見直し、支援システムの効果を測定するための利用者アンケート調査も実施しています。

2 平成 27 年度の活動内容

ぷろぼのでは、就労移行支援事業所 4 事業所に加えて、就労継続支援 A 型・B 型、放課後等デイサービス事業所、グループホーム、リワーク事業と、地域で生活すること・働くことを支えるための支援を提供しています。「働きたい」「働くための力をつけたい」と思ってぷろぼのを利用し始めるみなさんが、可能性を広げ、力を伸ばすための支援・訓練には何が必要か、どうあるべきかを考え、システム開発委員会で検討を重ねてきました。

平成 25 年度に現場の課題から方針を定め、評価項目を設定し、26 年度には具体的に運用するためのものとして、評価シート、就労支援システム Port、月次報告書、そして支援の流れを整理しました。これらは、いわばぷろぼのの就労支援の枠組みといえます。平成 27 年度には、平成 25 年度・26 年度で整理した枠組みを一体的に運用・改善し、支援の内容・質を「もう一段上」に高めるために訓練プログラムを整理することを目指しました。

一方で、地域福祉の社会資源の拡大やニーズの変化・多様化、法人の事業・組織の規模拡大など、従来の就労支援システムだけでは対応しきれない、ぷろぼのが大きく変わらなければいけない状況になってきたと感じています。そこで、平成 27 年度には訓練プログラムの整理と並行して、ぷろぼのの内包している課題や現在置かれている状況を整理し、他の福祉施設への見学などを通じて、システム開発委員会として今後の方針を検討しました。

平成 27 年度の取り組みは下記のとおりです。

- 「就労支援システム」の運用状況の確認
- 訓練プログラムの運用状況の確認
- 就労支援システム Port の機能見直し
- 長期的な視野での今後の支援の方向性の検討（S W O T 分析・他法人見学等）
- 平成 27 年度利用者アンケート（就労移行利用者向け／A 型 B 型利用者向け）

平成 27 年度の総括と今後の方針

1 平成 27 年度の総括

平成 27 年度はこれまでに構築された「就労支援システム」の内容について就労移行の現場で適正に運用されているかを確認しました。就労支援を実際に日々行っている現場では、有用性を感じながらも日々の業務に追われて運用しきれていないケースがあることや、事業所ごとに少しずつ運用方法が違ってきていることが判明しました。

これに対して、職員の負担を最小限に抑えながら最大限の効果を出せるようにするにはどうすればよいのかをテーマとして現場の意見を取り入れながら「就労支援システム」の再構築に努めてきました。また、「就労支援システム」の再構築を進めながら、長期的な目線で今後の法人の支援の方向性をどのようにしていく必要があるのかを検討しました。

視野を広げるために県外の他法人への見学や、研修を行うことで視野を広げ、SWOT 分析を行うことで法人全体へ提言を行うことが出来ました。

就労移行支援の利用者の方たちへのアンケート調査は本年も継続するとともに、新たに就労継続 A 型・B 型の利用者の方へもアンケート調査を行いました。就労移行で受けた訓練は実際の仕事に活かされているかを検証すると共に、就労継続支援の利用者の方の状況を把握し、障がいがあっても働きやすい環境を構築していくための一歩を踏み出しました。

2 平成 27 年度の課題・今後の方針

平成 27 年度を通じて、今後の方針を次の 3 点に整理しました。

- ① 支援体制のモデル化と訓練プログラムの整理
- ② 実習中心の取り組みへの移行
- ③ 幅広い利用者層への対応

「支援体制のモデル化と訓練プログラムの整理」としては、利用者の層が変化したことに伴い、職員の業務はより煩雑化していました。そこで、利用者層に合わせながら、支援体制のモデル化と整理された訓練プログラムをバランスよく運用する必要性が高まっています。支援体制として、1) インテークから利用開始、2) 就労準備性を高める訓練、3) 実習、4) 就職活動・定着支援をより効果的に運用するために次年度はそのモデル化を行います。

また「実習中心の取り組みへの移行」として、施設内の訓練からより実践的な実習の場への早期からの移行です。そのためには、実習初期における法人内実習（A 型 B 型事業）の活用、そして、利用者の希望や適性、特性に合わせた外部実習先の開拓を行うことが必要です。これまで以上にその仕組みづくりを進め、十分に機能することにより、就職者数の増加や就労の定着を目指します。

最後に「幅広い利用者層への対応」です。現在利用している方は、通所日数や就労準備性が人によって大きく異なることから、1 つの事業所の中で、個別対応や訓練の多様化により対応せざるを得ませんでした。これは利用者にとっても 2 年間で十分な効果を出すことが難しくなるだけでなく、運用する職員にとっても負担となります。そこで、ステップアップの

仕組み（事業所）を作り、支援の効果を上げる事や同じ課題に取り組む雰囲気を作る事をめざします。具体的には、平成 28 年度に自立訓練事業を開始します。就労の前段階の方に対する支援を手厚く行うことが可能になり、就労の基礎支援から実践的な支援まで、支援の内容を分けることもできます。

今後、さらに広がる事業展開と合わせて、放課後等デイサービス／自立訓練等から就労移行を利用する仕組みづくりやそれぞれの支援の向上をめざし、平成 28 年度も取り組みを継続していきます。

訓練プログラムの紹介

ぷろぼのグループの訓練プログラムは、「自己理解」、「訓練・実習」、「就職活動」の 3 つの要素から作られています。それぞれの要素は「働き続けるための基礎作り（トレーニング期）」、「自分に合った仕事への挑戦（チャレンジ期）」、「働き続けるための相談・調整（マッチング期）」の時期に分けられ、互いに関連し合いながら進んでいきます。技術習得や、作業力を高めていくことも訓練のひとつですが、すべての訓練プログラムで、報告・連絡・相談や挨拶などのビジネスマナーを実践しています。なるべく職場に近い環境で訓練を行うことで、職場のイメージを持ちやすいようにしています。

IT 基礎 （トレーニング期）

1) 訓練の目的

- ・パソコンの基本操作や Word、Excel などの Office 系ソフトの技術習得をすること

2) 到達目標

- ・ Word、Excel 等のテキストが終了すること

3) 対象者像

- ・ パソコンを使用した仕事を希望する方
- ・ パソコンの知識が必要な方



4) カリキュラム詳細

パソコンの基本操作や Word、Excel の基本操作は、テキストに沿って学習を進めます。ビジネス文書やチラシ、表やグラフが作れるようになれば一般事務の仕事に役立ちます。事務の仕事でなくても、出退勤や伝票、業務記録をパソコンで入力することもありますので、パソコンに慣れておくと選択の幅が広がります。

Word、Excel の基本操作の学習を終えると、希望に応じて P 検の学習ができます。P 検は OS やネットモラルなどの科目もあり、パソコンのことを総合的に学ぶことができます。また、合格すると履歴書に書くこともでき、アピールになります。

5) 工夫

基本的にテキストに沿って行い、分からないことがあれば職員に質問をする自習形式で行っています。テキストを読み進めることが苦手な人には、見本通りに仕上げることを課題とするなど、個々に合わせて訓練を進めます。

IT 応用 （トレーニング期）

1) 訓練の目的

- ・ Web 作成言語である HTML や CSS を使用し、コーディングの技術を習得すること
- ・ イラストレーター、フォトショップの操作方法を習得すること

2) 到達目標

- ・ HTML、CSS を使用し、ホームページを作れるようになること
- ・ イラストレーター、フォトショップの基本操作ができること

3) 対象者像

- ・ コーディング、グラフィックデザイン、Web デザインの知識を深めたい方
- ・ その仕事を目指す方

4) カリキュラム詳細

テキストで基本的な知識・技能を学習し、基本的なスキルを学習・習得します。その後、実際の仕事に近い課題に取り組むことやホームページ制作にかかわる法人内の部署で実習することで実践的な経験を積み、スキル向上を目指します。



5) 工夫

テキスト学習で足りない部分は、事業所ごとのオリジナル課題や、実践に近い画像処理、DTP デザインの作品制作等を行います。また、法人内の Web・デザイン関連業務を行っている部署に「実習」として制作活動に参加し、知識や実績を積むことができます。

チャレンジプログラム （トレーニング期）

1) 訓練の目的

- ・ 得意なことと苦手なことを知り、自己理解につなげること

2) 到達目標

- ・ 自己整理シートを完成させること

3) 対象者像

・訓練生 全員

※訓練の積み重ねによる課題への取り組みが可能な方

4) カリキュラム詳細

パソコンを使つての入力作業（文章入力、アンケート入力）や手作業（単純作業、組み立て作業など）があり、どの作業も何度か繰り返し行います。一つの作業終了後には、作業をして感じたことなどを振り返ります。上手くいったことはそのまま継続するようにし、上手くいかなかったことは、どうすれば上手くいくのかを職員と一緒に考え、その工夫を次の作業で試します。「作業をする → 振り返る」の流れを繰り返し、自分の変化や経験を「自己整理シート」にまとめます。得意なことやできることは就労上のアピールポイントとして整理し、苦手なことは本人が工夫することと、回避すべき職種・業種や職場環境、職場における配慮点として確認します。



5) 工夫

訓練生の障がい特性や経験によって、指示書やマニュアルを作成するなど、本人にとって未経験や苦手なものであっても挑戦しやすいようにしています。また「自己整理シート」は、履歴書や職務経歴書を作成する際にも活用し、必要に応じて応募先にも提出できるように仕上げることを心がけています。

グループワーク（トレーニング期）

1) 訓練の目的

・グループで協力して作業することを通じて個人の課題に気づき、取り組むこと

2) 到達目標

・集団活動内での自分の特徴に気づき、自分なりの対応がとれるようになること

3) 対象者像

・訓練生 全員

※訓練の積み重ねによる課題への取り組みが可能な方

4) カリキュラム詳細

数名一組のチームで、チームの目標に向かって協力して作業をします。「話し合い・計画」→「作業」→「振り返り」の流れに沿って進めます。その過程で、自分たちで考えメンバーと話し合い、共同で作業することで自ら成長する力



を引き出します。作業を通じ、他人との関わり方、仕事の分担の仕方などを練習します。

5) 工夫

取り組み内容は事業所によって異なります。卒業生をもてなすための料理を作ったり、他法人様と連携してパンの店頭販売を行ったりしています。また、事業所の外へ出てカフェでの接客を行うなど、地域と連携して行う場合もあります。

ワークプログラム（トレーニング期）

基礎訓練を終了した方が法人内・企業実習に行く前段階として、仕事に近い形の作業を事業所内で行う訓練です。職場を想定した、より実践に近い形の指示を受け、期日の定められた作業を行います。また、チャレンジプログラム等を通じて整理した「得意なこと」「練習すること」「苦手なことへの工夫」を意識しながら、訓練と実際の仕事のギャップを少なくすることを目指して訓練を行います。事務や軽作業等、それぞれの仕事で求められる作業力を身に付けることが目的ですが、「仕事として続けることができるのか」といった、適性を見極めることも目的のひとつです。

事務ワークプログラム

1) 訓練の目的

・一般事務職で求められる作業力をつけること
・一般事務職を目指せるかどうかを見極めること

2) 到達目標

・事務知識・作業力を習得すること



3) 対象者像

・IT 基礎終了後、事務系の仕事を希望している方

※パソコンの基礎知識のある人は、IT 基礎と並行して参加可能

4) カリキュラム詳細

一般事務職を目指している方が、コピーやファイリング、在庫管理、イベントチラシ作成、電話応対、湯茶接待など、一般事務での基本的な作業を学ぶプログラムです。パソコン訓練（IT 基礎等）では指示が1つずつ出されて順番にこなしますが、一般事務では電話応対や来客対応など、急に入ってくる作業があり、自分で仕事を管理する力や応用力、臨機応変に対応する力が求められます。

5) 工夫

事業所内の事務仕事を訓練用に切り出して、実施することもあります。実際の仕事に触れることで、意識や作業力を高めることができますようにしています。

作業系ワークプログラム

1) 訓練の目的

- ・練習ワーク： 作業系を仕事として目指せるかどうかを見極めること
- ・実践ワーク： 作業系の仕事で求められる作業力をつけること

2) 到達目標

- ・練習ワーク： 職業適性に気づくこと
- ・実践ワーク： 作業系の仕事に必要な、協力して一緒に作業をするために必要な声掛け、周りを見ることができるようになること

3) 対象者像

- ・練習ワーク： 体験期間、利用開始すぐの方
- ・実践ワーク： 作業系を仕事として目指す方

4) カリキュラム詳細

各事業所によって取り組んでいる内容は異なりますが、法人内の働く場である就労継続 A 型・B 型事業所の仕事をする中で経験を積む「実践ワーク」と、その前段階である「練習ワーク」があります。



5) 工夫

数名で作業に取り組むことで、他者と協力する経験を積むことができます。また、職員を上司と設定することで、職場での適切なコミュニケーションの練習の機会にもなるようにしています。

ビジネスマナー（トレーニング期）

1) 訓練の目的

- ・職場に必要な立ち振る舞いやルールを知ること

2) 到達目標

- ・基本的なビジネスマナーに沿った行動がとれる、または意識することができる

3) 対象者像

- ・訓練生 全員
- ※ビジネスマナーに関する知識が必要な方



4) カリキュラム詳細

オリジナルテキストによる講座を行います。具体的な内容として、挨拶やお辞儀、敬語、報告・連絡・相談の仕方、身だしなみ、メモの取り方などの職場に必要な基本的なマナーを学習します。応用的な内容として、電話応対や来客対応などの学習をすることもあります。講座で学んだことを実際に体験してみるロールプレイも織り交ぜながら、6～10回を1クールとして行います。必要な方には2クール目以降も参加していただき、繰り返し学ぶ機会を作ることもあります。

5) 工夫

参加する訓練生の就労経験や、障がい特性を踏まえたうえで、オリジナルテキストに加えて補足の資料や動画を使うなど、実際の場面を想像しやすいようにしています。

コミュニケーション訓練（トレーニング期）

1) 訓練の目的

- ・職場で人間関係を円滑にするためのコミュニケーションの取り方を学ぶこと

2) 到達目標

- ・職場で人間関係を円滑にするためのコミュニケーションの取り方を意識できる、または実践できること

3) 対象者像

コミュニケーションに苦手意識がある方

4) カリキュラム詳細

講義とロールプレイを織り交ぜ、6～10回を1クールとして行います。参加する訓練生の就労経験や障がい特性により、内容は異なります。相手に不快に思わせない伝え方や、自分の気持ちも相手の気持ちも大切にしたい伝え方を、具体的な場面を通じて練習する「アサーション」や、基本的な日常会話に焦点を当て、ロールプレイや場面設定をして練習する「SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）」があります。

5) 工夫

実際に行動に反映しやすいよう、困ったことがある具体的な場面を取り上げて練習しています。必要に応じて、ゲームなどを用いて練習することもあります。



ジョブガイダンス（トレーニング期）

1) 訓練の目的

- ・就職活動に必要な準備を知ること

2) 到達目標

- ・履歴書・職務経歴書のたたき台が完成すること
- ・面接で「長所・短所、自己PR、障がい特性、配慮事項」が言えるようになること

3) 対象者像

- ・訓練生 全員
- ※一般就労を目指している方

4) カリキュラム詳細

オリジナルテキストを使用し、障害者雇用と一般雇用の違いや手帳制度、就労時に得られるサポートなどを学ぶことで、就職活動に向けて自分がどのように働きたいのかを考えます。また、就職活動のためにハローワークの利用の仕方や求人票の見方などを学びます。講座を通じて自分の長所や短所を考えて整理し、履歴書を作成し、面接練習に向けた準備も行います。

5) 工夫

参加している訓練生の経験などに合わせ必要に応じて、働くことの意味や、障がいのある方の働き方などを学ぶこともあります。働きながら生活をするといった「働いている自分」のイメージ作りをし、それを実現するための具体的な道のりを想像しやすいようにしています。



面接練習（チャレンジ期）

1) 訓練の目的

面接に慣れること

2) 到達目標

障がい特性、自己PR、長所、短所を言える

3) 対象者像

- ・チャレンジプログラムによる自己整理シートが完成している方
- ・面接を通じた就職を目指す方



4) カリキュラム詳細

就職活動を控えた方や就職活動中の方を対象に行っています。職員が面接官役を行い、訓練生が順番に面接を受ける練習を行います。自分の順番でないときも、他の参加者の様子の様子を見てアドバイスをし合います。時には、面接官役を訓練生が行うこともあります。自分が実際に面接官をすることで、どのような点に気がつけたら良いか新しい発見にも繋がります。

具体的な練習内容としては、入退室の仕方・かばんやコートの持ち方・挨拶の仕方といった面接時の立ち振る舞いから、着席後の受け答えまで、繰り返し練習します。「長所」、「短所」、「自己PR」など採用面接でよく聞かれる質問に答える練習をします。繰り返し行うことで、面接に慣れることを目指します。

5) 工夫

面接を受けているところをビデオで撮影をするなど、自分がどんな立ち振る舞いをしているかを客観的に確認しやすいように工夫しています。

内部実習（チャレンジ期）

1) 訓練の目的

- ・「働く」ということに対する、具体的なイメージを作ること
- ・訓練で習得したことを実際の職場で試すこと

2) 到達目標

- ・職場における個々の課題について取り組み、適切な対応がとれること

3) 対象者像

- ・訓練生 全員

4) カリキュラム詳細

当法人内の働く場である、ITセンター奈良や、ITセンター大和八木での実際の仕事を「実習」として行います。期間は個々に合わせて、短期または長期の実習が可能です。

5) 工夫

働く場の職員と訓練の場の職員、お互いに連携を密に取りながら、訓練生自身が個々の目標に向かうことができるように細やかな支援を行っています。



平成 27 年度システム開発委員会活動記録

| | | |
|---|-----------|---|
| 平成 27 年 (2 0 1 5) | 4 月 | ・ 月次報告書内容検討 |
| | 5 月 28 日 | ・ 平成 26 年度活動振り返り ・ 平成 27 年度計画策定 |
| | 6 月 25 日 | ・ モニタリング・支援計画書実施状況の確認 ・ 評価シートの活用時期について検討 |
| | 7 月 23 日 | ・ 利用終了時の確認事項の検討 ・ Port 評価項目について確認 ・ 今後の支援のあり方について検討 ・ チャレンジプログラム内容の確認 |
| | 8 月 27 日 | ・ Port 評価項目の検討 ・ 月次報告書の活用状況確認 ・ 支援計画書作成の流れについて検討 |
| | 9 月 24 日 | ・ 支援計画書作成の流れについて確認 ・ 個別ファイルについて検討 ・ 訓練内容について検討 |
| | 10 月 22 日 | ・ 個別ファイルの目次検討 ・ 月次報告書内容検討 ・ 評価項目の定義確認 |
| | 11 月 26 日 | ・ チャレンジプログラムについて検討 ・ 今後の訓練の方向性について検討 |
| | 12 月 24 日 | ・ 3 月職員研修について検討 ・ チャレンジプログラム内容の整理 ・ 個別ファイルの活用状況確認 |
| 平成 28 年 (2 0 1 6) | 1 月 28 日 | ・ 利用者アンケートについて内容検討 ・ 個別ファイル内容について確認 ・ 訓練プログラムの現状について確認 |
| | 2 月 1 日 | ・ 特定非営利活動法人クロスジョブ様見学 |
| | 2 月 10 日 | ・ 社会福祉法人すいせい様見学 |
| | 2 月 25 日 | ・ A 型、B 型利用者向けアンケートについて検討 ・ 訓練プログラム体系整理 |
| | 2 月 29 日 | ・ SWOT 分析 |
| | 3 月 3 日 | ・ 訓練プログラムの整理 ・ SWOT 分析資料準備 ・ 職員研修発表準備 |
| | 3 月 11 日 | 職員研修発表 ・ 訓練プログラムについて検討結果の報告 ・ 他法人見学についての報告 ・ 訓練プログラム内容についてグループワーク |
| | 3 月 31 日 | ・ 平成 27 年度事業報告書進捗確認・検討 ・ 平成 28 年度プロジェクトチームについて検討 |

Ⅱ 福祉事業（就労訓練）

生駒事業所

近鉄生駒駅から徒歩5分の場所にあり、3階建てのビルの屋上にはゴリラのオブジェがあります。周囲を生駒山の木々の緑に囲まれ、静かな事業所です。

田舎ののんびりした雰囲気と都会へのアクセスの良さを併せ持つベッドタウンです。

1 大切にしていること

生駒事業所では、体験の中で利用者・職員共に本人に主体性を意識していただくため「自ら考え行動すること」「結果から学ぶこと」を大切にしています。地域のイベントでのブース運営や、音楽イベントへの参加、定期的な物販参加、グループワークを体験する中で、自分自身の気持ち・行動を振り返り、チームでの意見の出し方などに気づき、学ぶことでチームの一体感や働く力を養うことができると考えています。生駒市で障がいのある方が就労を通じて自立することを目指し、地域で誰もが暮らし続けることができる仕組みを実現しようと、地域全体でつながりあい共に考え、協働していくことを目指しています。

2 訓練プログラム

基本プログラム

基礎訓練

IT 基礎、IT 応用（Illustrator、Photoshop、Web クリエイター、PHP、jQuery、HTML など）、会計ワークプログラム、グループワーク

職場体験

リボン内職、奈良クラブグッズ・やまんとお茶発送業務、サイ◇コロブローチ製造、ブックメーカー製造

グループワーク

季刊生駒編集、企画開発（やまんと店頭販売、ネットショップ改善）、調理プログラム、地域イベント参加（いこいこまつり、ららまつり他）

コミュニケーション等

ビジネスマナー、日本語トレーニング、コミュニケーション講座

アセスメント・自己整理プログラム

チャレンジプログラム

特別プログラム

ジルボーノ

調理プログラムを通して、メンバーとコミュニケーションをとりながら作業することを練習します。調理の腕が上がっていき、「おいしい！」のコメントをもらい、メンバーの自信に繋がっています。



日本語トレーニング

報連相は、仕事を円滑に進めていくための基本です。仕事の中で起きそうな場面を設定し、ロールプレイをまじえて練習していきます。誰に何をどういう言い方で「報告」「連絡」「相談」をしたらいいのか、仕事をすすめるうえで誰もがその壁に打ち当たります。就労の際に少しでも不安を取り除き、長く働いていける環境を作るためにも大切な訓練です。また、メモをすばやく正確に取るためにも「書く」作業に慣れておく必要があります。この講座では毎回プリントを用意し、「話す」「書く」両方の作業をします。

ウォーキング・歩く会

朝から活動できる体力を身に着けるため、毎朝、事業所周辺を30分ほど歩いています。生駒は自然も多く、探検気分が味わえます。週末には、生駒市観光ボランティアガイドの方々と一緒に地域を知ることができる歩く会を行い、卒業生も余暇活動として参加しています。

いこマッスル（体力トレーニング）

就職して働き続けられる体力を養おうという目的で週1回水曜午後の時間に体力トレーニングをしています。ここではストレッチ、体幹トレーニング、器具を使ったトレーニング等をしており、参加者それぞれが体重減量や筋力増加など目標を決めて取り組んでいます。最初は体が硬かったり体の使い方がぎこちなかったりした方も、訓練を重ねるにつれて体が柔らかくなっていったり、スムーズに体を動かせるようになってきました。



職場体験・軽作業

職場体験では、内職や ITY で販売しているサイ◇コロブローチ・ブックマーカの製造をしています。

内職では、メダルのリボンの糸処理や金具付けを行っています。以前は金具の不備があったという電話が掛かってくることもありましたが、しかし、訓練生に苦情があったこと、検品を丁寧にする事の大切さを伝え、作業をしていくうちに精度が向上していき、急ぎの仕事も任せてもらえるようになりました。「いつも早く納品してくださるから大丈夫ですよ」と言われると、プレッシャーも感じますが、嬉しくなります。

サイ◇コロブローチ製造のプラ板切り作業は、修正箇所を伝える度に仕上がりきれいにいき、感動しました。ブックマーカ製造では、結び目がきれいにできないことがあるのですが、それがなぜなのか、考え工夫するのが楽しいとおっしゃる方もいます。

新プログラム

企画開発（販売）

チームで話し合っ、意見を考える・意見を出す力、チームワークを身につける目的で、火曜午後は企画開発と販売の訓練をしています。

実際に販売する場を活かして、「商品を企画してイベントで売るにはどうすればいいか」「店頭販売・ネットショップで収益をあげるにはどうしたらいいか」などをグループで話し合います。その後、実践→振り返りをして、より良い方法を皆で考えています。

事業所メンバーへ活動のプレゼンテーションや店頭販売などの場で、自分達で考えたやり方を試してみる事で、より主体的に考えることができ更に積極的に取り組んでいけるように感じます。

地域のイベントに参加したり、月に2回近鉄生駒駅前に出店しお茶の試飲販売会を実施したりしています。また、高齢者施設で、お茶の振る舞いも実施しました。



3 その他の取り組み

地域貢献活動

地域の方々と交流するため生駒駅周辺のゴミ拾いをしています。公共の花壇の維持にも取り組んでいます。

地域の高齢者の方・子育て中の方・障がいのある方へのパソコン講座を開催しています。

地域活動支援センター・日中一時支援

半日のお仕事をされている方、就労を希望されていない方が体調に合わせ、生活の一部として通っておられます。

4 成果と課題

成果

「地域の中で働くこと」をイメージできるように、訓練生・職員がチームとなって生駒市のイベントの運営のお手伝いや、地域で活動するグループワークを実施できた一年でした。

チームとして苦労を共にし、達成感や一体感を共有することは「働く喜び」を体験していただく取り組みになりました。

また、就労された訓練生を対象に定期懇親会を開催し、利用された方から「リフレッシュできました」と好評を得ました。他、短時間勤務の方の活動の場として 日中一時支援事業を開始、一般企業への就職者数は6名あり、訓練生が安心して働き続ける仕組み作りに取り組めた一年となりました。



反省と課題

平成27年度は、訓練生の就職活動が平成26年度よりも増えました。就職活動支援や企業実習支援が充実してきたことで、訓練生の本番への対応力の弱さを克服する訓練が必要であることがわかってきました。

平成28年度は、訓練生がご自身の課題や適性を理解する取り組み、実践的な面接練習などの訓練、企業実習の業種・実習回数をさらに増やして行きたいと思います。

働きたいと思う障がいのある方に向けての情報発信や、地域福祉事業者との連携に引き続き取り組んでいきます。

高の原事業所

近鉄高の原駅から徒歩5分。サントウンアカデミーと同じ建物内にあります。近くには緑豊かな公園があり、事業所内も木目の壁と温かみのあるじゅうたんの床で落ち着いた雰囲気です。訓練を受けることができます。ワンフロアで職員スペースと訓練スペースに間仕切りがなく、職員・利用者の心の距離が近いことも高の原事業所の特色です。



1 大切にしていること

当事業所のテーマは「はたらくを とともに えがく」です。仕事の技術を身につける訓練はもちろん、自分のできることの再発見、人との関わり方、社会で自立するための心構えという「働きつづける」ために必要なことを総合的に習得できるように取り組んでいます。

訓練内容も事業所内に留まらず、自治会の広報配布や夏祭りなどの地域参加の機会や余暇充実のためのイベントを大切に、自分の出来そうなことから始め、様々な体験や経験を積み重ねることで、一人ひとりの「はたらく」を支援しています。

2 訓練プログラム

利用者本人の気持ちを大切にしながら、職員とともに支援計画に沿って訓練内容を選んで取り組んでいきます。

基本プログラム

基礎訓練

汎用性の高いIT技術の習得を中心に、社会人に不可欠なビジネスマナーの習得を行っています。

パソコン基礎操作、Word・Excel・PowerPoint等、パソコン検定、ワープロ検定、会話力の向上、社会人マナー

作業系訓練

IT技術と並んで就労に必要な作業系の訓練プログラムです。

ピッキング、組み立て、LaQプログラム、PC再生部門の消耗品製作

応用訓練

基礎訓練を習得した方を対象に、就労を目指して、より専門性の高い技術習得を支援しています。

ホームページの制作、ビジネスマナー、面接練習、事務訓練、会計入力、簿記

グループワーク

集団での自分の関わり方や、考えの伝え方、個々の役割と協力の仕方などを実践の中で取り組みます。

ココットプチマーケット、青空トレーニング、宅配すし店の箸セット封入作業、自治会活動（夏祭り・広報配布）

アセスメント・自己整理プログラム

自分の特性（得意・苦手）やストレス耐性（好き・嫌い）を整理することで、自分にあった就労を目指します。

チャレンジプログラム

特別なプログラム

プチマーケット「ココット」

焼き立てパンの販売から伝票整理、発注などの店舗運営を訓練生が主体になって行っています。それぞれの役割に責任感を持ちながら取り組み、1日が終了するとメンバーで振り返りを行い、今後の方針などを決めています。

※開店時間 毎週火曜日 11:30～13:30（雨天中止）



青空トレーニング

月2回、自然に恵まれた公園等で、人間性の回復・基礎的な人間力の育成・コミュニケーションスキルの向上を目的に行っています。「陽の光の下で活動する」ことで人間性の回復を目指します。また雨天の場合は季節を感じる工作や飾り付けなどで交流を深める機会を作っています。



みそ汁当番

昼食時に事業所のメンバーとともに食べるみそ汁を、当番の訓練生が調理をします。調理の経験がない訓練生も、職員の見守る中で取り組んで、今では美味しいみそ汁を作れるようになりました。



人生設計を「見える化」

訓練生が自主的に自分の人生と向き合えるよう工夫しています。それが人生設計の「見える化」という取り組みです。将来の夢を画用紙に絵や文字でわかりやすく描きます。それを掲示板に貼り、みんなで共有し自分の人生設計を意識します。

ゆるカフェ

余暇生活の充実をめざし、隔週土曜日に事業所で楽しむ取り組みです。それぞれの趣味を持ち込んだり、ボードゲームをみんなで楽しんだりしています。社会生活のオン・オフの切り替え、オフの過ごし方にもいい効果が生まれています。

ジャグリング

自己肯定感の創出、気分転換、集中力や持続力の向上を目的にしています。ジャグリングは「センスではなく練習量」、積み重ねの成果が結果として表れやすい種目です。自分の特技として身につけると自信にもなります。多くの訓練生が様々な技を身につけました。



新プログラム

ミニビジネスマナー講座

20分程度、毎日少しずつ開催する講座。毎日行うことで意識が高まり、それぞれが実践しています。また内容においても、一般的なビジネスマナーに留まらず、社会における考え方や疑問にも答える講座となっています。



プロ選手による心構えトレーニング

プロでの経験があるサッカー選手による、プロフェッショナルとしての心構え講座。自己の体験に基づいてメンタル面やプロとしての考え方を訓練生にわかりやすく伝えてくれます。この講座の効果として訓練生全体のモチベーションが上がりました。

訓練の個別対応

通常訓練のカリキュラムだけでなく、訓練生本人の希望に沿って意欲を育んだり、あるいは気持ちを整理するために、通常訓練の個別対応も行いました。具体的には、IT上級の訓練での『アナログゲーム作成』や『イラスト制作』、『アプリ作成』、簿記・社労士などの個別学習など、通常訓練の範疇に収まらない形での支援を行いました。

3 その他の取り組み

地域貢献

近隣自治会の市民だより配布

近隣自治会からの依頼で、市民だよりの配布作業を行います。地域貢献活動として訓練生が毎月、交代で作業を担当しています。実際の仕事という意識を持って取り組んでいます。

地元商店街での夏祭り

高の原事業所では年2回、毎年参加させていただいています。事前準備から当日の運営までのほとんどを訓練生の方々が担当します。遊びに来てくれた子どもたちに、優しい表情で話しかける訓練生、接客は苦手だからと裏方の仕事を懸命にこなす訓練生、大仕事の疲れも感じさせないほど、笑顔あふれるイキイキとした夏祭りになりました。



なら風パソコン講座

障がいのある高校生を対象に、WordやExcel、デジカメの画像の取り込みなどパソコン操作の教室を開催しています。NPO法人ITシニア振興会の方に講師に来ていただき、訓練生は講師補助として活躍しています。

4 成果と課題

平成27年度を振り返ってみて、ビジネスマナー講座や心構えトレーニング、訓練の個別対応や面談による支援も含め、訓練生の『ころ』に寄り添う支援を手厚く行えたように感じています。高の原のテーマ「はたらくとともにえがく」に沿った支援ができたことに満足です。

来年度は一段と訓練生の心に寄り添える事業所になるよう、地域に根差してしっかり取り組みます。

新大宮事業所

近鉄新大宮駅から徒歩5分、JR奈良駅から徒歩12分の場所にあります。利用者さんには若い方やお仕事の経験がない方も多く、「働くこと」をイメージしづらいことがあります。「仕事」「働く」とはどういうことなのか感じていただけるよう、できるだけ職場に近い形で訓練を行っています。



1 大切にしていること

仕事を含めて利用者さんがこれからどう暮らしていくか、どんな生活を送りたいかを一緒に考え、実現に近づけていくことを大切にしています。生活するうえで仕事は大きな意味を持ちます。働くことで金銭だけでなく人とのつながりや達成感、自信を得ることができます。そのため「就職すること」だけでなく「働き続けること」も目標に、仕事の技術以外の部分も大切にしています。あいさつ、お礼、謝罪、定時出勤、話を聞く姿勢・態度、言葉遣いなど、どの職場でも必要になることがたくさんあります。「職場では教えてくれないけれど求められること」を学んでいただけるようにしています。

また、「働きたいけれど何ができるかわからない」という方には、自分にできる仕事の整理や、働く条件、何のために働くのかといったことも一緒に考えていきます。いろいろな経験をし、知ることで将来について具体的に考える力になればと考えています。

2 訓練プログラム

利用者さんのニーズや障がい特性に合わせて、相談しながらその方だけのカリキュラムを組んでいきます。ご本人の状況に合わせて柔軟に対応しています。

基本プログラム

基礎訓練

IT 基礎（パソコンの基礎知識、Word・Excel）、ネジ組立、LaQ 組立

事務系応用訓練

IT 応用（HTML、CSS、Photoshop、Illustrator）、
会計ワークプログラム、一般事務ワークプログラム

作業系応用訓練

ピッキング、メモリ仕分、タッパ分解、
ブックメーカー製造、
サイ◇コロブローチ製造

講座等

ビジネスマナー、アサーション、
社会人基礎講座、金銭管理講座、
面接準備講座、面接練習

グループワーク

料理、利用者ミーティング（月1回
テーマについて話し合い、発表）

アセスメント・自己整理プログラム

チャレンジプログラム

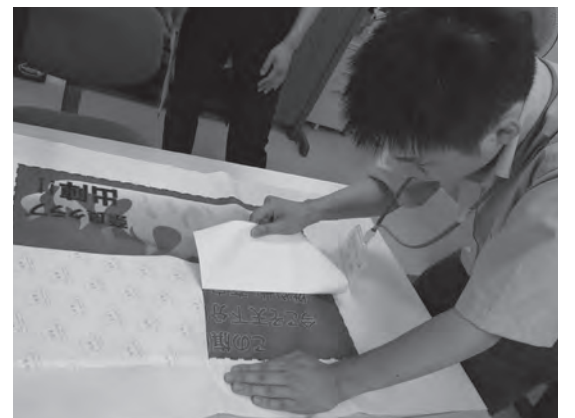
1ヶ月の振り返り

月末にその月の振り返りをしています。振り返りの後は「ちゅらライフ」を作成して発表します。「将来の夢」「住んでみたいところ」「尊敬している人」など、毎回変わる3つのテーマについて画用紙に書いていただきます。一人ひとり発表していただくことで、お互いの理解やモチベーションを高めることにつながります。

特別なプログラム

ゼミ

新大宮事業所独自のプログラムです。通常訓練では指示された内容に個人で取り組むのに対し、ゼミではグループで自由に考え、試行錯誤しながら自分たちで一つのものを作り上げていきます。大道芸、アプリ制作、ホームページ制作などの大枠は決まっていますが、どんな内容にするかは自由に話し合って決めます。3ヶ月程度の期間でスケジュールを組み、最後の発表に間に合うよう協力して作業を進めます。期限に間に合いそうになかったり、意見がぶつかったりすることもあります。困難を乗り越えて完成させた作品はとても素晴らしいものばかりです。発表の時には大きな達成感が得られ、毎回笑顔にあふれています。



当番

事業所内の仕事をシフト制で担当していただいています。朝礼当番、給食準備当番、みそ汁作り、買出しなどがあります。責任を持って仕事に取り組むことや、協力して仕事を経験していただくのが目的です。用事で当番に入れない場合には、誰かに仕事を頼む練習にもなります。

基礎力

仕事では、はっきりとは教えてもらえないけれど、できて当たり前と思われている技術があります。などがそうです。社会人経験が少ない方を対象に、紐で雑誌をまとめる、紙をクリップで留める、ファイリング、定規で線を引く、切る、貼る、結ぶ、数える、縛るなどの基礎的な作業を1つずつ具体的に指示して練習していただいています。

3 その他の取り組み

イベント

仕事だけでなくいろいろな体験をして楽しんでいただくことや、卒業しても気軽に遊びに来られる事業所を目指して様々なイベントを開催しています。夕べの集い（夕食会）、初詣、お花見、BBQ、夏祭り、燈花会、ハロウィン、クリスマス、奈良クラブ応援プロジェクト、カラオケ、映画鑑賞などがあり、季節のイベントも大切にしています。



地域貢献

月2回ボランティアで花壇の手入れやゴミ拾いをする「さわやかクリーン奈良」や、地域の方を対象にした初心者向けパソコン講座「なら風パソコン講座」の指導補助を行っています。



4 成果と課題

成果

福祉 3R センターのメモリ仕分作業、IT センター大和八木の商品製造作業を受託することで、実際の仕事を事業所内で体験できるようになりました。また、基礎訓練から応用訓練に移る際には、簡易履歴書を準備していただき面接を行うことで、面接→就職→働くというイメージが作れるようにしています。基礎訓練で力がついたら応用訓練で実践する、というステップをわかりやすくしました。



ゼミや当番で誰かと協力して作業する場面では、一緒にいる時間が増えることで、お互いの知らなかったことが見えてくるようになりました。仲間意識と共に、自分にできることを考える、人に頼む、任せる、責任感を持つ、等の力が高まっています。

課題と改善について

基礎訓練と応用訓練を分けたことで以前よりも職場に近い雰囲気が増しているのですが、訓練ということでどうしても緊張感が薄れていくときもあります。平成 28 年度はできるだけ多くの職場を知っていただけるよう、各部署と連携して職場体験や職場実習を増やしていきたいと考えています。実際の仕事を体験して見えてきた得意な部分や課題については、訓練で集中的に取り組めるよう今のプログラムを洗練していきます。

大和八木事業所

近鉄大和八木駅から徒歩7分、八木西口駅から徒歩3分のかしはらビルの6階にあります。事業所からは大和三山が、遠くには二上山が見えるなど、見晴らしが最高です。近所には今井町やおふさ観音、耳成山などの観光スポットや自然もあり、ゆったりした環境です。平成24年4月にオープンし、今年で5年目になります。

1 大切にしていること

大和八木事業所では“チームでの動きを大切にし、思いやりを持って働けるようになる事”が大切と考えています。困っている人がいれば「声を掛ける」、「助け合う」など訓練生同士が周囲の状況を見て気付いて動けるようになることで、事業所の雰囲気も良くなります。メンバー同士の結束力も強まります。そして対人関係を良好に保てる力を身に付けることが就労し続ける力に結び付いていくと思っています。

2 主な訓練プログラム

トレーニング期

パソコン訓練

パソコンの基本操作（Word・Excel 基礎）、
P 検、パソコン応用訓練（Word・Excel・
Photoshop・Illustrator・HTML）、

軽作業 WP

ヨモギ封入作業、ブックマーカー製造、
サイ◇コロブローチ製造

コミュニケーション講座

ビジネスマナー講座、アサーション講座

アセスメント・自己整理プログラム

チャレンジプログラム

グループワーク

接客訓練、演劇、調理



チャレンジ期

- ・事務ワークプログラム
- ・農作業
- ・面接練習&ジョブガイダンス
- ・施設外就労（イベント21様にて）
- ・ITセンター実習



マッチング期

- ・就職活動（HW 同行）

特別プログラム

・グループワーク

大和八木事業所では、“チームでの動きを大切にし、思いやりを持って働けるようになる事”を普段の訓練から実践してほしいということで、調理班、演劇班、カフェはる班のいずれかのグループワークに参加していただいています。

調理班は1ヶ月に1回利用者全員分の昼食を作ります。メニュー決めから買い出し等まで全て自分たちで計画を立てて進めて行きます。デザートとして提供したクレープに砂糖と間違え塩を入れてしまうという、マンガのような失敗をしてしまうこともありました。必ず美味しく仕上げるということが目的ではなく、次回、同じ失敗をしないために皆で対策を考えていくことが大切だと考えています。

次に演劇班ですが、演劇というと舞台上に立って劇をするというイメージを多くの方が持つと思いますが、演劇班では「インプロ（即興劇）」を行っています。ここでのルールは「決して相手を否定しない」、「素直に自分の気持ちを表現すること」です。身振り手振りで表現したり、ジェスチャーをしたり、咄嗟の振りに対応しないとイケないため、開始当初はほとんどの方に恥ずかしさがありぎこちなかったのですが、回を重ねる内に生き生きと自分を表現できる場に徐々に変わりつつあります。

最後にカフェはる班ですが、これは平成26年12月から週1回10時～14時で接客事業として始めたものを、平成27年1月よりグループワークの一環として行うようになりました。お客様が少ない時は訓練生が積極的に店頭で呼びこみをしたり、オーダーの聞き方やコーヒーの出し方などのシミュレーションをすることで来て下さった方がどのようなサービスを受けると嬉しいかを皆で考える、実践する場になっています。



また、平成 27 年度は地域との関わりにも重点を置き「着物ジャズ 2015」や「愛宕祭り」、「はならあと」等の地域でのイベントにもカフェはるとして出店したり、独自イベントとして「節分イベント」や「ヨモギ餅つきイベント」等を開催したりと、多くの方が足を運んでくださいました。



施設外就労

株式会社 イベント 21 様

平成 27 年 1 月 7 日に実習先として連携を開始してから 1 年以上が経ちました。

社員さんとの連携を密に取ることで、何か問題が生じればその都度早期解決を行うことができます。それによりミスはほとんどなく作業速度も上がったことで社員さんとの信頼関係を築いていくことができました。作業速度が上がったことで任せていただく仕事も増えています。

現在行っている作業は大きく分けて、レンタル商品の発送準備、使用された商品のメンテナンス作業、看板製作作業になります。その他にも、しわになった紅白幕のアイロンがけ、運送会社やお客様への対応など様々な仕事を任せていただいています。任せられる仕事が増え、実際の仕事を自分たちで行うことは大きな責任もかかってきます。しかし、その緊張感の中で作業を行うことで精神面が鍛えられ大きな成長に繋がります。

また、訓練では協力作業が多くあり、全員が声かけを心がけ安全かつ速やかに作業を行っています。お互いに協力して作業をすることで相手の気持ちを考える力を養っていきます。そして効率よく動くにはどうしたら良いか考え、改善点があれば提案したりと一人一人が真剣に作業に取り掛かっており、着々と一般就労に向けて力をつけていっています。



5 成果と課題

成果

「ワンポイントビジネスマナー」と題し、毎日昼礼時に 1 週間を通してのテーマを設定し、社会人になった時に知っておくと得する話やマナー、面接練習を実施しています。挨拶の方法やメモの取り方を毎日伝えることで普段の訓練でも意識するようになりますし、面接練習は沢山の方に見られながら行うため、度胸が付きます。入退室で乱暴にドアを開けていた方が、反復することで美しい所作をいつの間にか身に付けているということもありました。

大和八木事業所の成果としても一つ挙げる事ができるのが、IT センター大和八木や施設外就労先との連携です。同じビルに就労継続 A 型 B 型の事業所（働く場）があるため、事務関係の実習先が常に確保されていることに加えて、施設外就労として軽作業系の仕事や農作業を体験できる訓練があるなど実践に近い環境が用意されていました。面談で「一度挑戦してみよう」という話になればスムーズに次の段階（トレーニング期からチャレンジ期）へ移ることができます。そうした点で、平成 27 年度は、訓練生がどのような方向性で仕事選びを進めていくかを考えていく仕組みができた 1 年であったと思います。

見えてきた課題と改善計画

平成 27 年度の成果としてスムーズなチャレンジ期までの移行の仕組みが出来たにも関わらず、そこから先の支援で結果が残せない年だったと考えています。一般就労へ繋がった方が平成 26 年度よりも減ってしまったという点では、数カ月先の動きを見据えての行動がとれていなかったことが原因と考えられます。また、訓練生同士で仲が良くなり過ぎて大和八木事業所が“心地よい空間”になり過ぎ、それと比例し皆の就労意欲が低下してしまった部分もありました。今後は、仲良しグループにならないようもう少し緊張感を事業所にも取り入れていきたいと思っています。

就職支援セミナー

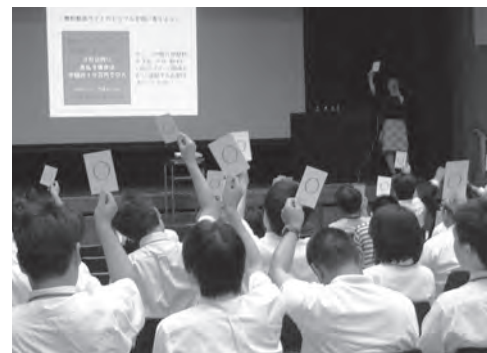
訓練では得られない「就業に関連するスキルや知識」、「生活するうえで知っておいてほしいこと」等にスポットをあて、「就職支援セミナー」と題して定期的に外部講師をお招きし、講演を開催しました。訓練生だけでなく、卒業生や保護者の方にも参加いただきました。

実施実績

金銭トラブルに巻き込まれないために

講師：奈良市消費生活相談センター様

キャッチセールス、悪徳商法、契約におけるトラブルなど生活の中で金銭に関するトラブルに巻き込まれないようにするために予防策と解決方法を教えていただきました。



身だしなみセミナー

講師：資生堂販売株式会社様

第一印象は最初の3秒間、そのうち55％は見た目で決まる！社会人として恥ずかしくないように清潔感溢れる服装や整容について、男性と女性に分かれ、実技をしながら、気をつけるポイントを教えていただきました。



接遇セミナー

講師：ホテル日航奈良様

社会人として周りの人に接する上で必要となるビジネスマナーやそのための心構え、どんなところに気を付ければよいかなどについて講演していただきました。



社会で働く人材として、今必要なこと

講師：シャープ特選工業株式会社様

特例子会社の指導員の方から、就職した人がどのように働き、どんなサポートを受けているのかについて、また、そこで働いておられる障がいのある方にも登壇いただき、働き始める前にどのようなことを身につければよいのかなどを教えていただきました。



インターネットトラブルとマイナンバー制度について

講師：奈良市消費生活相談センター様

インターネット上で発生しうるトラブルに巻き込まれないために気をつけるべきポイント、予防策や解決方法について、また、マイナンバー制度によって生活・仕事はどう変わるのか等について講演していただきました。



ライフプランとお金について

講師：奈良県金融広報委員会様

生活に必要な金銭管理、貯金、分割払い、また「ライフプラン」についてワークショップ形式で教えていただき、金銭管理について意識を高めることができました。



歯と運動セミナー

講師：奈良市保健所様

健康維持のために重要な歯磨きと日々の運動について実技を交えながら教えていただきました。

エチケットとして重要な口の手入れ、簡単にできる筋トレ等健康管理の重要性を改めて認識することができました。



就職支援機関の役割について

講師：奈良障害者職業センター様、なら中和障害者就業・生活支援センター ブリッジ様

地域の中で、自立した日常生活や社会生活が出来るよう支援をして頂ける専門機関の方から、就職に向けての支援や、就職後も職場や日々の生活の中で、安定した生活を送るために、どんな支援を受ける事が出来るのかなどについて教えていただきました。



Ⅲ 就労事業（働く場づくり）

IT センター奈良

IT センター奈良では、ソーシャルインクルージョンの理念から、障がいがあり、働くことに配慮が必要な方々に対して、健康で文化的な生活を実現する手段として仕事の場を創設しています。平成 28 年 4 月現在、就労継続支援 A 型のサービスを受けている方は 15 名、就労継続支援 B 型のサービスを受けている方は 18 名です。今後さらにスタッフ数を拡大していきます。

一人ひとりの体調を保ち、心のケアに配慮し、その人が持つ可能性を引き出すことを大切にしています。仕事を通じキャリア形成や生きる力の向上、そして働きたい気持ちを何よりも大切にする職場づくりを目指しています。

IT センターは、就労移行支援事業で一定の訓練を終了し、職業準備性（仕事につくための力）の整った方が、福祉的な配慮を受けて働くことができる職場です。また就職前の実習生を受け入れて、実際の仕事をする中で、働くイメージをつくりあげるための支援もしています。

福祉サービス事業所名

- ・就労継続支援 A 型事業：IP Factory ぷろぼの
- ・就労継続支援 B 型事業：SC ファームぷろぼの

1 福祉 3R センター事業

使用済みの OA 機器を少しでも再活用し社会に貢献していく公共性と、障がいのある方が専門的な技術を習得することで就労を支援し、社会的自立を促すことを方針としています。パソコン再生やパーツ再生作業などの実績や経験を増やし、ソーシャルビジネスとしても成長を図っています。

3R センターの取り組み

平成 27 年度は、就労継続 A 型利用のスタッフ 2 名をリーダースタッフとし、工程管理業務の権限移譲を進めました。各工程の作業状況を明確に把握できる業務システムに、案件管理・品質管理を行える機能を加える事で、自立して職務を行える環境整備を行いました。

結果、職員は新たな営業や開発が出来るようになり、様々な事業展開が可能になりました。



パソコン再生販売 パーツ再生販売

1. 市場価値の下落に対応するため、以前は廃棄していたパーツ 6 品種を新たな商品として取り扱うようになりました。仕入た商品の付加価値を上げ、収入につなげることができました。

2. パソコン本体の販売を開始、販売ルートは Amazon にも拡大するとともに、取引先企業を 5 社に増やし在庫が常に回転できる状態となりました。

3. 在庫管理システムにバーコードを導入、全体の作業精度向上に成功しました。在庫数や型番に加え商品の写真登録を行い、初めて商品を見る方でも作業定着が速くなるように工夫しています。全 2000 種ほどある在庫棚から 1 商品をピッキングする為に、スマートフォンを使ったロケーション誘導を行えるシステムを構築しました。



・海外戦略

平成 27 年度より、発展途上国の学校へパソコンを寄贈するプロジェクトを立ち上げました。貧困や格差によって教育・就労の機会を得る事が出来ない人々のために、初等から中等教育の過程において、コンピュータやインターネット技術を格差なく学習できる機会を支援していきます。NPO 法人 Class for Everyone 様の「途上国への平等な教育機会を」という方針に賛同し、連携させて頂くことになりました。

この取り組みを奈良県「子どもと大人でつくる地域のつながり事業」として、「こどもとパソコンの大冒険記」と題して奈良市の小学生・中学生・スコラ事業利用者を対象に、イベントを行いました。フィリピンの図書館へ 3 台、カンボジアの中学校へ 3 台を寄贈、活動の成果を届けることができました。

（協力：NPO 法人 Class for Everyone、エコネット株式会社）



マテリアルチーム

IT に特化した新たな事業展開を模索、創造・開発を目的として活動を始めました。未来の社会に必要な仕事として、プログラミング制御の新規事業化を考えています。背景には、文部科学省の新学習指導要領において、2012 年から中学校の技術家庭科では「プログラムによる計測・制御」が必修科目となっているところにあり、これは IT エンジニア不足が深刻化していることを意味しています。

また、10 年先の社会に必要な仕事の開発や必要な人材の育成に取り組み、未来の障害者就労のモデルを奈良でいち早く開設、キャリア教育を学んだ生徒の就労の場を確保し未来の社会造りを提案していきます。

平成 27 年度は、3 つのプログラムに取り組みました。

「Pepper」の受付 / 事務業務開発を始めました

法人の新たな技術への挑戦として自立型ロボットでの業務用アプリの開発を進め、知識や経験を法人内外に提案していこうと考えています。

平成 28 年度は福祉ビル 1F 受付に配置し各階へ自走して案内すること、研修やプレゼンでの活用することを想定し、音声による対応が可能な段階まで開発が進みました。



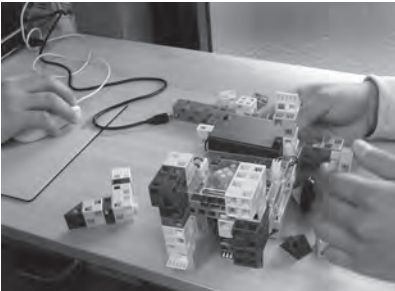
サイボウズ社「kintone」を活用した、事務効率の向上を図る為の検証を行いました

平成 28 年度から本格運用していきます。従来のデータベースは技術者が開発していく専門的知識が必要でしたが、「kintone」は事務分野の職員が手軽にアプリ作成できる点が特徴です。

「NPO 法人のためのクラウド活用セミナー」にて請求データの統合、奈良クラブ事務ルーチンの改善について報告させて頂きました。（協力：サイボウズ株式会社）

スコラ向けプログラミングカリキュラム開発を始めました

コンピュータ教育が学校にどんどん導入され CS（コンピュータ・サイエンス）などのプログラミング教育が重視されています。将来、学校の学習内容は高度複雑化し、障がい児と健常児との教育格差がますます拡大すると考えられます。プログラミング教育は単に技術力向上のためではなく、思考力・判断力・表現力を身につけ論理的思考力を育みます。障がい児にとっては感覚の統合へのアプローチとしても期待できます。



八木スコラ事業所、生駒スコラ事業所にて、「ロボットを動かそう！講座」を開催、チームに分かれ、アイコンを使ったプログラミングでロボットの前進・後退を体験、チーム対抗ロボコンを行いました。規定位置までロボットを動かしブロックをコース外に出す課題をチームで楽しんで取り組んでいました。独創性や論理的な課題解決の方法にはとても驚かされました。このプログラミングカリキュラムには、落第者がでないという利点があるので、誰でも個々の到達点に向けて学ぶ事が出来ます

（協力：シスコシステムズ合同会社、Mozilla Japan、株式会社アーテック、NPO 法人 AtoMs 奈良教育付属中学校、奈良工業高等専門学校）

CSR

3R センター発足時より社会貢献活動から始まり、再生作業など障がい者の就労支援に貢献してきました。事業は成長を重ね 3R がスタッフと共に社会貢献活動を行うまでに達し、ビジネススペースに社会貢献の仕組みを備え、スタッフが参画し仕事に価値観にも成長がみられてきました。

不要になったパソコンを再生する事で海外へのゴミ流出を抑え、再生した機器は福祉的に活用されてきました。平成 27 年度は海外の発展途上国へ寄贈、貧困による教育格差に対し、教育と就労の機会を支援してきました。

未来のために地球にやさしい循環型の社会を築けるモデルとして、CO₂ 排出量を計算しました。

再生 PC 1,641 台 再生基盤 1,838t 削減 CO₂ 40,272t

合計 CO₂ 排出削減効果量 = CO₂ 排出削減効果値 × 物量
（「第 2 章 ICT 分野における CO₂ 排出量及び CO₂ 排出削減効果」総務省より）

27 年度 CSR 活動一覧

| | | 活動内容 | 協賛 | 寄贈先 | 台数 |
|---------|------|---|--|----------------------------|-------------------|
| 平成 27 年 | 4 月 | OGBC 寄贈プログラム | 大阪ガスビジネスクリエイト様 オージス総研様 | 福祉施設 6 団体 | 17 台 |
| | 6 月 | Class for Everyone 主催 再生作業イベント | NPO 法人 Class for Everyone 様 シスコシステムズ合同会社様 藤野電力様 | 発展途上国（国未定） | 40 台 |
| | 7 月 | 奈良東養護学校 タブレット端末 寄贈プログラム | オージス総研様 | 奈良東養護学校 | 20 台 |
| | 8 月 | 「こどもとパソコンの大冒険記 ～奈良から海外へ～」 海外寄贈プログラム | NPO 法人 Class for Everyone 様 エコネット株式会社様 | イベント開催 対象：一般小中学生、スコラ利用者 | - |
| | 9 月 | 第 6 回大阪ガスグループ はじまるくん寄贈プログラム | 大阪ガスグループ様 13 社 2 団体 | 近畿二府四県 福祉施設 121 団体 | 140 台 (内 80 台) |
| | 10 月 | 新日鉄住金寄贈プログラム | 新日鉄住金エンジニアリング様 オージス総研様 | 福祉施設 4 団体 | 4 台 |
| 平成 28 年 | 1 月 | 豊中市寄贈プログラム | オージス総研様 | 福祉施設 17 団体 | 17 台 |
| | 1 月 | 「こどもとパソコンの大冒険記 ～奈良から海外へ～」 海外寄贈プログラム | NPO 法人 Class for Everyone 様 エコネット株式会社様 | カンボジア 中学校・ フィリピン 図書館 | 6 台 |
| | 1 月 | eco packet プロジェクト | NPO 法人 Class for Everyone 富士ゼロックス株式会社様 ANA グループ様 | フィリピン パプアニューギニア | 45 台 |
| | 3 月 | ロボットを動かそう！講座 | 株式会社アーテック様 奈良教育付属中学校様 NPO 法人 AtoMs 様 | イベント開催 対象：スコラ利用者 | - |

平成 28 年度の取組

スローガン「発展に夢をもてる事業、将来の可能性を広げる事業。」

活動目標

1. 新たな再販事業として、ゲームソフト / 本体・DVD を取扱う。
2. プログラミング制御を生かした育成カリキュラムの開発。将来の新部門の構想を検討。
3. 海外戦略強化、途上国への寄贈台数を増加。現地で使える App 開発。
4. ソーラーパネル再生事業の検証。

2 ぷろぼのアカウントセンター（Pac） 記帳、入力業務

全国の会計事務所様・個人事業主様より、帳票類などの会計資料を預り、会計ソフトへ金額や勘定科目を入力する仕事をしています。ご契約していただいている会計事務所様は、大阪が中心ですが、石川、東京、神奈川の会計事務所様とも契約しており、全国を視野に入れた事業展開を行っております。

平成 27 年度は、以下の 3 つの新しい取り組みを行いました。

1) 会計事務所様向けの新料金体系での契約開始

平成 27 年度からは、新料金体系がスタートしました。新たにご契約していただく会計事務所様は、この新料金体系での契約となります。平成 27 年度の新規契約件数は、1 件と少なめでしたが、新料金体系に理解をしていただいた会計事務所様がいたことは、とても意味のあることでした。

また、この新規契約は、現在契約している会計事務所様からのご紹介でした。今までの仕事の成果の表れでもあります。



わたしたちに記帳を
させていただきませんか？

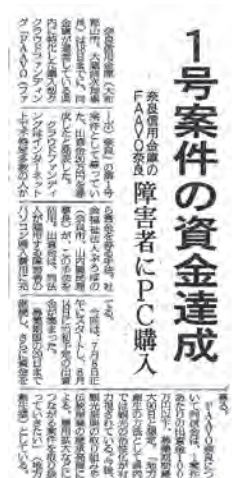
Pac

障がい者雇用（「働く」を支援する社会福祉法人が社会福祉事業による活動サービス提供）

2) クラウドファンディングによる資金調達に挑戦

目標額を 20 万円として、クラウドファンディングでの資金調達を行いました。FAAVO において、奈良県での第 1 号案件として注目され、奈良新聞（平成 27 年 8.15 日付、8 月 19 日付）にも取り上げていただきました。

その結果は、40 万円を集めることができ、200% の達成率となりました。これは、予想以上の結果でした。ぷろぼのアカウントセンターへの注目と期待の表れとして、働くスタッフの大きな励みとなりました。



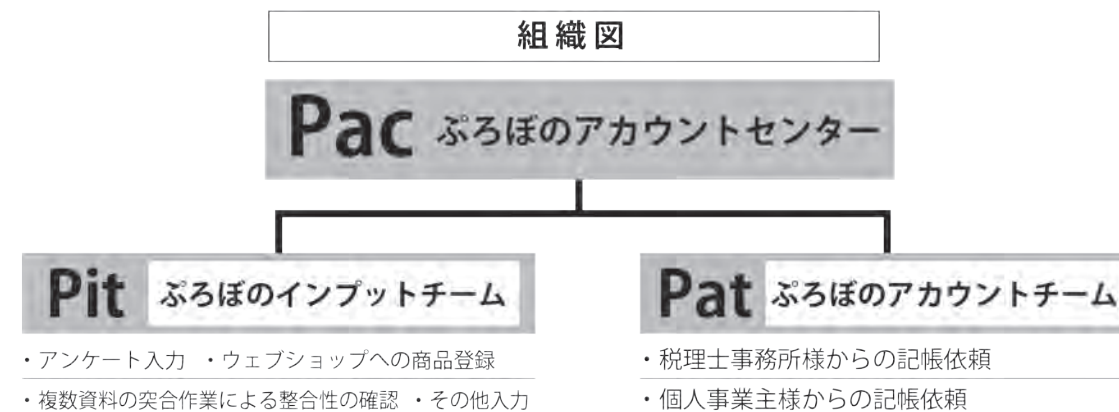
3) 新たな入力専門チームの編成

これまで、記帳業務を行うことで「速く正確に入力する」ノウハウを積み上げてきました。このノウハウを元に、入力専門の、「ぷろぼのインプットチーム (Pit)」を編成し、企業で発生する大量の入力業務のサポートを行っていきます。

すでに、以下のような業務を定期的に請け負っております。

- ・複数資料の突合作業による整合性の確認
- ・Web サイトへの商品の登録作業

単発の仕事として、アンケート入力などを請け負うこともあります。



平成 27 年度まとめ・平成 28 年度に向けて

個人事業主様とも契約を結ぶことができ、無事、期首から期末までの 1 年間の記帳業務を終えることができました。個人事業主様との契約数はまだ少ないので、今後は会計事務所様だけでなく個人事業主様との契約数も伸ばしていきたいと思っています。

ご契約していただいている会計事務所様からは、パーティーへの招待を受けるなど、仕事上のパートナーとしてだけでなく、Pac の持つ、障がい者雇用を拡大していくという考えに理解を示していただいています。

平成 28 年度には、新しいビルが完成し、ぷろぼのアカウントセンターは、新ビルに移動する予定です。新ビルでは、さらに多くの作業場所を確保することができ、さらに雇用の拡大を目指していきます。

3 Proide Web・DTP 制作、開発事業

Proide（プロイド）はぷろぼのが提唱している「プライドのある自立を目指して、障がい者の就労を IT で支援します。」に沿って、probono+pride を合わせて新しい言葉を作りました。「お客様から『笑顔』で『ありがとう』と言ってもらえるような仕事をする」をテーマとしています。9 名のスタッフ（総合職員 2 名、A 型スタッフ 5 名、B 型スタッフ 2 名 平成 28 年 3 月 31 日現在）と実習生とで協力しながら日々の業務に取り組んでいます。

主に奈良県下の福祉団体や企業様、官公庁様からご依頼を受けてホームページやチラシ・リーフレット・冊子などの印刷物を制作しています。

ホームページ制作・システム開発事業

簡易更新機能の充実

特定非営利活動法人空き家コンシェルジュ様の依頼により、4つの市町村の空き家バンクを制作しました。空き家情報の更新の際に、複雑になりがちな入力を簡単に行えるような仕組みを制作しました。

動きのあるホームページの制作

奈良県の依頼により、「奈良の障害のある人が作った商品のカタログ～nara temono～」を制作しました。掲載データを更新し、より見やすくなめらかな動きのある電子カタログにリニューアルしました。

また、「あたつく組合」のホームページを制作しました。デザインはシンプルに仕上げ、複数の動きのあるコンテンツを用意することでホームページに奥行きがあるように見える効果を導入しました。

企業との協力

平成26年度より、パートナー企業との連携を強化していき業務分担の流れを構築してまいりました。平成27年度は協力してくださるパートナー企業が増え、現在3社と協力してホームページの制作や就労支援システムの開発、ECサイトの構築・更新・運営補助等を行っています。



株式会社ウォンツ代表取締役社長 岩崎 聡様より応援メッセージをいただきました！

ぶろぼのさんのWeb・DTP制作部門のみなさまには、いつも助けていただいています。弊社では、毎日のように新規ページ制作が発生します。現在は、基本的なHTML／CSSコーディング業務のほぼ全てをぶろぼのさんに依頼しています。お陰で、弊社はデザインだけに集中することができるようになりました。すでに、弊社にとってかけがえのない戦力です。

安心してお任せできるポイントは、主に以下の3点です。

1. スピードが速く、納期を守ってくださる
2. 作業が正確
3. やりとりがスムーズ

いずれも、急な作業対応が求められる制作会社にとって、必須といえるほどの条件であり、いずれも高いレベルで実現されていることにむしろ私たちが学ばせていただいているぐらいです（笑）。

こうしたチームを築けることもぶろぼのさんならではの強みだと思っています。これからも長い付き合いを、どうぞよろしくお願いいたします。

株式会社ウォンツ代表取締役社長 岩崎 聡

印刷物制作（DTP）事業

テイストを合わせてチラシとポスターを制作

平成27年10月に生駒ロータリークラブ様の主催で行われた「希望の明かりプロジェクト」の告知では、A4サイズのチラシと、A2サイズのポスターの制作を、テイストを合わせて行いました。

冊子の制作

平成26年度より、「奈良県障害者雇用促進ジャーナル『はたらく』」の制作を行っています。平成27年9月に発行された第4号、平成28年2月に発行された第5号では、プランニング・取材・撮影の段階から組版まで携わりました。また、京都山城総合医療センター様の、多くある診療科を28ページにわかりやすくまとめた「診療科案内パンフレット」を制作しました。

冊子のデザインは時間がかかりがちですが、ページの多いものも徐々に素早く対応できるようになってきています。



データ入力業務

手書きの情報（アンケートや住所録など）の入力や必要に応じて集計作業を行います。また、住所録などでは「住所は入っているけど郵便番号が無い」や「県名」と「住所」が分かれているので統合したいなどのデータ2次加工のご依頼も可能です。

不定期に発生するスポット案件から毎月定量で発生する案件まで幅広く対応しています。

IT センター大和八木

事業の概要

IT センター大和八木は平成 26 年 10 月に、中南和地域の仕事づくりの拠点としてオープンしました。デザイナーや企業の方とのパートナーシップを大切にし、ともに事業を作り上げていくことがコンセプトです。開設以来 1 年半の間、パートナーシップを生かした事業を立ち上げ、展開してきました。

事業は大きく以下の3つに分かれています。

- ①オリジナル商品の企画販売などを行う独自事業
②パートナーから受託する外部委託事業
③ぷろぼの内部の仕組みを支える内部委託事業

1 独自事業

1) サイ◇コ事業（製造販売）

平成 27 年 4 月、ぷろぼのとデザイナー kakusan 様のオリジナルブランド「サイ◇コロ」を立ち上げました。「サイ◇コロ」は「サイエンス」をテーマにしており、自然や科学をモチーフにしたかわいい雑貨を企画・製造・販売しています。昆虫や微生物、宇宙などの「科学標本ブローチ」「ラベルピン」を展開中です。

関西・関東の科学館・博物館を中心に営業を進め、平成 27 年度は、7 つの施設・店舗と取引を開始いたしました。また、平成 28 年 4 月に 2 つの施設・店舗と取引開始予定で、今後も全国展開を進めていきます。

ECサイト「ぶろほの商店街」にも「サイ◇コロ」のショップがあり、いきもの好きの方々にご好評いただいています。



EC サイト「サイ◇コロ」



サイ◇コロ ブローチ 商品



大阪市立科学館での販売

《御取引先》

株式会社アクティブ KEI 様（京都大学総合博物館ミュージヅップ）

榎原市昆虫館様

NPO 法人大阪自然史センター様（大阪市自然史博物館ミュージアムショップ）

大阪市立科学館様

株式会社ミュージアムテクノ様（千葉市立科学館ミュージアムショップ）

公益財団法人伊丹市文化振興財団様（伊丹市昆虫館ミュージアムショップ）

株式会社NFL 様（フォーマルスーツショップ NOVIA NOVIO）

ダーウィン・ルーム様

オークコーポレーション様（三重県総合博物館ミュージアムショップ）

《販売イベント》

むし祭り（榎原市昆虫館さま）

日本オオサンショウウオの会宇陀大会

橿原市ふれあいいきいき祭り

こどもにあ／いきもにあ

ジユクアクセサリー展



いきもにあ販売の様子

2) 妖怪グッズ事業（製造販売）

妖怪書家逢香様の妖怪画を「ポストカード」「ステッカー」などの妖怪グッズとして企画しました。逢香様のイベント・展示会を中心に販売させていただきました。ECサイト「ぷろほの商店街」でも「妖怪グッズ」のショップを運営しておりましたが、平成28年3月末に閉店いたしました。

《販売イベント》

ちんゆいそだてぐさ 2015 (郡山城) / 妖怪展示会 (橿原ナビプラザ) /

YOKAI TOUR II—古今東西 妖怪-YOKAI-大集合！—展



EC サイト
「妖怪グッズショップ」



販売イベント
「ちんゆいそだてぐさ 2015」

3) NATURE-style 事業 (ヨモギ商品の販売)

身体にも自然にも優しい商品をお届けするオリジナルブランド「NATURE-style」を立ち上げ、ぷろぼので栽培・加工したよもぎ商品の販売を始めました。パッケージデザインにはエーヨン菅野様に関わっていただき、素敵な商品が出来上がりました。平成 28 年 5 月より本格的に販売を開始します。EC サイト「NATURE-style」でも販売します。



EC サイト「NATURE-style」



オリジナル商品「よもぎ風呂」

4) カフェ事業

橿原市の古民家スペース「町屋ダイニングはる」を利用して、週 1 日「町屋カフェはる」を運営しています。地域とのつながりを大切にし、主に手芸作家との手芸教室や地元の方向けのイベントを開催しています。3 月 3 日には「いちご大福を一緒に作りましょう！」イベントを開催し、約 20 名の方に参加していただきました。



《企画イベント》

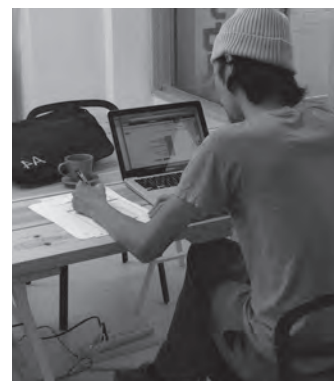
いちご大福を作りましょう／ぷろぼの三銃士交流会 in 町屋カフェはる／
カフェはる 1 周年記念イベント／ドリームキャッチャー親子イベント

《参加イベント》

はならあと／Kimono Jazzgl in 2015／愛宕祭り

5) シェアオフィス事業

事業所の一角を、「仕事を生み出し、育てる場」として「シェアオフィス」にしています。事業所開設以来、パートナー企業の方々が来所され、共同事業の話やお互いの仕事の話をする時間・空間として浸透してきました。最初は自分たちも手探りだった事業ですが、今ではパートナー企業の方が気軽に来所してくださるようになっています。



お互いの事業の相談から、新しい仕事の依頼、そして地域の困りごと・ニーズを事業化する話も進んでおり、まさに「仕事を生み出し、育てる場」になりつつあります。

実習メンバーがお客様に飲み物を出すことなどを心がけており、どの方にもリラックスして過ごしていただいています。メンバーにとっても、企業の方と一緒に空間で過ごすことで、緊張感や仕事の雰囲気を感じるなど良い影響があります。今後も面白いアイデアと一緒に考え、新しい事業を創造できる場として活用していきます。

2 外部委託事業

1) 商品製造委託事業／販売委託事業 (EC/BtoB)

デザイナーの方々より、商品の製造及び販売を受託しています。奈良県東吉野村所在のエーヨン様や岡山県の民芸新時代様など、デザイナーが企画した商品を製造から販売まで引き受けることで、デザイナーがよりクリエイティブな業務に集中できるようにする関係を目指しています。そのかわりから新たなつながり・事業が展開する可能性も大きいと考えています。

商品のピッキング、梱包、納品書作成、伝票記入など、発送作業の手順を一つひとつチェックリスト化することにより、メンバーと実習生だけでほとんどの業務を進めることができるようになっています。



エーヨン様 EC サイト



商品製造



商品発送

2) システム補助 (MAD 様)

システム開発会社の株式会社エム・エー・ディー様と連携し、システム開発の上流工程を担う仕事をを行います。このチームでは、アプリ・システムの開発だけでなく、新しいクリエイティブな仕事・仕組みを生み出すことを目指しています。

障がいのある方々にシステム開発業務に参画いただき、それぞれの力を生かしてシステム設計書やテストなどを任めています。「システムを考えてみたい」「アプリを開発したい」など、自分の興味のあることを動機として、働く意欲に結びつけていきたいと考えています。



3) その他

そのほかに、株式会社浅田工務店様より顧客情報管理業務を受託し、月1回訪問しています。顧客管理システムの構築を行い、お客様情報の更新などを定期的に行うことで、「会社内の情報整理・活用ができるようになった」「業務がやりやすくなった」と嬉しいお言葉をいただいています。今後もシステムの管理・更新業務として継続的に関わらせていただきます。

またDTP制作として、名刺制作や宣伝商材デザイン・制作なども受託しています。



3 内部委託事業

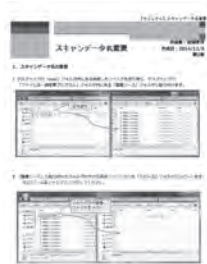
1) 顧客管理事業

顧客情報は、組織にとっての大切な財産です。その顧客情報を管理するためのシステムの導入・運用、それを事業運営や事業展開に効果的に活用できる仕組みづくりをお手伝いしています。

- ・名刺などの入力による顧客データベースの作成と更新
- ・メールマガジンやダイレクトメールの送付

一元的に顧客情報を管理・運用することによって、常に新しい情報を確認し、活用することができるようになります。顧客情報の漏れや古い情報のままになることを防ぎ、新しい名刺や顧客情報が追加された時には、最新の顧客情報に更新しています。また、顧客情報を基にメールマガジンで自社の取組や考えを発信することで、効果的且つ効率的な情報発信を可能にしています。関係者・取引先との関係維持だけでなく、新たな事業展開・顧客獲得の助けとなるものです。

ぷろぼのグループの顧客情報管理もITセンター大和八木で行っています。顧客情報をシステムに登録し、4月時点で3,689件の顧客データをシステムで管理し、メールマガジン「プロボノプレス」および「さすてなプレス」を配信しています。プロボノプレスでは、主にぷろぼのの事業紹介、見学会の案内、サポーター企業として応援している「奈良クラブ」の紹介、連載として「職業訓練の取り組み」「働く場の取り組み」などを紹介しています。登録している顧客情報は、年賀状発送や法人格変更のお知らせにも活用されました。顧客情報を事業運営や事業展開に効果的に活用できる仕組みになるように取り組んでいます。



2) PC 管理事業

パソコンの保守・管理を請け負う事業です。1ヶ月に1度ぷろぼのグループの各事業所を訪問し、パソコンが正常に動作しているか、また正常に更新されているかを確認しています。具体的には以下のことを行っています。

- ・事業所のファイルサーバーの使用状況及びバックアップ状況を確認。
- ・PCの基本情報をまとめた「PC管理票」を1台ごとに作り、一覧化した「PC管理一覧表」を作成。
- ・月1回の定期確認を通じて、各事業所のPC及びサーバーの状態を「PC管理作業報告書」で報告。

これらの業務によって、各事業所のPCの状態を把握することで、故障や動作不良に至る前に早めに対処することが可能になります。またサーバーの使用状況及びバックアップ状況を確認することで、ファイルの消失を防いでいます。

農業事業 大和農芸グループ

ぷろぼの農芸チームとしての活動も、2年目となりました。主な作業は、奈良県北東部に
ある大和高原で無農薬・無施肥による茶作りに取り組む健一自然農園様の三年番茶の製茶(12
月から3月)及び三年番茶畑の管理(4月から11月)です。

大和高原は昼と夜の寒暖の差が大きく、早朝霧が立つこともしばしばという、おいしいお茶
ができる条件が揃ったこの地域で、古くからお茶作りが盛んに行われてきました。ここで作
られる三年番茶は近年、食養的志向やナチュラル志向の消費者の間で、急速に人気を伸ばし
ています。

三年番茶製茶

三年番茶の製茶は、収穫した枝葉の選別と、枝葉の刻み
を行います。

収穫した枝葉の選別については、スタッフが徐々に作業
に熟練してきており、このことはお茶の精度向上、生産量
増につながっています。

枝葉の刻みとは、三年を経た茶木の枝葉をチップパー機に
かける仕事です。機械の扱いや点検作業を理解しているス
タッフも増えてきており、安定した生産につながっていま
す。



三年番茶の畑管理

今期は1.2ヘクタールの管理業務を行います。茶畑の草引きが主な業務です。ここで三年
間伸びた茶木が三年番茶になるのです。

茶の樹より高く生い茂った笹は、のこぎり鎌で刈っていきます。笹は刈った後は尖ると危
ないですし、作業場所も急な斜面なので、安全
第一でゆっくりと作業しています。身体が動作
をしっかりと覚えたら、いつの間にか手早くな
るのでそれまではゆっくりと作業します。圃場
によっては、へくそかずらの根っこをひたすら
取っていく作業があり、地面に這いつくばっ
て、ひも状の蔓をたどって根っこの塊を取り除
いていきます。また別の圃場には、羊歯が茶の
樹の上に生い茂っていて、根っこごと引き抜い
ていきます。



自然の中で働くことの魅力

心身の健康

朝日が昇り、太陽とともに生きる、地球のうえで生きる、緑豊かな茶畑で動く。土をつく
り、種を蒔き、育て、収穫し、食べ、保存する。一連の農芸活動の中には、私たちの暮らし
に欠かせないさまざまな生活要素や運動機能が含まれています。また、うれしい、きれい、懐
かしい、悲しい、静まる、おいしい、よい香り、いい手ざわりなど、五感に訴えるものが多
く含まれています。こうした農芸活動が持つ特性を、心や体のリハビリ、社会復帰、生きる
力の回復などに役立てていきます。

仕事の確保

健一自然農園様の三年番茶は、マクロビオティックの世界で注目されており、今後も生
産量は増え続けます。放棄茶畑が増大していますので、茶畑の確保は容易です、農芸チーム
の仕事は今後も増え続けますので障がい者働く場の拡大につながります。

自然環境の保全

日本の多くの茶園ではヨーロッパへの出荷が不可能なほど、大量の肥料農薬を散布してい
ます。しかし健一自然農園様の茶畑では、肥料農薬の散布を行いません。河川上流域の茶
畑がこのようになれば、山河の生き物たちはイキイキとし、川の水が流入する海の環境保護
にも大きく貢献しています。

緑あふれる山
青く澄み渡る空
田んぼの水面を駆け抜ける風
啄木鳥の営みで鳴り響く樹
蛙の合唱
注意深く意識的な時の流れ



茶農芸には、感じる、(植物と)過ごす、育てる、採る、利用するなど、多くの人の興味
をひく要素があります。楽しみながら心と体を使い、健康を育んでいきます。

その結果、ストレス軽減、意欲回復、認知機能の維持・向上、日常生活に必要な能力の維
持・向上、社会性の向上、生活の質の維持・向上など、様々な健康上の効果が期待できます。

日々、ぷろぼの農芸チームのメンバーが元気に逞しくなっているのを感じています。

IT センター榛原

榛原事業所概要

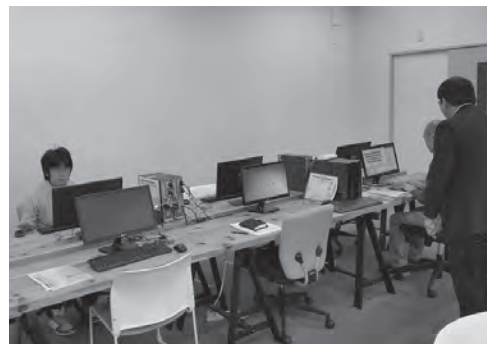
IT センター榛原は、近鉄榛原駅から徒歩1分のマンションの1階にあります。事業所のある宇陀市は奈良県南東部に位置する自然豊かな地域で鳥見山、伊那佐山も眺めることができる見晴らしの良い場所です。事業所は窓が大きく天井も高いので、解放感があり過ごしやすく、訓練生がのびのびと作業、訓練に取り組める空間になっています。



平成27年度に取り組んだこと（リワーク）

平成27年10月にITセンター榛原事業所のリワークコース（就職困難者支援）がオープンしました。開所時は利用者が増えずさびしい思いをしましたが、徐々に増えて現在は4名の方が訓練を受講されています。PC訓練では復職・就職に向けてスキルアップを目指し訓練に励み、農業訓練では澄んだ空気、清らかな川が流れる自然の中で身体を動かし、ストレスを開放し適度な疲労を感じ体力をつけながら働く準備を進めています。訓練生のご家族から「訓練日以外にも外出できるようになりました」と嬉しい声を頂き、改めて素晴らしい取り組みをさせて頂いていると感じました。

リワーク（就職困難者）の方が勇気を出して1歩を踏み出し社会に復帰しようとしている姿を間近で見ることで、就労移行事業の訓練生、就労継続支援B型の方にも良い刺激になると考えます。



目指す方向

IT センター榛原の事業の柱は「よもぎ」です。弊法人が所有している圃場のある東吉野村鷲家地区には弘法大師にまつわるよもぎ伝説が残っており、よもぎを栽培するには最適な風土です。2反（600坪）の広さの圃場でよもぎの栽培をおこなっております。そこから収穫されるよもぎを使ってITセンター榛原が推進するのは、よもぎの6次産業化です。

1次産業で終わらず2次の加工、3次のサービス業（小売り、流通）を一貫して行い、地域資源を活用した仕事をおこします。競合の少ない分野で、外部環境に左右されない障がいのある方の仕事づくりを行っていきます。福祉を基盤として商品開発、仕事の品質改善を繰り返し、ノウハウを蓄積していきます。そして、営業力のあるITセンター大和八木（ITY）と協働することにより、経済的、精神的に障がい者の自立を確立できるように進めたいと考えています。また衰退産業である林業の分野でも、障がい者の力を活用できることがないか現在模索しています。



Ⅳ 就業支援

就業支援事業部

平成 27 年度は、各事業所の就労支援員を中心とした活動を行いました。実習先の開拓から職場定着に至るまで幅広い業務を担い、今後のぷろぼの就労支援システムを構築するうえで新たな一歩を踏み出したといえます。

現場の就労支援員が、訓練生の障害特性を十分に理解した上で企業とのマッチングを行い、専任の就労支援担当者が、エリアを跨ぐ企業実習や見学会などを企画する体制を整えました。

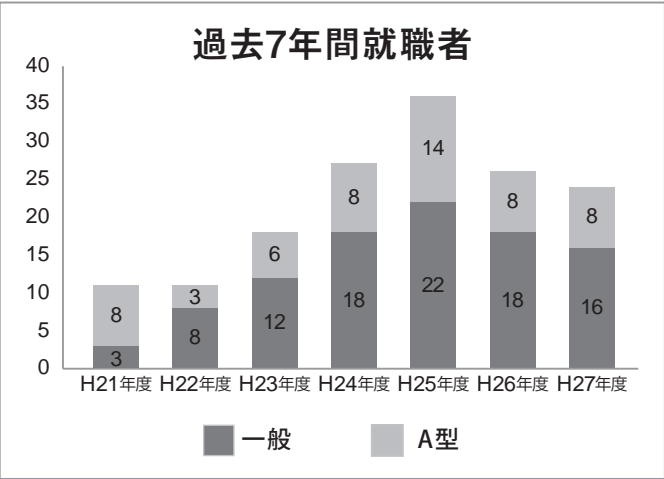
また、就労定着支援では、就労支援員の定期的な企業訪問を通じて問題課題を明確にし、素早い対応ができるようにしています。必要に応じて、ご家族や医療機関との連携を取りながら職場定着を図っています。

第一線で活躍する就労支援員のスキルアップには、今年度から外部での研修も取り入れました。職場適応援助者（ジョブコーチ）の養成研修を受講し、資格を取得した職員が3名となり、よりきめ細かい定着支援が図れるようになってきました。設備などの環境面や障害特性に配慮したマニュアル作成など、一定の訓練を受けた職員が対応することで就職先からの信頼も厚くなっています。

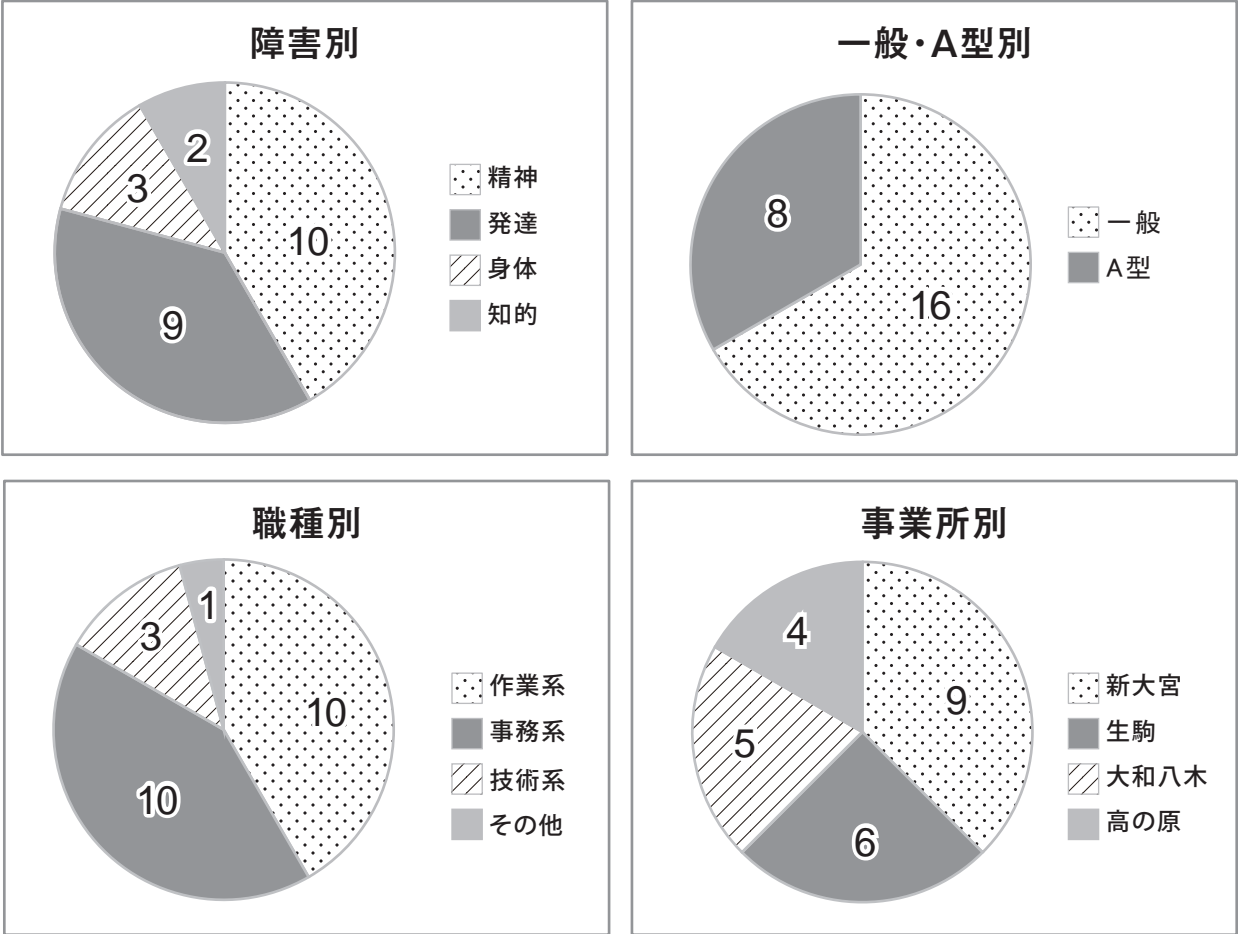
平成 28 年 2 月には、「働くを考える」というテーマで奈良県広陵町にあるタビオ奈良株式会社様と合同でセミナーを実施しました。タビオ様からは当事者 8 名の方々に、就職することになった経緯や仕事内容や日ごろの心構えなどを自分の言葉で発表して頂きました。ぷろぼの訓練生にとっては、当事者の方々の発表やグループディスカッションなどを通じて、働くことがより身近な事として受け止められたようです。また、当事者の方々にとっても自分の働く価値観を見直し、さらに同僚の考えに共感して、改めて働く楽しさと責任といったものを感じておられました。

1 就職者の状況

平成 27 年度の就職者は 24 名で、企業等への一般就職者が 16 名、就労継続支援 A 型が 8 名の状況でした。精神障害者の雇用が進んでいるという全国的な傾向の中で、ぷろぼの利用者には精神・発達障害の方が多いということもあり、当法人の就職者も精神障害者が 10 名、発達障害が 9 名と全体の 79%を占めています。就職先での職種は、作業系が 10 名、事務系が 10 名となっています。技術系は、主に SE やプログラマーとして働いています。



平成 27 年度就職者内訳



2 職場見学会・職場実習

職場見学会は奈良と大阪の企業 10 社で 14 回実施しました。参加者はのべ 74 名でした。職場実習は、雇用前の実習を含めて 10 社で 18 回実施しました。参加者はのべ 35 名でした。実習を通して雇用に繋がったケースが 7 例ありました。

日頃の訓練だけでなく、実際の職場で働いてみるのが非常に大切であることから、今年度は見学先や実習先の開拓に注力しました。ヤンマーシンビオシス株式会社様や株式会社かんでんエルハート様など新たに 10 社の企業と見学会や実習を実施出来るようになりました。今後も新たな実習先の確保を進める予定です。



平成 27 年度職場見学会一覧

| | 見学先 | 訓練生数 |
|------|--------------------|------|
| 4 月 | タビオ奈良株式会社様 | 7 名 |
| | 株式会社ライフイノベーション様 | 6 名 |
| 5 月 | 第一生命チャレンジド株式会社様 | 1 名 |
| | ダイドウ商会様 | 3 名 |
| 6 月 | 一般社団法人ワークワーク様 | 7 名 |
| 8 月 | タビオ奈良株式会社様 | 12 名 |
| | SMBC グリーンサービス株式会社様 | 5 名 |
| 11 月 | 株式会社ハートフルコープなら様 | 2 名 |
| | メイト作業所様 | 1 名 |
| 12 月 | ヤンマーシンビオシス株式会社様 | 5 名 |
| 1 月 | 株式会社かんでんエルハート様 | 11 名 |
| 2 月 | SMBC グリーンサービス株式会社様 | 5 名 |
| 3 月 | タビオ奈良株式会社様 | 8 名 |
| | 第一生命チャレンジド株式会社様 | 1 名 |
| | のべ | 74 名 |

平成 27 年度職場実習一覧

| | 見学先 | 訓練生数 |
|------|-----------------|------|
| 4 月 | タビオ奈良株式会社様 | 3 名 |
| 5 月 | 株式会社ライフイノベーション様 | 2 名 |
| 6 月 | 第一生命チャレンジド株式会社様 | 1 名 |
| | タビオ奈良株式会社様 | 3 名 |
| 7 月 | 有限会社奥進システム様 | 1 名 |
| 9 月 | タビオ奈良株式会社様 | 5 名 |
| 11 月 | タビオ奈良株式会社様 | 2 名 |
| 12 月 | 株式会社ハートフルコープなら様 | 2 名 |
| | 奈良西郵便局様 | 1 名 |
| | タビオ奈良株式会社様 | 2 名 |
| 1 月 | 株式会社ファーマシー木のうた様 | 1 名 |
| 2 月 | ならコープ学園前店様 | 1 名 |
| | 奈良西郵便局様 | 1 名 |
| | 大和信用金庫様 | 1 名 |
| 3 月 | 第一生命チャレンジド株式会社様 | 1 名 |
| | タビオ奈良株式会社様 | 4 名 |
| | 株式会社ハートフルコープなら様 | 1 名 |
| | 株式会社かんでんエルハート様 | 3 名 |
| | のべ | 35 名 |

3 職場定着支援

過去 3 年間に一般就職された方々を中心に定期的な職場訪問をしています。就職先の職場を訪問し、上司の方々や担当の職員様から日頃の勤務状況などをお聞きしています。必要があれば、ご家族への連絡や調整なども含めて特に生活面での支援ができるよう、就労支援員が中心となって職場定着の支援を行っています。

過去 3 年間に企業などに一般就職された 55 名の内、継続して同じ職場に就職されている方は 47 名で定着率が 85% です。離職された方の内、再就職されているのは半数の 4 名となっています。離職者の障害別の内訳は、身体 2 名、知的 2 名、精神 2 名、発達 2 名となっています。

4 タビオ奈良株式会社様との合同セミナーを開催

平成 28 年 2 月 16 日（火）タビオ奈良株式会社様と合同でセミナーを実施しました。テーマは、「こんな職場で働きたい」一般企業に就職するためには何が必要なのか？働き続けるためにはどういう事に注意して行けばいいのか？また、職場ではどういう指導や配慮がされているのか？タビオ様から社員 4 名当事者 8 名、ぷろぼの訓練生 25 名職員 6 名、全員で 43 名が奈良産業会館に集まり実施しました。



前半は、社員様からの企業紹介のあと、当事者の方から就職に至った経緯や日頃仕事を通して考えていることなどを発表して頂き、後半は、全員が 4 つのグループに分かれて「働き続けるために、今やっておくことや今取り組んでいること」についてディスカッションを行いました。

セミナー事後アンケートより

みなさんから、働くことへの前向きで印象的な感想がたくさん寄せられました。事後のアンケート調査からの抜粋をいくつかご紹介します。

ぷろぼのの訓練生からは、「出来る作業が増えていく事が、自信につながるという言葉が印象深かった」、「働くことのやりがいや、どの様な仕事をされているかを聞くことが出来て良かった」、「会社側も障害者の働き方をしっかりと見ていることが伝わってきました」といった感想がありました。また、今回のセミナーを今後の自分にどう生かしていくかという項目では、やりがいや意欲といった言葉が多く見られ、「どんな仕事も生き生きとしたものにしていきたい」、「他の人の意見を参考にして働く意味を見つけない」といった働くことを一生懸命に考えている姿勢も伺えました。

タビオ奈良株式会社様の当事者の方々からは、「日頃自分がやっている仕事を改めて考えることができた」、「自分の意見や経験が訓練生の役に立てばうれしい」といった感想から、日頃の同僚への思いが伝わってくる「仕事仲間の発表を聞いて、みんなの普段の考えや思いを感じ取れて良かった」、「みんなの発表や感想がとても感動的でした」、「もっと笑顔が絶えない会社にしていきたいと思いました」という意見も頂きました。

次年度以降も、働くことをしっかりと自分の言葉で語れる、このような機会を作っていきたいと思います。

V 生活支援・相談支援

生活支援・相談支援

1 GHぷろぼの（グループホーム）

平成25年2月より奈良市内のアパートと契約を締結し、現在6室をグループホームとして、共同生活支援事業を行っています。

この場所は、ぷろぼののサービスを利用中または利用後就職した方が、地域で自立した生活を送るために生活支援を受けながら、自分らしく暮らしていく場所です。平日の夕食は、世話人が栄養管理した食事を提供します。

グループホームは利用を希望する声が多くあり、今後拡充を検討して参ります。



2 障がい福祉サービス利用に関する計画相談・モニタリング

障がい福祉サービスの利用にあたっては、その手続きのうえで、利用者個々の状態や生活状況及び意向等のニーズに基づいたサービス提供となることを目指します。

障がい福祉サービス利用時の計画相談支援や利用後の定期的なモニタリングは、利用者の望む生活の実現に繋がります。

Ⅵ 児童支援

ぶろぼのスコラ概要

放課後等デイサービス事業は、第一に安心安全に児童が生活できる放課後の居場所であることが原則です。「ぶろぼのスコラ」は原則を基本としたうえで、卒業後の選択肢を広げるための社会的マナーや基礎体力作りをプログラムに取り入れ、楽しみながら取り組めるように心がけてまいりました。そのプログラムは社会的にも注目され、第5回キャリア教育アワードにて最優秀賞（経済産業大臣賞）を受賞しました。

1 大切にしていること

個別の課題を設定し、一人ひとりが積極的に取り組めるよう工夫しています。やりたいことにチャレンジでき、乗り越えられたらまた次の課題に取り組めます。これを繰り返すことで成功体験を得ながら、本人が持っている能力がたくさん引き出されていきます。それらは利用者たちの自己肯定感を生み出すことにつながります。卒業までの期間をいきいきと過ごしてもらうことを大切にしています。

2 1日の流れ

利用者は来所するとまずはスタッフや他の利用者に挨拶をして、洗面台で手洗いとうがいを経ませ、自分のファイルに本日の目標を記します。全体挨拶を行い、体幹を鍛えるバランスボールと、挨拶や自分の意思を伝えるために欠かせない発声練習をします。それから週替わりの運動系プログラム、社会的マナーを意識したプログラムまたは創作プログラム、資格取得を目標としたIT、或いは個別の創作活動に取り組めます。それから自分たちで使った道具やパソコンを片付け、教室の清掃をして、全員で輪になり終わりの挨拶という流れになります。

学校で疲れているのに、またスコラで身体と頭を使うのですから、もう疲労困憊という場合もありますが、集中した2時間を過ごしたあとは充実感や一体感のようなものが生まれます。

3 プログラム紹介

4つのジャンルにプログラムを分類し、目的や効果に即した支援を行っています。スコラ支援プログラムについては「スコラテキスト」として集約し、平成28年夏に発行する予定です。



IT

パソコンの知識や基礎技術を学ぶためのプログラムです。ソフトを使用して文章・表の作成を行い、パソコンや周辺機器の操作を学びます。パソコンを操作するにあたっての注意事項について理解し、安全な操作ができるように取り組みます。

ソーシャル

社会的スキルを学ぶためのプログラムです。社会に出た時に必要とされるコミュニケーションの取り方や相手との距離感、伝え方や関わり方を学びます。社会を取り巻く環境や行事についても体験し、行事や季節感なども醸成します。

体力

筋力や体幹を鍛えるためのプログラムです。姿勢や体勢を維持するためのトレーニングを行ったり、様々なポーズで体の可動域を増やしたり、自分のイメージと体の動作をリンクさせたり、自分の体の使い方を学びます。協力してのプログラムでは、相手とのバランス感覚や力加減にも挑戦します。



創作

自由創作を通して、自己表現の方法について学ぶためのプログラムです。対象物の模写や絵を描く平面の表現、様々な素材を用いた立体表現等、自分の意思を伝えるためにどのような表現方法があるか、どの表現方法が得意かを学びます。指示や説明の理解力やイメージを形にする創造性を育みます。

4 今年度の取り組み

ぶろぼのスコラ大和八木校開校

平成27年5月にぶろぼのスコラ八木校が開校しました。週2日から開所し、現在では週5日開所で近鉄橿原線沿線の利用者が集まっています。またエレベーターも設置しているため、身体に障がいのある方も積極的に受け入れています。

スコラキャンプ開催

本年度の夏の一大イベントとして、1泊2日で淡路青少年の家へキャンプに行きました。平日2日だったので他の学校行事と重なり参加者は15名でしたが、いろいろな成長の一場面に出会うことが出来ました。全体司会をしたかったと後から自己主張をして、積極的に人前に出るプログラムに参加できるようになった方、みんなの前で発表して自信がつき、その後の活動でも自分から話ができるようになった方など、振り返るとキャンプの経験が変化のきっかけであったと思える利用者が何人もいます。



スコラの職員だけでは支援の手が足りず、法人職員からスタッフを募ったり、AtoMsのスタッフとも協働しながら進めることが出来ました。次年度同じ規模のものができるとかはわかりませんが、野外でのダイナミックな活動は非常に有意義だったと思います。

外部機関と連携した多彩なプログラムの実施

AtoMs様に協力いただき、特別講師を招いて音楽プログラムや体育遊びを定期開催することができました。また、株式会社アーテック様の協力のもと、プログラミングの導入として「ロボットを動かそう！講座」を開催しました。また、グッドトイ認定の教材を使ったプログラムも定期的で開催しています。今後も多彩なプログラムを実施していく予定です。



研究機関との連携

奈良先端科学技術大学院大学の教員と連携し、パソコン上での画像と音声によるSSTプログラムの研究開発に協力しました。ふだんの場面では要素が多く意識しづらい「聞き取りやすい話し方」について画面上でフィードバックや練習ができるプログラムです。どうすれば話し方がわかりやすくなるか、研究者の方と何回もディスカッションをさせていただきました。



ぷろぼのスコラ生駒校

ぷろぼのスコラ生駒校は3年目を迎え、先輩が作ってきた流れを新しく利用し始めた参加者が受け継ぎ、とてもスムーズに、早くなじめるようになってきました。今年度の新規利用者は16名を超え、地域の各相談支援事業所や養護学校の先生からも直接紹介をいただける事業に成長してきたと感じます。また県外への認知度も上がり、東大阪市からの利用者も増えました。一人一人の個別の課題や成長に寄り添い、ともに喜んできた成果と言えます。

平成27年度に特に取り組んできた事業は、月に1回程度土日に様々な体験イベントを設定したこと、ワープロ検定の定期実施などがあげられます。これらを通じてさまざまな場面で子どもたちの成長や活躍が見られ、ぐっと成長してきたと感じます。また年度末には初めての利用者アンケートを実施しました。保護者の皆さんやご本人のニーズを再度検討しながら平成28年度に向けて新しい取り組みを企画してまいります。

1 利用者について

新規利用者

昨年度までは1か月1名のペースで利用者を増やしてきましたが、スコラを利用されている保護者の方の紹介や、各支援機関の認知度があがってきたため、6月に一度に4名の利用者を受け入れました。同級生が通っている安心感からスコラでの活動にもすぐになじみ、キャンプやバーベキューなどのイベントにも積極的に参加してくれています。

また、他のデイサービスに通っている方などで、子ども向けのプログラムが合わなくなった中学2・3年生の受け入れも始めました。先輩の姿をよく見て学び、できることが飛躍的に伸びていく様子が見られています。

東大阪市からの利用者も2名在籍しています。高校生を中心としたデイサービスは他になかなか見つからない、パソコン学習が好き、などの理由で情報を得て利用につながっています。

卒業生

本年度の卒業生は7名で、進路としては一般就労2名、ぷろぼの就労移行支援1名、進学1名、自立訓練2名、生活介護1名となりました。保護者の方からの相談があった時には面談時間を割いて相談に応じていましたが、年度の早いうちから定期的に相談してもらえる体制や成人の支援機関の情報提供ができるようにしていく必要を感じました。



2 特別活動について

ワープロ検定・パソコンスピード検定

定期的に放課後デイサービスの時間を利用して検定を開催しました。検定1か月前の追い込みの時期になると、目標を掲げた利用者の真剣な姿勢や表情に空気がぴりっとします。スタッフも1点でも多く得点できるようにいろいろな助言をしながら、今年度もたくさんの合格者を出すことが出来ました（ワープロ検定準2級1名、3級1名、4級2名、パソコンスピード検定3級1名、5級2名）。

賞状授与の場面を見た他の利用者のやる気にも火がつき、毎回数名の受験者がいました。一方で、目標まであと一步届かない方も出てきました。その経験をばねにして次回につなげていけるように励まし、見事に合格できた方もおられます。



事業所内イベント

本年度は利用者全員が企画や準備をして進めるイベントを開催しました。

お菓子作り

ねりきりやパフェなど、簡単に作れるお菓子をみんなで作って楽しみました。

スコラフェスタ（夏祭り）

みんなで準備をして、かき氷、たこせん、射的、ストラックアウトを楽しみました。

クリスマス会

メンバーを募って出し物を募集したところ、双子ダンス、ダンス、モノマネ、歌、など当日の飛び入りも含め時間が押してしまうほどの盛況でした。メンバー募集の張り紙をしたり、曲や振り付けの打ち合わせをしたりなど、ふだん見られない主体的な取り組みの様子がいくつも見られました。



スコラ卒業式

卒業生は卒業制作、在校生は出し物を準備しました。卒業生の集大成になる発表では、利用当初の写真も映し出され、3年間の大きな成長に保護者の方とともに感動させてもらいました。

事業所外イベント

バーベキュー

春と秋の2回開催をしました。ピザ体験や火や食材の準備など、いろいろな役割に分かれて準備し、みんなで楽しく昼食をいただくことができました。

いこいこまつり

就労移行支援事業所が出した「ヨーヨー釣り」のブースのお手伝いをしました。小さな子に一生懸命やり方を教えたり、お客さんを集めようと大声で呼びかけをしたり、それぞれの役割や仕事をしっかり果たしてくれました。

コンサート

就労移行支援のチームにパーカッションで参加しました。大勢の前でも臆することなく発表を楽しむことが出来ました。

プレゼン☆キング

「喜び」をテーマにスコラメンバーでふせんを書き、グループ分けしたものをパワーポイントでまとめて発表しました。パワーポイントにアニメーションを付けたり、自分の発表原稿を考えて発表しました。



3 支援体制について

常勤職員2名、パート1名（週2回）、AtoMsさんからの応援1名（週3回）、就労移行支援からのヘルプ2名（週1, 2回）で運営しました。利用希望が偏ることが多く、当月になってから追加でスタッフの応援を頼むこともしばしばでした。特に秋以降は利用者の数も増え、10名以上の参加になることも月に3, 4回ありました。また夏には体調不良で常勤職員が異動になり、3月には児童発達支援管理責任者が退職、交代することになり、「スコラに行けばこの人に会える」という安心感がなかなか持ちづらい状況であったと思います。今後は週5日入ってもらえる常勤パートの採用も視野にいれつつ、安定した支援体制を作っていきたいと思います。

広報活動

ディアー発達障がい支援事例報告会での事例紹介、なんとカンファレンスでの話題提供、奈良西養護学校福祉事業所合同説明会に参加し、各関係機関や保護者の方々からの貴重な意見をいただくことが出来ました。

| | |
|------|---|
| 数値実績 | 平均1日利用者数：6人 登録者：28名 卒業者：7名（一般就労2名、ぷろぼの就労移行支援1名、進学1名、自立訓練2名、生活介護1名） 新規利用者：16名 |
| 関係機関 | 相談支援事業所（ケース会議、モニタリング）：かざぐるま、たんぽぽ、びよびよ会、だんけ、ばくのゆめ スコラを紹介していただいた機関：奈良東養護学校、奈良西養護学校、デイサービス（無限、にっこり、びよびよ会）、支援機関（サポート21・なら） |

ぷろぼのスコラ大和八木校

ぷろぼのスコラ大和八木校は、平成27年度5月から、大和八木事業所（就労移行）、ITセンター大和八木（就労継続A型・B型）と同じビルの3階に開校しました。近隣にお住まいの高校生や中学生の方々お一人お一人に最適な支援をしていけるよう、取り組みを進めています。

開校当初は少人数からのスタートでしたが、プログラムを通して関わるなかで、スコラに来ることを楽しみに思ってもらえ、現在は地域の9校の高校、養護学校や中学校から合計11名の方にご利用いただいています。平成28年度には、高校を卒業される利用者の方々のより良い進路選択にも関わっていけるように取り組んでいきたいと考えております。

1 利用者について

開所当初から夏休みにかけて利用となる方が増えていきました。別々の学校から来ていることを感じさせないくらい、共通の趣味や話題で意気投合し、新しい友達関係を作れています。また、学校での悩みを相談したり、プログラムを通してできることが増えていたりして、新しい自分を見つける場にもなっています。



「体を動かすことが好き」、「パソコンがうまくなりたい」、「絵を描くのが得意」というような興味や得意を伸ばし、「人と話すのが苦手」、「一人で出かけるのが不安」、「困ったことに対してどうすればいいのかわからない」といった苦手を感じていることも、不安を軽減し少しずつできるようになっています。家庭や学校では遠慮してしまうことでも、スコラでは目を輝かせながら話してくれることもあり、まずは、安心して自分を表現できる場所にしてもらいたいと思います。



2 プログラムについて

通常プログラム

IT

ITのプログラムでは、パソコンを使ってローマ字入力やマウス操作、Wordを使った文章入力の練習をしています。また、タブレット端末を使って調べものをしたり、学習アプリを使って学んだりもしています。パソコンの上達を目標に取り組んでいる利用者の方も多く、毎日練習を繰り返して次々と新しい目標を達成しています。

ソーシャル

周りとは協力したり、相手の話を聞き、自分の意見を正確に伝える練習をします。クイズでメンバーにヒントを出すときには、1度では理解してもらえず、あの手この手で伝えようと、いつも以上の結束力を見せてくれたり、「今の良かったと思う」など相手を認め尊重する言葉もかけてくれました。

体力

バランスボールやいろいろな道具を使った運動を行い、自分の体の動きや、相手との距離感、チームワークを学びます。初めは運動が苦手感じていた利用者さんも、できるようになると「今日もまたしたい」と楽しみにしてくれるようにもなりました。火曜日には講師の方から直接指導を受けられる「体育あそび教室」も行っています。

創作

スケッチや折り紙などを使った工作など、手先の器用さや根気良さ、立体的な捉え方の得意不得意などがわかります。自由度が高く、それぞれの個性が発揮されるプログラムで、きちんと説明の通りに作って行ったり、紙やシールを重ね合わせてオリジナルの形にしたりと、「自分の得意なこと」がより強調されて表出します。

イベント

スコラミニ夏祭り

スコラ大和八木校では初の夏休み期間ということで、ミニ夏祭りを企画しました。事業所内での当てゲームをしたり、かき氷、わたあめなどを作ってみんなで食べながら、ゆったりと過ごす楽しい交流ができました。

「町屋カフェはる」体験

カフェの軒先に立ち、町行く人に「いらっしゃいませ」「よもぎ茶はいかがですか」とカフェへの呼び込みや、よもぎ茶の試飲を勧めながら笑顔で案内をしました。慣れてきた頃には積極的に商品の説明をするなど、営業トークにも磨きがかかりました。

クリスマスゲーム大会&クリスマスケーキ作り

利用者さんもスタッフもサンタクロースやトナカイのコスプレをして、大騒ぎのゲーム大会とケーキ作りとなりました。イベントを通じたメンバー同士の協力体制や対抗心は開校当初にはなかなか見られなかった姿なので、一段と感慨深くありました。

奈良クラブサッカー教室&試合観戦

奈良クラブ選手兼ぶろぼの職員でもある「ぶろぼの三銃士」によるサッカー教室を開催しました。ボールを使った動きや車いすを使っているスタッフも参加したミニサッカーなど、体を目いっぱい使って動き回りました。

数値実績 平均 1 日利用者数：23 人
登録者：11 名

関係機関 相談支援事業所：サポートはな、サポートセンターゆいまーる、
障がい児・者相談支援センターなら、桜実相談支援事業所、
リバティーすみれ、ミオの家、まちかど福祉ステーション
スコラを紹介していただいた機関：二階堂養護学校、大淀養護学校、
明日香養護学校、支援機関（サポート 21・なら）

Ⅶ 地域貢献活動

平成 27 年度 主な地域貢献活動

1 障がい福祉活動

事業協同組合への参画

奈良県障害者雇用ビジネスモデル推進補助金事業の認可を受け、障がい者雇用促進を図る場として事業協同組合「あたらしい・はたらくを・つくる福祉型事業協同組合」の設立に参画しました。障がい福祉団体や企業、個人事業主等異業種が参画する団体として、相互に知見を共有し、障がい者の働く場の拡大に取り組んでいきたいと思っています。



全国重度障害者雇用事業所協会奈良支部設立

全国重度障害者雇用事業所協会に参画する奈良県の団体「市民生活協同組合ならこーぷ」様「社団法人たんぽぽの家」様と連携し、奈良支部を設立しました。奈良県における障がい者雇用促進に向け、企業を対象に様々な働きかけを行って参ります。

2 地域貢献活動

自治会活動への参加

地元地域の自治会との繋がりから、いろいろな関わりを持たせていただいています。夏祭りへの出店参加、広報やチラシの組み綴りからポスティング、公民館主催のパソコン教室との連携等々。夏祭りは、訓練生が住民の方と触れ合う大切な機会となっています。



クリーン活動

新大宮事業所では、奈良市が市民と連携する取り組み「さわやかクリーン奈良」に参加。毎月2回、ホテル日航奈良様横の花壇の手入れや道路のゴミ拾いを行いました。

生駒事業所では、事業所前の「まちなかふろーらむ」と呼ばれる花壇の管理を生駒市から受託しています。地域の方のご協力もいただきながら、花の色や背丈を考えてデザインをし、毎日の水やりから草引き、花がら摘みまで行っています。ご近所の皆さんから見守っていただいています。



なら風パソコン講座

地域にお住いのシニアの方、障がいのある方を対象に、パソコン教室を実施しました。この教室は、NPO 法人奈良シニア IT 振興会（POAY）様と協働開催しています。POAY 様では、シニアの PC 指導者の活躍の場が生まれ、ぷろぽのでは、障がい者の指導補助として就労訓練の場が生まれ、地域には PC を気軽に学ぶ場が生まれています。



関西学研医療福祉学院様での講演会

8月に、学校法人青丹学園関西学研医療福祉学院 作業療法科の学生の方々にぷろぽのの就労移行支援の場を実習に来ていただきました。7月には、事前講義を実施し、障がいのある方の就労支援について知識を深めていただきました。



映画上映会・講演会開催

7月に、生駒にて映画上映会・講演会を実施（共催：「一般社団法人 無限」様、「NPO 法人 AtoMs」様）しました。

映画は、「シンプル・シモン」アスペルガー症候群の青年が主人公の物語。講演会は、「東京都成人発達障害当事者会イイトコサガシ」代表・冠地様による「大人の発達障がい精神障がいの方へ・生きやすくなるヒント」と題した講演とワークショップでした。

多くの方々に参加いただきました。今後も地域の方々に喜んでいただけるイベントを企画運営していきたいと考えています。



奈良クラブ応援プロジェクト

奈良を大切にしたいという思いから奈良を元気づけるサッカーチーム「奈良クラブ」を応援しています。平成 27 年度は、J3 昇格は叶いませんでしたが、ホームゲームでは頑張っている選手たちに、利用者の皆さんから熱い声援が飛び交っていました。

ぷろぼの職員としても「サッカーイベント」や「堤タイム」「毎週けーすけ」というミニ講座を実施し、訓練生にとって楽しいプログラムが確立されました。



3 企業団体連携活動

PC 寄贈活動～オージス総研様との連携～

福祉 3R センター事業では、オージス総研様より企業で使われなくなったパソコンを再生し、福祉団体や東北被災者へ寄贈していく社会貢献活動「はじまるくん」プログラムに参加させていただいています。平成 27 年度は、新たな取り組みとして、タブレット端末の再生、寄贈（特別支援学校へ）を行いました。



PC 寄贈活動～Class for Everyone 様との連携～

NPO 法人 Class for Everyone 様（以下、CFE 様）の「途上国への平等な教育機会を」という方針に賛同し、連携させていただくことになりました。

海外へのパソコンの寄贈に意義を追求するため、奈良県「子どもと大人でつくる地域のつながり事業」として、「こどもとパソコンの大冒険記」と題して奈良市の子どもたちを対象にパソコンの解体からクリーニング、メンテナンス等を行うイベントを開催しました。そこで出来上がったパソコンは、CFE 様を通じて、フィリピンに届けられ、フィリピンの図書館で活用されています。



VIII 福祉ビル

ぷろぼの福祉ビル～ Fellowship Center ～

1 福祉ビルの完成を目指して

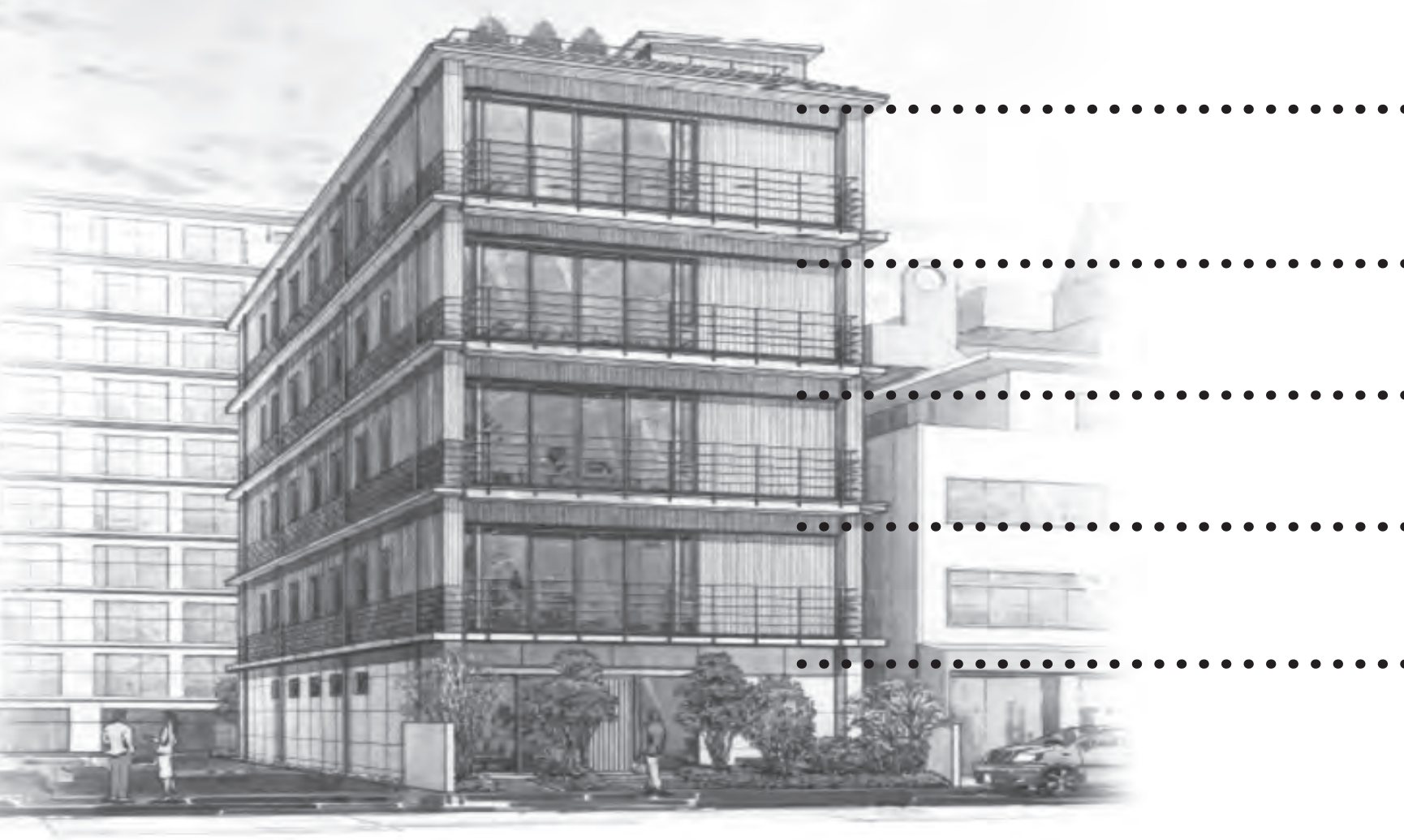
ビルについて

奈良県産の木材を使い、最新の工法（CLT 法）による、障がいのある方々を対象とした総合型障がい者支援施設（5 階建てビル）の建築に着手しました。

歴史や風情、更に優しさを表現したこのビルに、障がいのある方だけでなく、地域の方が気軽に立ち寄ることができ、若者やママたちが集い学ぶことができる建物の利活用を目指します。平成 28 年 7 月には、お披露目会を開催する予定です。

ビルへの思い

奈良には世界遺産に登録された春日山原生林があり、東部山間には里山が広がり、吉野には日本を代表する木材産地があるなど、森林や木材は奈良の代表的な風土になっています。奈良県産の杉や檜を十分に使用した自然の空気感いっぱいの木造福祉施設を最新の技術である CLT 工法により建築することで、奈良の自然を守り、林業の復活に貢献するきっかけになることを願っています。

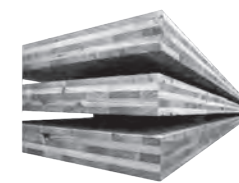


CLT とは

CLT とは Cross Laminated Timber の略称で、ひき板を並べた層を、板の方向が層ごとに直交するように重ねて接着した大判のパネルを示す用語です。CLT は 1995 年頃からオーストリアを中心として発展し、その利用は近年になり各国で急速な伸びを見せています。

CLT の建築材料としてのメリットは、寸法安定性の高さ、厚みがあることから高い断熱・遮音・耐火性を持つこと、また、持続可能な木質資源を利用していることによる環境性能の高さなどが挙げられます。また、プレファブ化や、接合具のシンプルさなどによる施工性の速さや、RC 造などと比べた場合の軽量性も大きな魅力です。

日本では 2013 年 12 月に JAS（日本農林規格）が制定されました。JAS での CLT の名称は、「直交集成板」となっています。（出典：CLT 協会）








ビルの概要

| | |
|---------|--|
| 住 所 | 奈良県奈良市大宮町 3 丁目 5 番 41 号 |
| 土 地 面 積 | 272.74㎡ |
| 用 途 地 域 | 商業地 |
| 建築総面積 | 971.54㎡ 5 階建て |
| C L T | 柱、梁部分、壁面に使用 (2 ～ 5 階に使用、1 階は鉄筋コンクリート) |
| 建 ぺ い 率 | 71.50% |
| 用 途 | 障害者福祉施設 |
| 設 計 者 | 一級建築士事務所 有限会社浅田設計室 浅田耕一氏 |
| 工事施工者 | 大倭殖産株式会社 代表取締役 矢追 盛賢氏 |

ぷろぼの福祉ビルで行う事業

- ・就労移行支援事業
 - ・放課後等デイサービス事業
 - ・就労継続支援事業（Proide、Pac）
 - ・自立訓練事業
 - ・代々木高等学校サテライト教室
- 食堂、多目的ステージ、多目的ルームも設け、地域の方々との交流の場としても活用していきます。

Fellowship Center では次の事業を行います。

| | | |
|---------------|---|---|
| 5F 学びの場 |  | ・多目的ルーム（定員：30 名） 地域の方々にもご利用（会議、講座等）いただけます（要予約）。 地域の方々との交流の場としても活用します。 |
| 4F 支援の場 |  | ・ぷろぼのスコラ（放課後等デイサービス） 主に障害のある高校生を対象に、ソーシャルスキル・IT スキル等を学ぶ場です。 |
| 3F 訓練の場 |  | ・アースカラーズぷろぼの新大宮（自立訓練） 「体力づくり」「生活力」「自己肯定感」「社会人基礎力」などを身につけ、 就職準備性を高めていく場です。 |
| 2F 働く場 |  | ・就労移行支援事業 「自己理解」「訓練実習」「就職活動」の 3 つの要素から成る就労移行支援プログラムに基づき、 一般就職を目指して訓練をする場です。 |
| 1F 集い&憩いの場 |  | ・Proide ホームページ制作、印刷デザイン制作等承ります。 |
| | | ・Pac 会計入力、データ入力等承ります。 |
| BF 雨水タンク | | ・ぷろぼの食堂 地域の方々にもご利用いただくことを予定しています。 |
| | | ・多目的ステージ 地域の方々が交流し憩える場として活用します。 |
| | | 生活用水を貯水し、災害時等での活用を図ります。（地上部にポンプを設置） |

2 福祉ビル完成までのイベント

地鎮祭

平成 27 年 10 月 6 日に自治会・理事会・評議員会・工事関係各位等多数のご臨席をいただき、地鎮祭を執り行いました。工事は、10 月 16 日に着工しました。



CLT 工場見学会

平成 27 年 11 月 19 日に「奈良県発！ CLT 工場見学会」と題して CLT 工場の見学会を開催しました。岡山県真庭市の銘建工業株式会社様の CLT パネル製造・加工所及びバイオマス発電所の様子を見学しました。奈良から片道 4 時間の遠方にも関わらず、54 名が参加し、熱心に見学され、活発な質問も飛び交っていました。



内覧会

平成 28 年 3 月 13 日にビルの内覧会を実施しました。建築業界関連の方を中心に、東京都・新潟県・宮崎県・高知県等遠方からの方も含め、65 名の参加をいただきました。RC（鉄筋コンクリート）と CLT との接合等新規の工法もあり、大いに注目を集めていました。



3 実施する事業について

1. 障害福祉サービス事業

① 就労移行支援事業 定員 20 名（デイサービス）

就労を目指す障がい者に職業訓練を提供する福祉サービスです。
パソコンスキルなどの技術習得のほか、ビジネスマナー・コミュニケーションスキルを身につけることや、長く働くために自己理解を深めることを目指します。

② 就労継続支援事業 A 型 定員 20 名（デイサービス）

職業訓練を終了した障がい者が習得した技能をもとに就労することを支援する福祉サービス制度です。実仕事で最低賃金以上の給料をもらいながら技能を高めます。業務としては、『会計記帳入力』『データ入力の事業』『ホームページ・印刷物の制作事業』を行います。

③ 就労継続支援事業 B 型 定員 20 名（デイサービス）

職業訓練が終了した方で、障がいによって企業就職が難しい方を対象に福祉的な働く場を提供する福祉サービス制度です。

④ 放課後等児童デイサービス事業 定員 10 名（デイサービス）

主に高等部の障がい児が学校の放課後や長期休みに、社会性を学ぶために利用する福祉事業です。

⑤ 自立訓練事業 定員 20 名（デイサービス）

就労を目指す障がい者が就職準備性を高めることを支援する福祉サービス制度です。
「自己肯定感」「体力づくり」「生活力」「社会人基礎力」などを座学や体験を通して身につけていきます。

2. 地域貢献事業

古都奈良の地を大切にす法人の理念に沿って、元気な奈良を作る活動です。
・施設見学、各種講座、交流イベントや勉強会を定期的に開催 ・まかない食堂による地域交流

Ⅸ 利用者の意識調査

平成27年度利用に関するアンケート 就労移行支援

ぷろぼのでは、訓練及び支援内容の評価と改善を目的に、平成24年度より利用者アンケートを実施しています。平成27年度の取り組みについて、アンケートで利用者のみなさんから評価をいただき、訓練・支援の改善に活用していきます。

1 実施概要

実施期間は平成27年2月15日～2月19日で、平成27年2月1日時点の状況を基に回答していただきました。実施対象は、平成27年2月1日時点で各事業所において就労移行支援サービスを利用している方です。

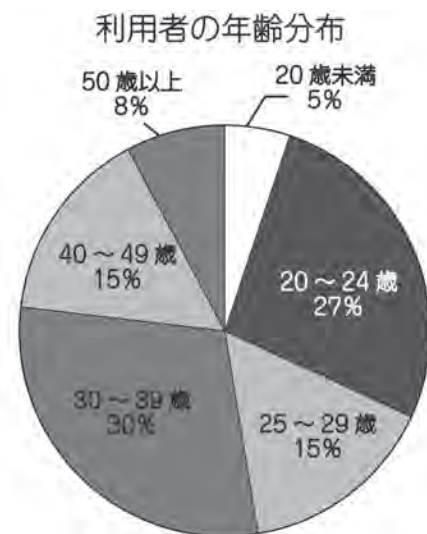
在籍者104名の内78名が回答し、回収率は75%となりました。各事業所の内訳は、生駒事業所では在籍者20名の内16名、高の原事業所では在籍者25名の内19名、新大宮事業所では在籍者29名の内22名、大和八木事業所では在籍者30名の内21名に回答していただきました。

アンケート項目は、訓練・支援についての質問を7問、生活状況等についての質問を3問、その他ぷろぼのへの要望を3問で設定しました。基本的に集団実施とし、利用者の理解度や訓練スケジュールに合わせ、一部個人で実施しました。基本属性については、昨年度までアンケート項目として設定し、回答者による記述を基に集計していましたが、今年度はアンケートからは削除し、利用開始時の聞き取りを基に集計しました。

2 基本属性

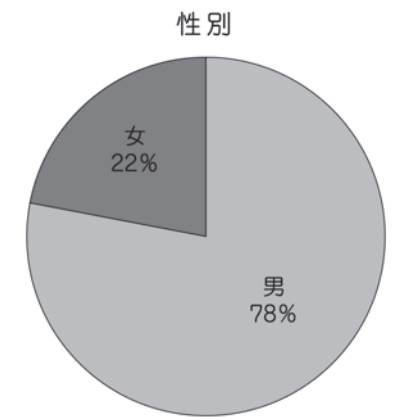
(1) 年齢

ぷろぼのには、幅広い年齢層の方が在籍しています。一番多いのは20代の方で、全体の42%を占めています。また、昨年度に比べ30代の方と、50代以上の方は4%増加しています。



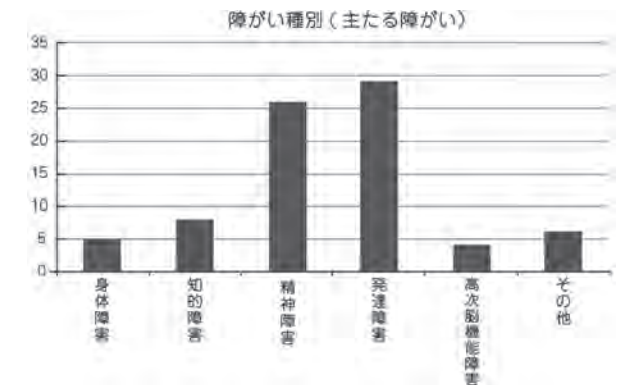
(2) 性別

性別は、男性が78%、女性が22%で、男性の比率が高くなっています。

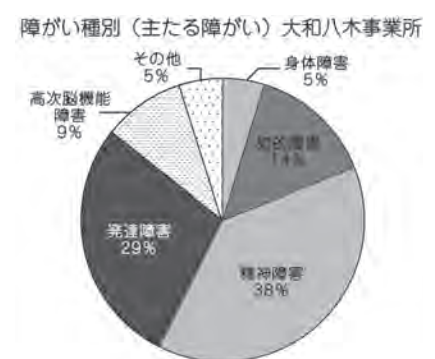
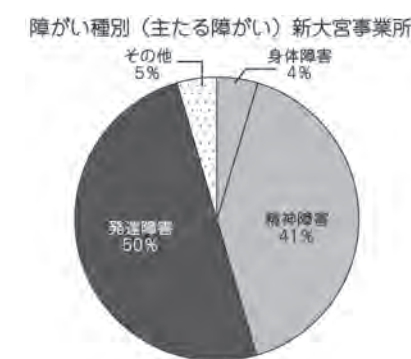
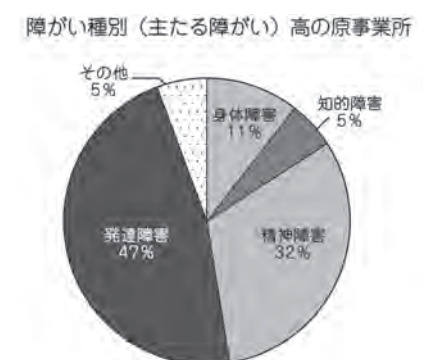
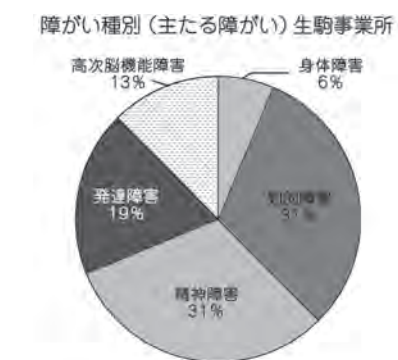


(3) 障がい種別

主な障がいは、発達障害が一番多く、次いで精神障害、知的障害の順となりました。このうち12%（9名）の方が重複した障がいがあります。具体的には、発達障害と知的障害の重複や、精神障害と発達障害、身体障害と発達障害等のある方がいます。

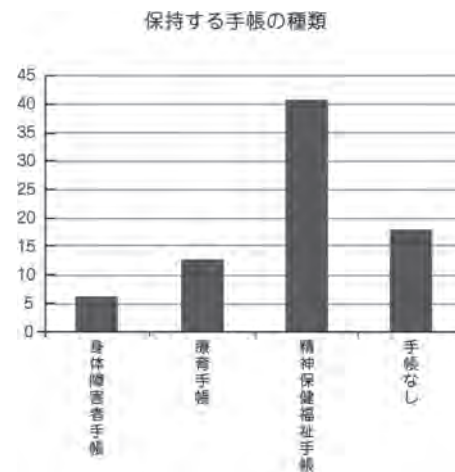


事業所別にみると、生駒事業所では昨年度に比べ知的障害の割合が増え、全事業所の中で最も割合が高くなっています。高の原事業所・新大宮事業所では発達障害と精神障害の割合が多く、合わせると高の原事業所では約8割、新大宮事業所では約9割を占めています。大和八木事業所も精神障害と発達障害合わせて約7割と高くなっていますが、知的障害、高次脳機能障害も一定の割合を占めています。



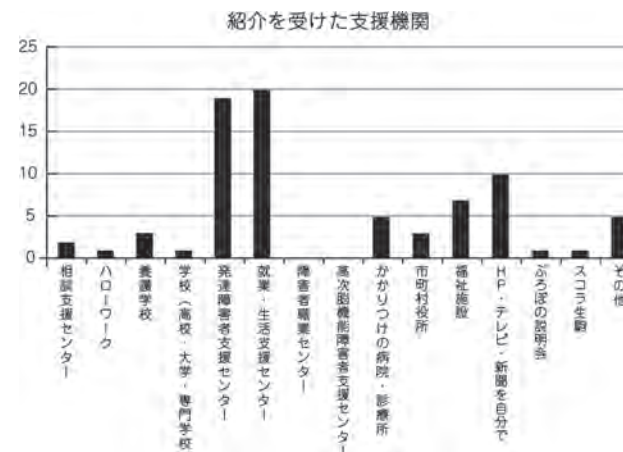
(4) 障害者手帳

手帳については、精神障害者福祉手帳を保持している方が多いです。精神障害のある利用者の多さや、発達障害のある方へ同手帳が交付されることが多いのがその理由です。手帳のない方（18名）は昨年度（8名）より大幅に増加しています。その背景として、これまでは支援機関を経由し、手帳を取得されてからの利用が多かったのですが、今年度は自立支援医療のみ利用中の方や直接ホームページを見て利用を希望される方が増えたことが理由として考えられます。また、診断後半年から1年以内で利用につながる方が増え、手帳取得は利用と並行して行う方が増えたことも一因です。これまでも、手帳未取得者が利用開始後に職業相談をする中で手帳を申請することがありました。障害者雇用での就職を目指す場合には、手帳を取得することも選択肢の一つとして考えられることなどの情報提供も行っています。



(5) ぷろぼの利用時の紹介機関

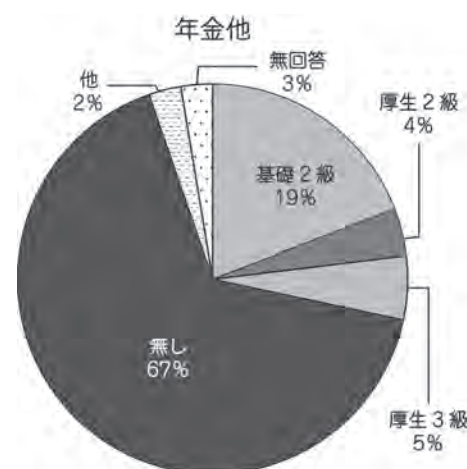
ぷろぼの利用するにあたって、紹介を受けた支援機関は、各地の「就業・生活支援センター」が最も多く、次いで「発達障害者支援センター」が多くなっています。背景として、高の原事業所を中心に京都府内の「就業・生活支援センター」「発達障害者支援センター」からの紹介が増えたことも一因と考えられます。他にも病院や市町村役所、学校などからも紹介を受けています。



(6) 障害年金の受給有無

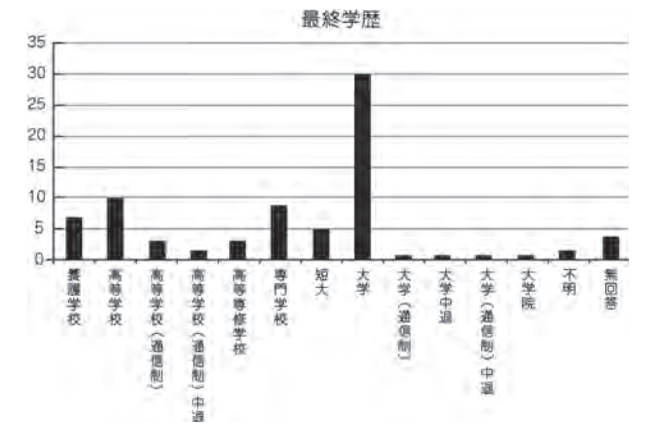
障害年金については、障害基礎年金や障害厚生年金を受給されている方が全体の30%います。一方で、年金を受給していない方は67%いました。障害年金の受給要件に合わずに受給が難しい方もいれば、年金の申請を考えたことがない方もおり、情報提供が必要と考えられます。

金銭管理を家族が行っている場合も含め、生活上の不安を抱えている方も多くいます。障害年金を受給できれば、収入と年金を併せた生活設計が可能となり、短時間勤務や福祉的就労など障がいの状況と合わせた就労も検討できます。より早い時期から、受給に関する情報提供や相談を進めていくことが必要と考えられます。



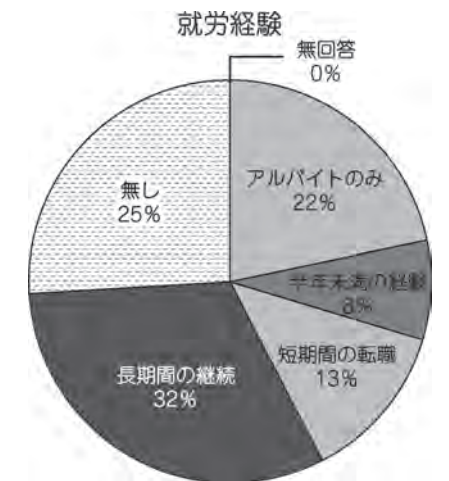
(7) 最終学歴

学歴としては、四年制大学卒業が最も多く39%（30名）でした。続いて高等学校卒業13%（10名）、専門学校・短大卒業が12%（9名）、養護学校高等部及び高等養護学校卒業が10%（7名）と続いています。



(8) 就労経験

就労経験については、75%が「あり」と回答しました。ただし、この中には短期間のアルバイト経験も含んでいます。全く就労経験のない方も25%いました。

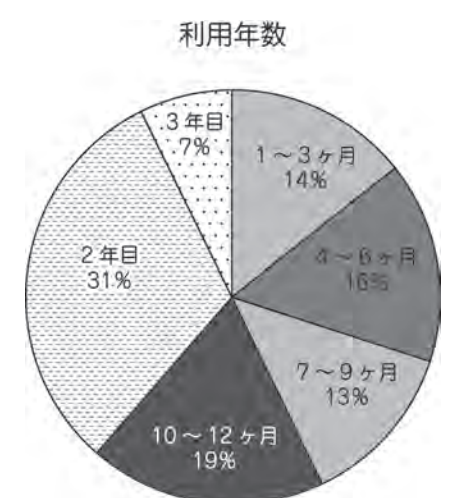


3 訓練・支援

(1) 利用年数

対象者の利用年数は、1年目が62%、2年目が31%、3年目が7%となっています。昨年に比べ2年目・3年目がそれぞれ減り、1年目の割合が増えました。背景として、就労に向けた動き（実習・就職活動）を1年目から行うことが増えたこともあります。

一方で、利用者の状態を見ながら、実習など外に出る動きだけでなく、「働き続ける力」を育てるための訓練にも力を入れています。

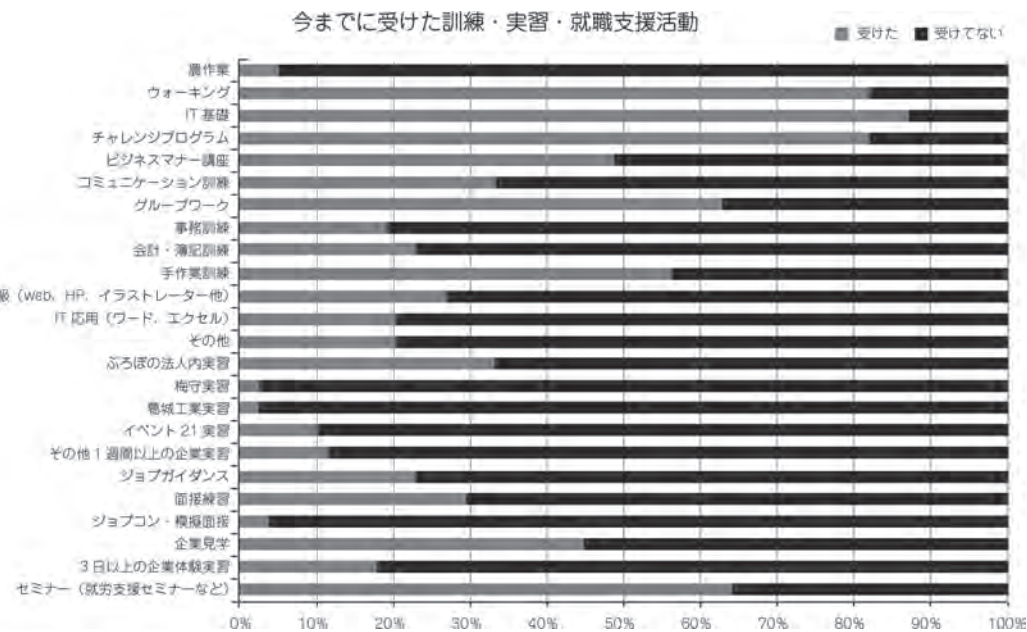


(2) 参加した訓練

基礎訓練である「IT基礎」「チャレンジプログラム」にはほとんどの方が参加しています。また、各事業所で基礎的な生活習慣及び体力づくりになる「ウォーキング」も参加割合が高いです。「手作業訓練」や「グループワーク」も各事業所で取り組んでおり、5割以上が参加しています。

今年度から「農作業」の訓練も設定され、東吉野村のよもぎ作業を中心に体験者が徐々に増えています。参加者の中には、自然豊かな作業環境の中で過ごすことがリフレッシュにつながっていると感じている方もいます。

セミナーについては、平成 27 年度より就職支援セミナーを月 1 回実施しており、参加する割合が多くなっています。



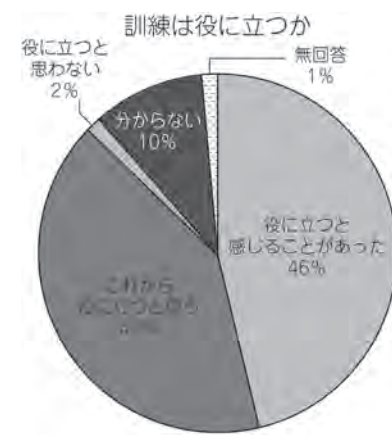
(3) 訓練の評価

訓練の効果について、「役に立つと感じることがあった」と「これから役に立つと思う」と答えた方は合わせて 87% でした。具体的には、「役に立つと感じることがあった」と答えた方は 46% となっており、訓練で学んだことを別の場面で役に立つと感じることがあるようです。

「これから役に立つと思う」と答えた方は 41% です。今後役に立つと思う理由としては、ビジネスマナーやパソコンスキル、生活リズムの改善など、就労上の課題が改善されたことや、訓練を通じて就労に向かっていくという実感を得ることができるということが挙げられました。

「役に立つと思わない」と回答した方は 2% で、その理由として、訓練が何に役立つかわからない・普通はできて当たり前と思うということを挙げていました。

「分からない」と回答した方は 10% でした。職種もイメージできないので判断できない場合や「やってみないと分からないと思う」という回答があり、障がい特性から経験していないことはイメージしづらいためと考えられます。また、事業所で訓練・取り組みの目的をきちんと説明しきれていないことも考えられます。人の入れ替わりがある中で、昨年度も「分からない」と回答した方は 11% とほぼ同じ割合でした。利用開始時には「分からない」と感じる傾向が高く、訓練が進む中で役に立つことを実感する機会が増えるため、「役に立つ」と回答する方も増えると考えられます。

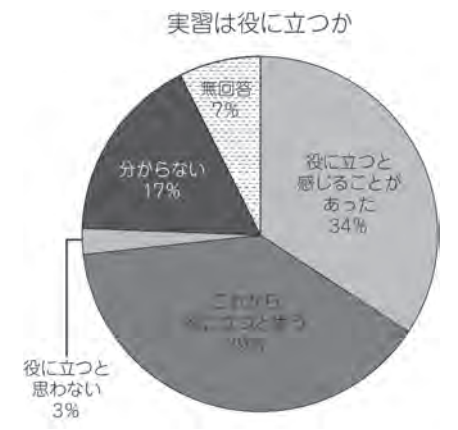


(4) 実習の評価

実習について、「役に立つと思う・実感した」と答えた方は合わせて 73% でした。具体的には、「役に立つと実感した」と回答した方は 34% で、訓練よりもその比率は減りました。「今後役に立つと思う」と答えた方は 39% でした。

理由としては、自分の今の力・状態が客観的に分かることや、職場に近い環境・雰囲気体験できることがよいという意見もありました。

「役に立つと思わない」と回答した方は 3% で、その理由としては、よく覚えていないという意見が挙げられました。また、「分からない」と回答した方は 17% で、その理由を実際に就職する時の仕事内容と同じか分からないためと回答しています。作業内容以外の目的が伝わっていなかったと考えられ、今後は事前に実習の目的や意味を十分説明して取り組んでいく必要があると考えられます。

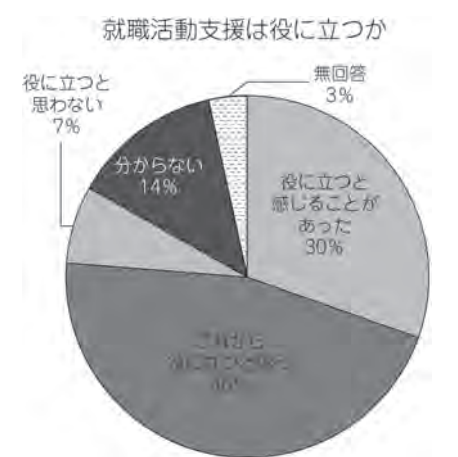


(5) 就職活動支援の評価

就職活動について、「役に立つと思う・実感した」と答えた方は合わせて 76% でした。具体的には、「役に立つと実感した」と答えた方は 30% となっており、「今後役に立つと思う」と答えた方は 46% でした。今後役に立つと思う理由としては、就職支援セミナーを通じて、就職活動や生活に必要な知識を得ることができたことを挙げていました。

また面接練習の機会を得たことなど、就職活動の具体的な支援が役に立つと挙げられていました。

「分からない」と回答した方は 14% おり、まだ就職活動を始めていない中で実際の就職活動に役立つかわからないと回答しています。

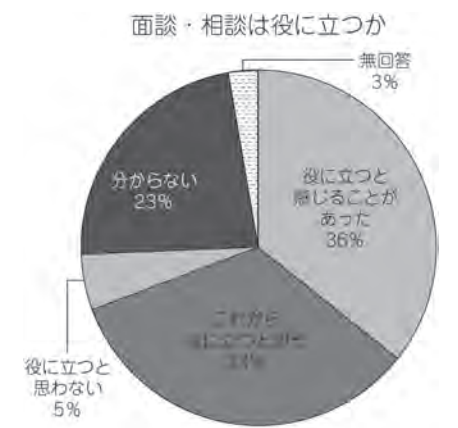


(6) 面談・相談の評価

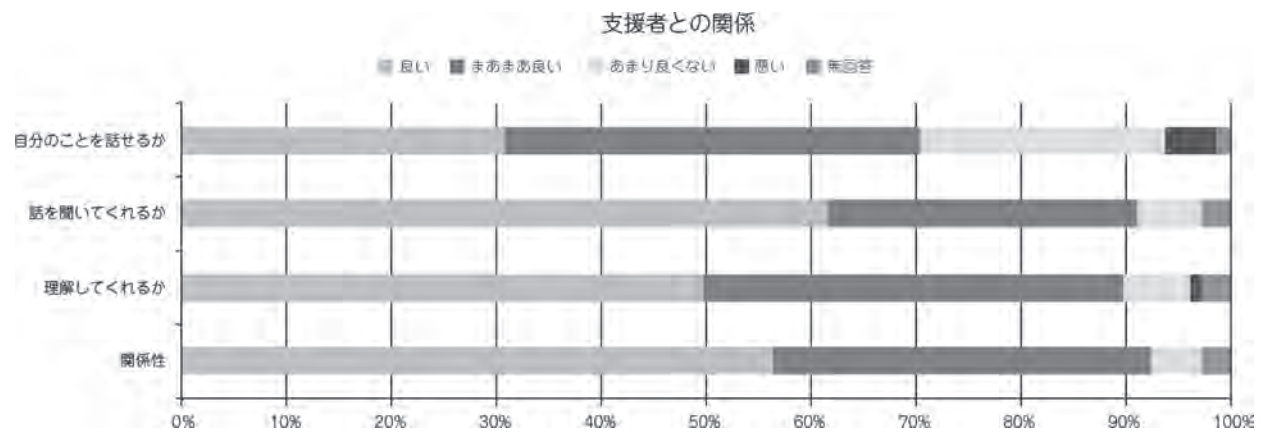
面談・相談について、「役に立つと思う・実感した」と答えた方は合わせて 69% でした。

具体的には、「役に立つと実感した」と答えた方は 36% で、面談を通じて自分の状況や課題を整理できたことや、問題となる状況に陥った時に客観的で適切なアドバイスをもらったことを理由として挙げていました。

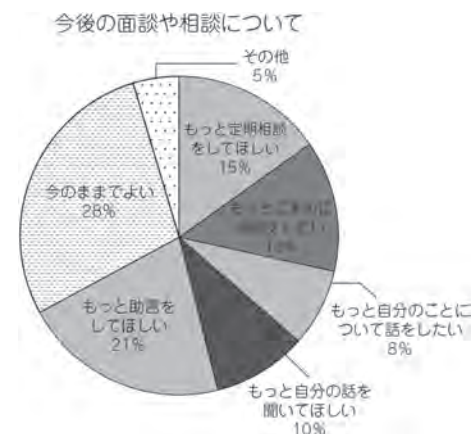
「今後役に立つと思う」と答えた方は 33% でした。理由としては、就職に関する情報提供やアドバイスを受けたことや、面談で整理したことや分かったことが就職する時に役に立つと思うということが挙げられました。



「役に立つと思わない」と答えた方は5%（4名）で、その理由として就労に向けての相談をしていないことや、就職に直接役立つとは思えないことを挙げていました。また「分からない」と回答した方は23%で、その理由としては、利用期間が短くまだ面談の機会が少ないことや、就労に向けての相談が始まっていないことが挙げられました。理由の回答がない方も数名いました。



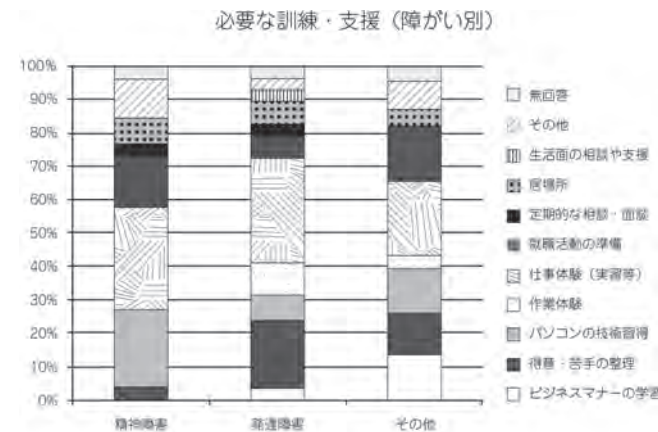
支援者との関係について、関係性が良いかどうか、自分のことを理解してくれるかどうか、よく話を聞いてくれるかどうか、自分のことを良く話せるかどうか、の4点について尋ねました。上記3項目については良い、まあまあ良いを合わせると約90%以上の利用者から概ね良い評価を得ています。一方、自分のことを話せるか、については、あまり話せない・話せないの割合が27%（22人）と一定数ありました。



（7）必要な訓練・支援

今自分に一番必要だと思う訓練・支援を1つ回答してもらったところ、次のような結果となりました。この結果については、「障がい別」・「利用年数別」の2つの視点で分析しました。

全体の傾向として、「仕事体験（実習）」の割合が最も高く、障がい種別に関係なく約30%を占めていました。実習に参加する方が増え、実習に対するイメージが広がっていることが理由として考えられます。

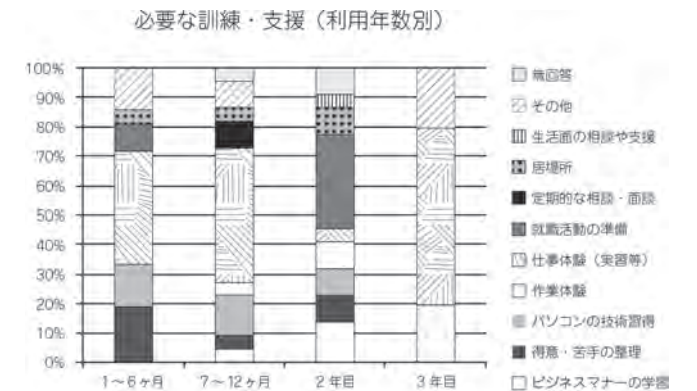


障がい別にみると、精神障害のある方は2番目に「パソコンの技術習得」と答える方が多く、次いで「就職活動の準備」を挙げています。「パソコンの技術習得」の回答が多い理由は、資格やスキルが就職に有利だという考えを持つ方が多く、事務職を希望している方が多いのも理由として考えられます。

発達障害のある方は、「得意苦手手の整理」と回答する方が2番目に多く、背景として、就労経験のないまたは短期間の経験の方が増えていることが考えられます。就労経験はあるが上手くいかず、どの職業だと長く続くのか分からない方が多いと推測されます。

その他の障害については対象者の人数が少なく、今回は傾向の抽出はしませんでした。が、実習やパソコンの技術習得、就職活動の準備のニーズが高くなっていました。

利用年数別にみると、利用1～6か月の方は、「仕事体験（実習）」を回答する方が多く、7～12ヶ月となるとその割合はさらに増します。2年目になると実習に行く方も多いため、「就職活動の準備」を選ぶ方が多い傾向にあります。3年目になるとマッチングのため、外部実習のニーズが高いと考えられます。



昨年に比べ実習を選択する方が増えており、技術習得を選択する方も減っています。おろほのが以前より取り組んでいる「働き続ける力」を伸ばす取り組みが定着していると考えられます。

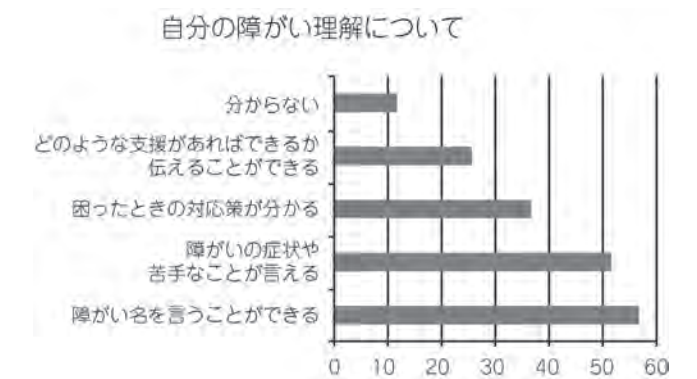
全体の傾向としては、生活面の相談を選ぶ人が昨年度より減少しています。

（8）障がいの自己理解

障がいをオープンにして支援を受けながら就労を目指す場合には、自分の障がいを理解し、必要な配慮点をきちんと相手に伝えられることが非常に重要です。

アンケートでは、多くの方が「障がい名を言うことができる」57名（昨年65名）や「障がいの症状や苦手なことが言える」52名（昨年35名）と回答しています。

また、「困った時の対応策が分かる」と回答した方は37名（昨年37名）、「どのような支援があればできるか伝えることができる」と回答した方は26名（昨年20名）であり、半数以上の方が『困った時の対応策』又は『必要な支援・配慮事項』が分からない状態であることが明らかになりました。昨年度よりも答えられる人の数は減少しており、何らかの取り組みが必要と考えられます。



（９）その他要望・改善点

訓練や実習、就職活動支援、面談・相談に関する自由記述欄では、以下のような要望・改善点が挙げられました。

| | |
|--------|---|
| 訓練 | 専門的な IT スキルを丁寧に学びたい／実務に近い訓練がしたい／より高度なビジネスマナーを学びたい |
| 実習 | 実習先を増やしてほしい／体験的に参加できる実習／早めに実習に行きたい |
| 就職活動支援 | 見学に行きたい／書類の書き方を教えてほしい／面接練習がしたい |
| 面接・相談 | 現在の面談・相談体制の継続／面談の機会を増やしてほしい |

4 生活について

（１）生活習慣

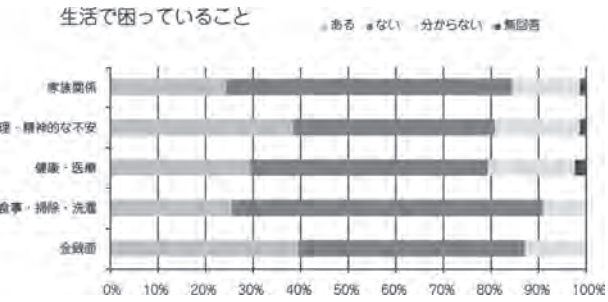
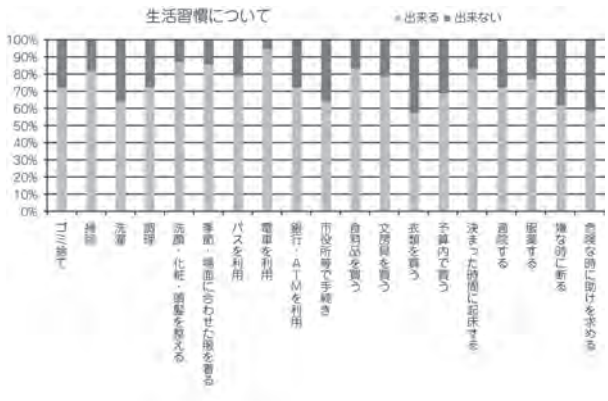
家事、身だしなみ、公共サービスの利用、買い物、健康管理、危機管理の６種類について、自分で、または支援サービスを利用してできることを回答してもらいました。

項目によってばらつきがありますが、どの項目も概ね６割以上の方が自分でできると回答しています。家事や公共サービスの利用、買い物については、家族と同居している環境などから経験不足も背景にあると考えられます。危機管理の項目は、障がいに関係なく苦手・できないと感じる方も多いようです。

安定した就労生活において生活面の自立も課題となりますが、体験不足の方に対して、家事や買い物などの生活スキルを経験する機会を提供することも、訓練期又は就労後の生活におけるニーズとして明らかになりました。危機管理の項目（嫌なことを断る・危険な時に助けを呼ぶ）については、就労生活に必要なスキルでもあり、訓練で取り組むとともに就職支援セミナーとして、情報提供を行っています。

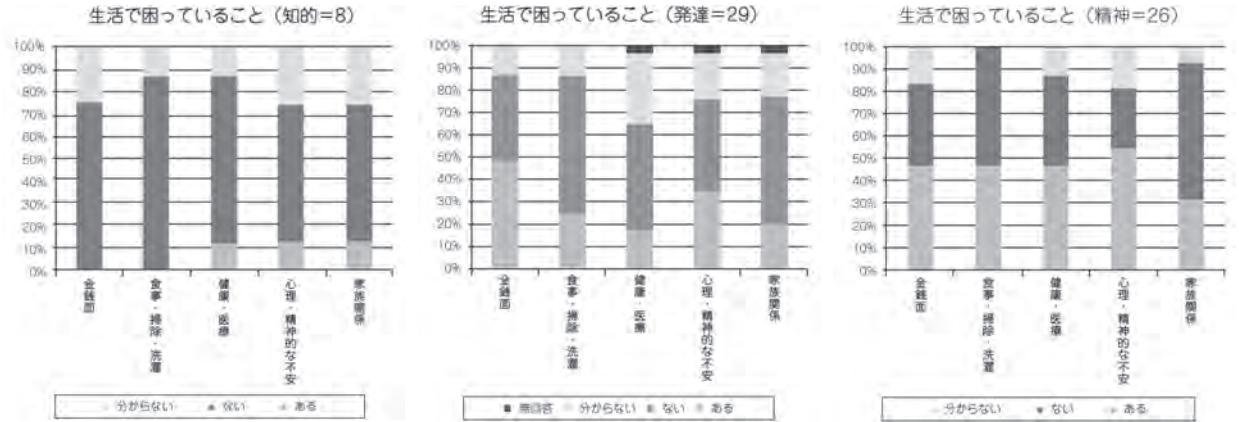
（２）生活で困っていること

全体的には、何らかの困りごとを抱えている方が多かったことから、就労に向けた訓練だけでなく、生活面の支援へのニーズも高いことが分かります。また、金銭面で「分からない」と回答した方が13%いました。年金取得でも「分からない」と選択するなど、自分の金銭的な状況を把握していない方もいることが分かりました。



障がい別に見ると、精神障害のある方は、全体的に困りごとが多い傾向にあります。特に心理・精神的な不安は精神障害の特性の一つと考えられます。発達障害や知的障害のある方は、家事（食事・掃除・清掃）についての困りごとが少ない傾向にあります。これは家族との同居などから困った状況に置かれていないことや、経験のない場面でイメージを持ちづらく、困ると予想しにくい特性もあると考えられます。また健康・医療面の困りごとが少ない傾向があり、定期通院の必要性がないことも理由と思われる。

知的障害のある方では「困っていない」という回答が多く、困るという感覚の持ちづらさもあると考えられます。

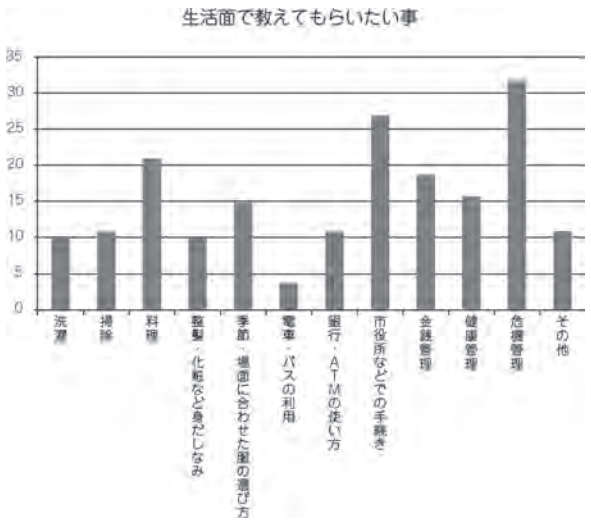


（３）生活面で教えてもらいたい事

生活面で教えてもらいたい事を尋ねると、「嫌な時に断る」「危険な時に助けを求める」などの危機管理を選ぶ方が多く、市役所などでの手続き、金銭管理、料理への回答が多かったです。

障害者手帳やサービス受給者証の更新など、生活に必要な手続きについて情報提供したり、危機管理や金銭管理などについては、支援機関と連携しながら支援していく必要があります。

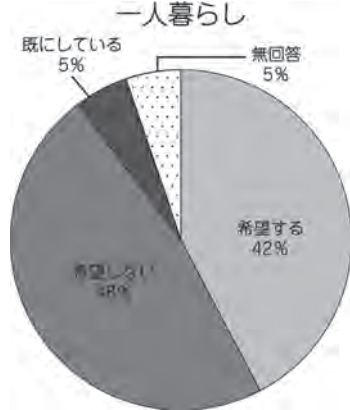
また料理についてはグループワークで取り組んでいる事業所もありますが、スキルだけでなく、栄養管理も含めた情報提供を行っていくことも必要と思われます。要望が多かったものについては、平成28年度に情報提供などの取り組みを検討します。



（４）住まい

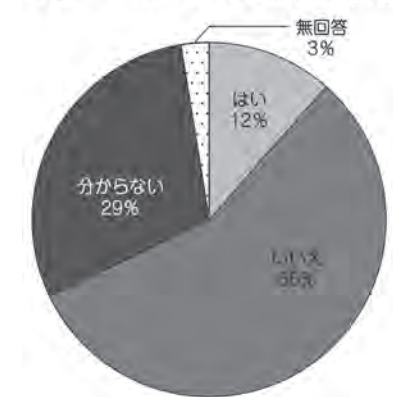
現在の生活体系は、90%の方が家族と同居しており、5%の方が一人暮らしをしています。

一人暮らしについては、4名の方が「既にしてている」と回答しています。また33名の方が「一人暮らしをしたい」と回答していました。



「一人暮らしをしたい」と希望している方のうち、7名が「グループホームの案内があれば利用を相談したいか」という質問に「はい」と回答していました。一人暮らしに向けて、家事・買い物等の生活習慣についての練習や支援へのニーズがあると考えられます。

グループホームを利用したいか

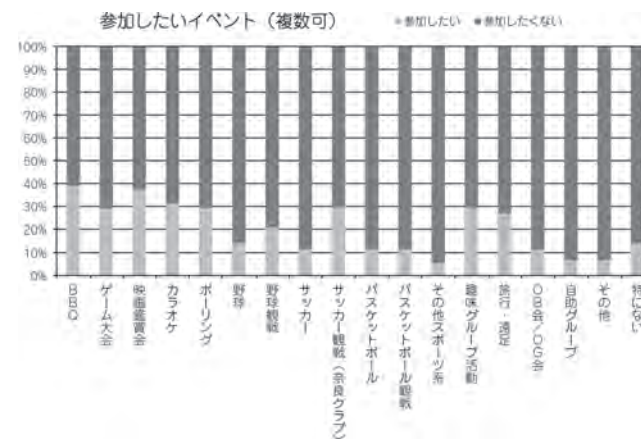


5 その他

(1) イベントへの要望

ぷろぼのでは現在、各事業所における余暇活動・イベントの他、全事業所を対象としたイベントも開催しています。

アンケートでは、「特にない」と答えた11名以外の方が、何らかの余暇活動・イベントへ参加したいと回答していました。最も多かったのがBBQで、次に、映画鑑賞会やカラオケ、ゲーム大会でした。



これらは現在事業所のイベントとして行っています。また次に趣味グループ活動、サッカー観戦（奈良クラブ）、ボーリングが挙がっていました。いただいたご意見を参考にして、今後の余暇活動・イベントを企画していきます。

(2) 平成27年度の卒業者・利用中止者

平成27年度にぷろぼのを卒業した方は計57名（平成27年3月31日時点）です。その内就職した方が24名、ぷろぼのの就労継続支援B型へ移行した方が13名、他施設の就労継続支援B型へ移行した方が3名でした。期間満了で利用終了となった方は2名で、地活へ移行や自宅療養することとなりました。利用を中止した方は15名でした。これは症状の悪化が主な理由で、その後は相談支援や他施設を利用することになりました。他にも転居や復学、クローズで就職活動に専念するという理由もありました。

就職者24名の内訳は、一般就労・復職16名、就労継続支援A型就労8名です。就職者の平均利用期間については、一般就労・復職へつながった方は約19ヵ月間、就労継続支援A型就労へつながった方は約26ヵ月間となりました。

平成27年3月31日時点で過去3年間に企業などに就職された方は55名で、定着率は85%（47名）でした。（詳細につきましては就労支援P100～を参照ください）

6 まとめ

昨年度に引き続き、全体を通じてぷろぼのの提供している支援・訓練への「役に立っている」という満足度が高いことから、ぷろぼのの取り組みが、利用者みなさんのニーズに応じて実施されていると言えます。

具体的には、就職支援セミナーを定期開催したことや、内部実習・外部実習の機会が増えたことが働き続ける力を伸ばすための取り組みとして充実したことが挙げられます。一方で、昨年比で就職者が少なかったことも傾向の一つです。理由として、ぷろぼの内での働く場（就労継続A型・B型）における就労が充実し、定着したことから、A型・B型で働くことが選択肢となったことが挙げられます。漠然と「働きたい」「お金がほしい」と考えている利用者が「ぷろぼの」につながり、働くための訓練を受けるケースも増えています。

また、ぷろぼので働きたいと思って利用を希望する方も増え、地域の中で魅力的な仕事や職場を作りだしていることを支援機関や利用者に評価していただいていると考えられます。

また、今年度のアンケートでは、新たな要望・改善点も挙げられました。

訓練としては、「専門的なITスキルを丁寧に学びたい」「実務に近い訓練がしたい」「より高度なビジネスマナーを学びたい」など、応用的・実践的な訓練の要望があります。これらの要望は実習により対応できることであり、実習に関する要望（実習先を増やしてほしい／体験的に参加できる実習／早めに実習に行きたい）ともつながります。

実習については、特に事務の仕事を希望する方が多く、内部実習での対応検討や外部実習の開拓が必要です。

面談・相談については、職員が忙しく相談しづらい、もっと話をしっかり聞いてほしいという要望があります。福祉的な支援をより多く求める方もおり、今後は「働き続けるための支援」と「福祉的な支援」をより充実させていく必要があります。

これまで「就職したい」と思い、資格や技術習得を目指して利用につながることが多かったのですが、現在はぷろぼのの訓練・実習を通じて「働き続けることができるようになりたい」「自分に合う仕事がしたい」と思う方が利用につながることが多くなりました。そのため実習のニーズが増し、内部実習や外部実習により対応してきましたが、十分とは言えず、今後は特定の利用者を想定した実習先の開拓を進める必要があります。これらは次年度より本格的に進めることが決定しています。マッチングのできる実習、就職をぷろぼのの強みにしていきたいと考えています。

いただいた評価や改善のご意見をもとに、次年度での対応を検討していきたいと思えます。ご協力いただき、ありがとうございました。

平成27年度利用に関するアンケート 就労継続支援

平成27年度より就労継続支援A型・B型の利用者の方々を対象に、仕事や生活に関するアンケートを実施しました。アンケートの結果をもとに、障がい者の「はたらく場」の環境改善や生活の支援、就労移行支援事業での支援体制の充実に活用させていただきます。

1 実施概要

実施期間は平成27年3月15日～3月31日で、平成27年2月1日時点の状況を基に回答していただきました。実施対象は、平成27年2月1日時点でITセンター奈良およびITセンター大和八木において就労継続支援A型サービスおよび就労継続支援B型サービスを利用している方です。

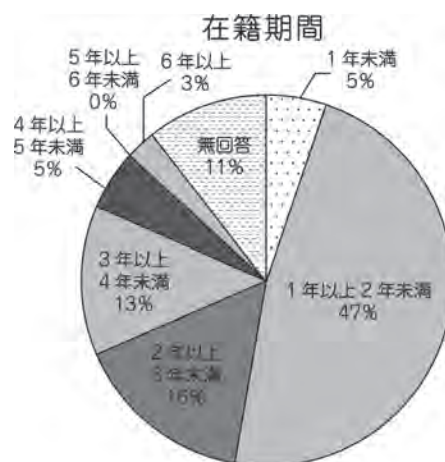
在籍者50名のうち38名が回答し、回収率は76%となりました。38名のサービス内訳は、就労継続支援A型利用者が15名、就労継続支援B型利用者が19名、無回答が4名です。

アンケート項目は、仕事についての質問を8問、就労移行支援在籍時に受けた訓練・支援についての質問を2問、生活状況等についての質問を2問、その他の質問を3問で設定しました。基本的に個別に実施し、無記名で回答していただきました。

2 仕事について

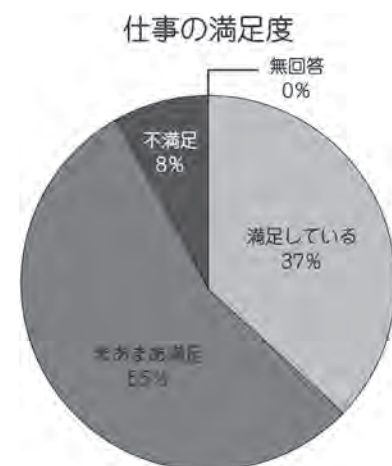
(1) 在籍期間

対象者の就労継続支援サービスの在籍期間は、1年未満が5%、1年以上2年未満が47%、2年以上3年未満が16%、3年以上4年未満が13%、4年以上5年未満が5%、5年以上6年未満が0%、6年以上が3%、無回答が11%です。

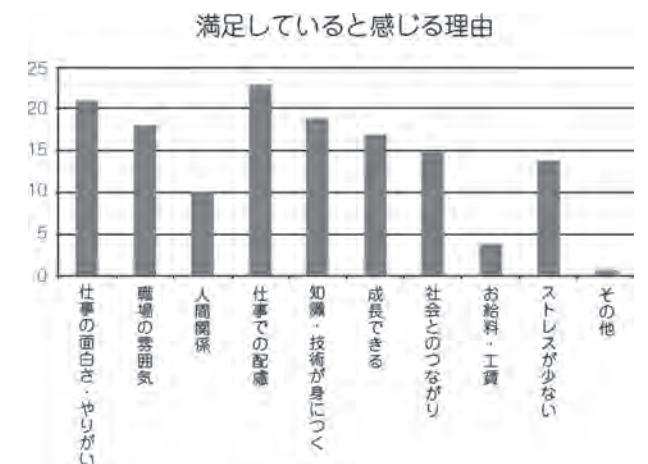


(2) 仕事の満足度

現在の仕事について、「満足している」と回答した方は37%、「まあまあ満足している」と回答した方は55%、「不満足」と回答した方は8%でした。全体の92%の方が現在の仕事におおむね満足していることがわかりました。

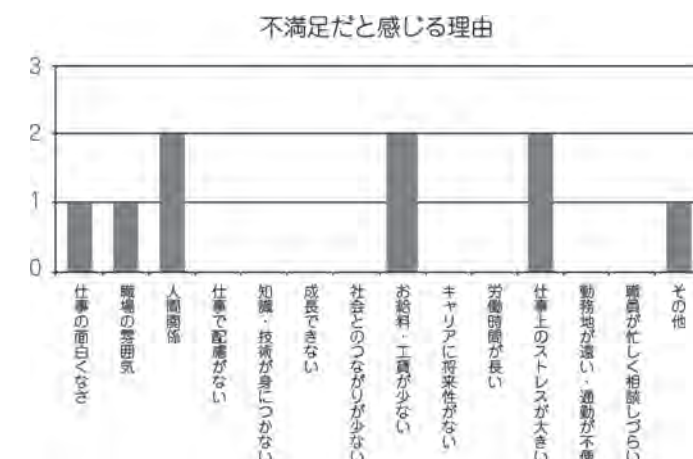


「満足している」と感じる理由としては、「仕事での配慮」と答える方が23名と最も多く、続いて「仕事の面白さ・やりがい」(21名)、「知識・技術が身につく」(19名)、「職場の雰囲気」(18名)、「成長できる」(17名)と続いています。



利用されている方にとって、仕事で「配慮が得られること」という「働きやすさ」が最も重要である一方で、「面白さ・やりがい」も長く働き続けるために大事な要素であることが明らかになりました。

一方で「不満足」と回答した8% (3名) は、「人間関係」「給料・工賃が少ない」「仕事上のストレスが大きい」「仕事の面白くない」「自身の成長や貢献の具合」を理由としていました。個別の課題や理由もあると考えられますが、定期面談等で本人の想いや状況を聞き取り、「人間関係」や「仕事上のストレス」「仕事の面白くない」などに対応していく必要があります。「給料・工賃が少ない」ことを不満足の原因に挙げる方もおり、また満足している方の中でも「給料・工賃」を満足している理由と挙げる方が少なかったことから、「給料・工賃の向上」も課題であると言えます。就労事業を一層伸ばし、利用者の工賃・給料を上げることも、事業運営として必要だと考えられます。



(3) 仕事をして感じていること

利用者の方々が日々、仕事をしてどのようなことを感じているのか知るために、満足度と合わせて「仕事をしていて感じることを」尋ねました。

回答としては「仕事を通じて自分が成長している」と感じる方が最も多く、多くの方にとって、ぷろぼのの仕事が成長のきっかけになっていると言えます。

次に「やり遂げた際に達成感を覚える」、「働き甲斐がある」「仕事の内容が面白い」と答える方が多く、仕事の「やりがい」「面白さ」が働く動機につながっていると思われます。

また、「ぷろぼの中で役立っている」「社会の中で役に立っている」と感じる方も多く、ぷろぼの中で働くことを通じて、社会とのつながりや自分が誰か・何かに役立っていると感じる方が多いことがわかります。

一方で否定的な意見としては、「将来に不安がある」と答える方が最も多く、次に「働いていてしんどい」と感じる方もいらっしゃいました。それぞれの事情もありますが、生活面や経済面、業務内容など、将来に対する不安・希望などは定期面談を通じて適宜把握することが必要です。

仕事をしていて「やりがい・面白さ」を感じるときを尋ねた設問（自由記述）では、「仕事ができるとき」「できることが増えたとき」など「自分の成長」に関する意見や、「お客様に喜んでもらえたとき」「商品が売れたとき」など「役に立つ・人を喜ばせること」に関する意見が多かったです。

特にぷろぼの中で働いていて成長できたと感じることとしては、「作業力の向上」「コミュニケーションをうまく取れるようになったこと」「自分を客観的に見られるようになったこと」を挙げていました。

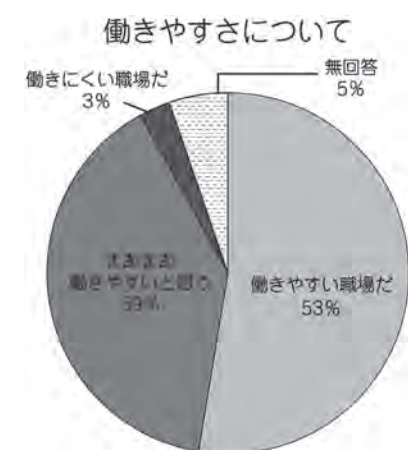
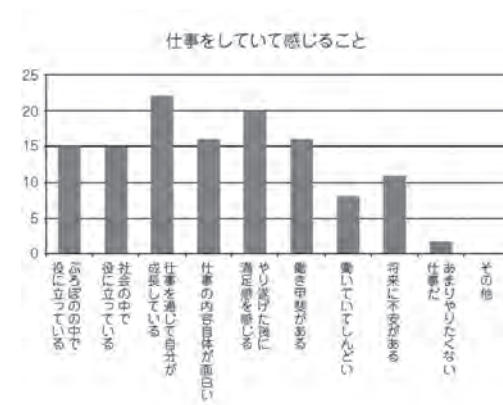
上記のように「自分の成長」や「役に立つ・人を喜ばせること」を大切にした事業運営に今後も取り組むことで、利用者の方々に仕事で「やりがい・面白さ」を引き出し、それが成長につながることであります。

（４）職場環境について

職場環境として、働きやすい職場かどうか、および職場の人間関係についての質問を設定しました。

働きやすさについては、「働きやすい職場だ」と答えた方が53%、「まあまあ働きやすいと思う」と答えた方は39%です。「働きやすい職場だ」「まあまあ働きやすいと思う」と答えた方の理由としては、「配慮・サポートが得られること」と「職場の人間関係」を挙げる方が多く、そのほかに「スキルアップができる」と答える方もいました。引き続き、それぞれの特性に応じた配慮・サポートを行い、働く場として職場の人間関係・雰囲気を良くするための取り組みを進めていきます。

「働きにくい職場だ」と答えた方は、理由として「実習を希望している」ことを挙げていました。個別の定期面談を通じて希望をうかがいながら、実習などそれぞれが希望する働き方に向けた支援の仕組みも今後検討いたします。



職場環境・人間関係について、「困った時に上司に相談できる」と答える方が最も多く、次に、「仕事の上で尊敬・信頼できる上司や先輩がいる」「職場の人間関係について大きなストレスがない」と答える方が多くいました。これらは「働きやすさ」にも関係しているところが多く、今後の働きやすい環境づくりとして現場で考慮することが大切です。

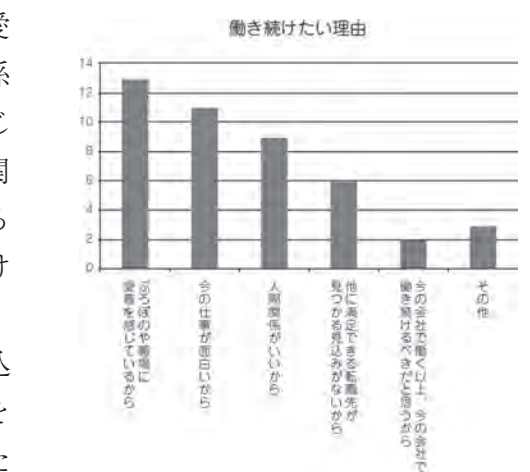
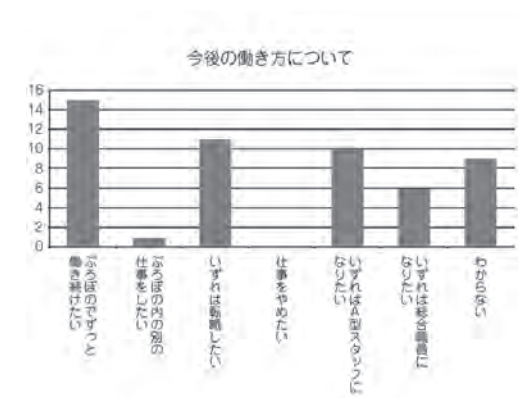
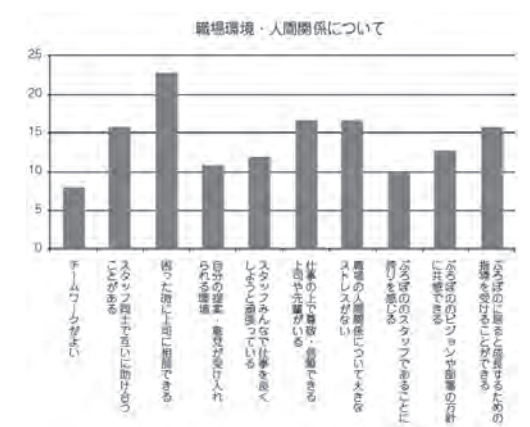
（５）今後の働き方について

今後の働き方について、「ぷろぼのですずっと働き続けたい」と答えた方が最も多くなりました。中には「A型スタッフ」や「総合職員」を目指している方も多く、ぷろぼの中でどのように成長し、キャリアアップできる仕組みをつくるかが課題になります。また、「いずれは転職したい」と考えている方も約3分の1いることがわかりました。A型スタッフ・総合職員を目指す理由や転職を希望する理由については今回捉えることができていませんが、将来希望する暮らしや働き方（例：工賃・給料や時間等）という要素からも仕組みを検討することが重要です。A型・B型をステップとして一般就労を希望する方も一定数いると思われ、ご希望に応じた支援を整備することも必要です。

一方で「わからない」と答える方もおり、現在の状況・状態からは将来についてイメージを持ちづらいことがうかがえます。

働き続けたい理由としては、「ぷろぼのや職場に愛着を感じている」「今の仕事が面白いから」「人間関係がいいから」と答える方が多く、仕事を満足だと感じる理由（配慮が得られる／やりがい・面白さ／人間関係など）と同じ傾向でした。仕事に満足を感じているからこそ、ぷろぼで働き続けたいと感じていただけていると考えられます。

一方で、「ほかに満足できる転職先が見つかる見込みがないから」と回答する方もおり、本人のニーズを聞きながら、必要に応じて一般就労をサポートするための仕組も重要です。また職場として、働き続けるために魅力的な仕事や職場環境を作っていくことも引き続き目指していきます。

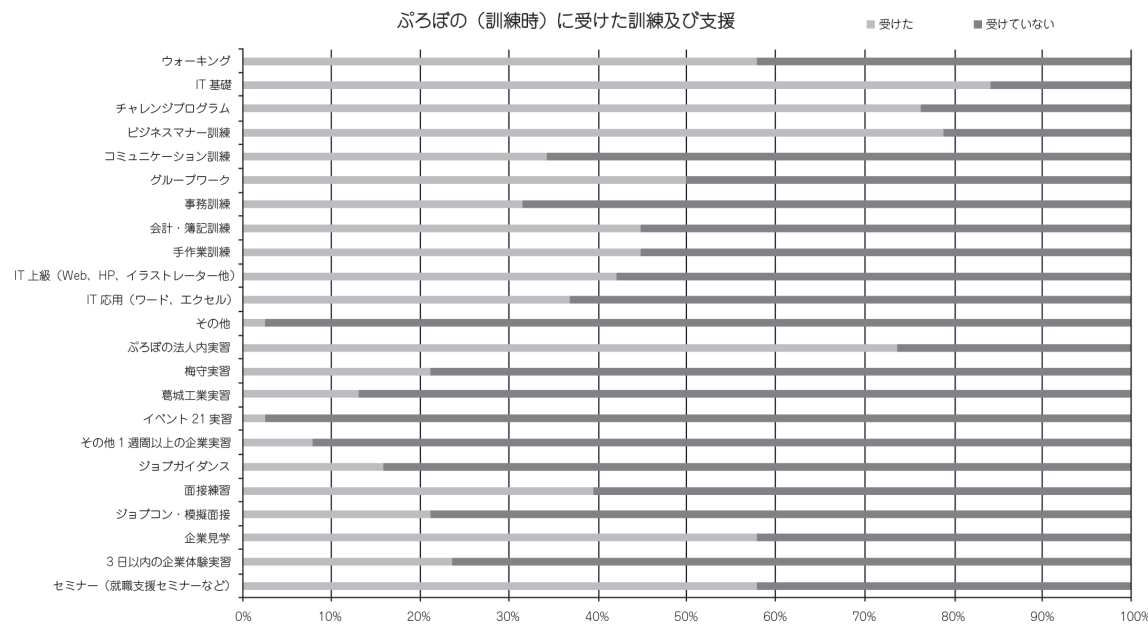


3 訓練の評価

就労移行支援サービス利用時に受けた訓練及び支援が、実際に働くときにどのように役に立っているかを評価するために、訓練・支援に関する項目を設定しました。

ほとんどの方は、仕事に役に立っていると感じていますが、一方で「特に役に立たない」「●●の訓練がどう生かされているのかわからない」という回答もありました。訓練と働く場の間で訓練・支援内容の共有とそれを踏まえたフィードバックをすることも重要ですが、一方で、訓練提供時の目的・意識付けも影響していると思われます。

訓練の改善点として、「より実践的な訓練が必要」と答える方もいる一方で、多くの方が訓練内容に特に不満はありませんでした。

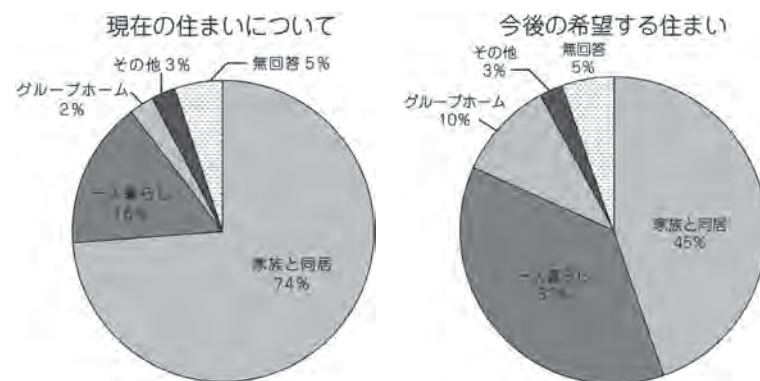


4 生活面について

現在の生活について困っていることや希望する暮らしを尋ねる項目を設定しました。

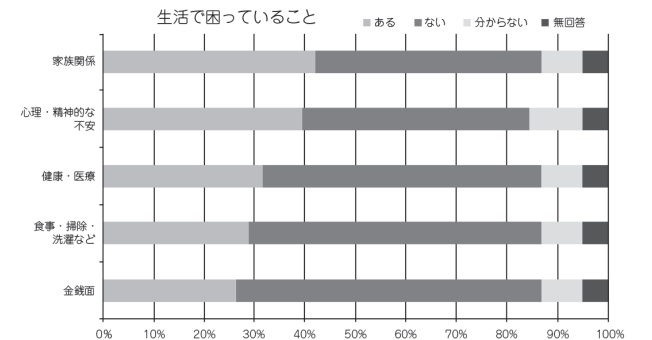
(1) 現在の住まいと今後の暮らし方の希望

現在は「家族と同居」している方が 74% と最も多く、次に「一人暮らし」が 16%、「グループホーム」が 2% です。それに対して、今後希望する住まいについては、「一人暮らし」が 37%、「グループホーム」が 10% とそれぞれ増加しており、いずれ自分で暮らしをしたいと考えている方が多いことがうかがえます。



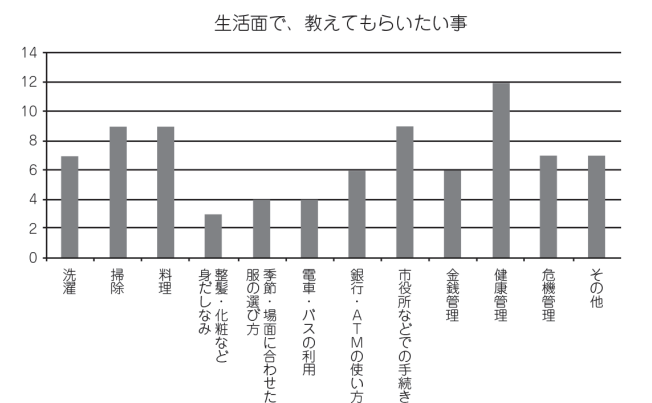
(2) 生活で困っていること

現在の生活について、約 4 分の 1 から半数の方が、何らかの状況について困っていると感じていることがわかりました。その中でも「家族関係」を挙げる方が最も多く、次に「心理・精神的な不安」「健康・医療」を挙げる方もいました。5～10% ほどの方は、「わからない」と答えています。生活面について相談支援事業所も含めて、生活面のニーズの聞き取り・対応の検討が必要な場合もあることがわかります。



(3) 生活面の支援の希望

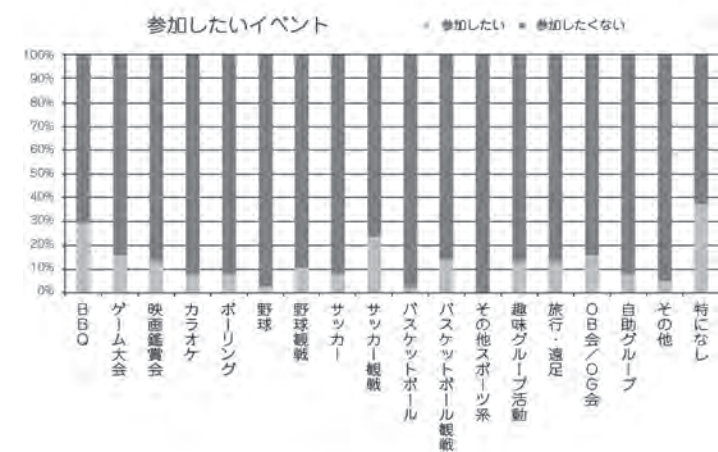
生活面で教えてもらいたいこととしては、「健康管理」が最も多くなりました。次に「掃除」「料理」など自立に向けた取り組みを準備したいと思っている方や、「市役所などの手続き」を希望される方もいました。「健康管理」については、生活支援や医療支援と連携し、暮らし続ける・働き続けるための健康管理を働く場として支援する必要があります。生活支援・グループホームなどの案内や、就職支援セミナー等を通じた情報・学習の場の提供も引き続き行います。



(4) 余暇活動について

余暇活動のイベントを聞いたところ、全体的に「参加を希望しない」と答えた方が多く、現在提供している法人・事業所の余暇活動に参加する割合からも、それぞれ自分のペース・余暇活動を楽しみたいと考えている方が全体的に多いと考えられます。

一方で BBQ やサッカー観戦などの項目に対して「参加したい」と答える方もあり、今後もイベントの企画・余暇活動提供を継続して行っていきます。



5 まとめ

今年度より、初めて就労継続支援 A 型・B 型の利用者の方へ、仕事や生活に関するアンケートを実施いたしました。全体を通じて、現在のぷろぼのでの仕事や職場環境について「満足・良い」と感じている方が多く、高い評価を得ることができました。働く場としてのぷろぼのが「働きがい・やりがいのある仕事」を提供する「働きやすい職場」となっていることは、事業運営側としてたいへん嬉しいことです。この評価は事業運営によるものだけでなく、働いている利用者の方々の意識や頑張りによってなされているものです。今回いただいた意見を基に、働いている利用者の方が「働きがい・やりがい」感じる仕事や、「働きやすい」と感じる職場づくりに向けた、仕組み・組織づくりに励みます。

良い評価だけでなく、働きにくさや仕事で不満と感じていることなどの意見も明らかになり、これらの意見については、現場で改善に努めて参ります。また、定期面談等により利用者の希望・ニーズを捉え、その人らしく働き続ける・暮らし続けるための支援や仕事・職場環境を今後も検討いたします。生活に関するご意見については、他の支援機関と連携しながら、ぷろぼのとしても中期的・長期的な生活支援に関する取り組みの検討が必要と思われます。

就労移行支援事業所在籍時に受けた支援・訓練についても、「役に立っている」という満足度が高いことから、ぷろぼのの就労移行支援の取り組みが利用者のニーズにこたえることができており、就労に活かしていると言えます。

ぷろぼの内での働く場（就労継続 A 型・B 型）における就労が充実し、定着したことから、就労移行支援事業においては、A 型・B 型で働くことが選択肢として広がっています。今後ぷろぼので働きたいと思って利用を希望する方も増えることが予想され、地域の中で魅力的な仕事や職場を作りだしていると支援機関や利用者に評価していただけるように、今後も引き続き、仕事・職場環境の向上と情報の発信に取り組んでいきます。

ご協力いただき、ありがとうございました。

法人が運営をする福祉サービス事業所は以下のとおりです。

【就労移行事業所】

| | |
|---------|--|
| 生駒事業所 | 〒630-0257 奈良県生駒市元町2丁目1-19 元町ストレートビル1階 電話/FAX 0743-85-5658 |
| 高の原事業所 | 〒631-0805 奈良県奈良市右京1丁目2番地 サンタウンアカデミー隣り 電話/FAX 0742-72-2207 |
| 新大宮事業所 | 〒630-8115 奈良県奈良市大宮町3丁目5-39 第3やまと建設ビル301号 電話/FAX 0742-35-3353 |
| 大和八木事業所 | 〒634-0078 奈良県橿原市八木町1丁目7-3 かしはらビル6階 電話 0744-22-0308 / FAX 0744-22-0310 |

【就労継続支援事業所】

| | |
|--------------------------|---|
| IPFactoryぷろぼの (A型) | 〒630-8115 奈良県奈良市大宮町3丁目5-40 やまと建設本社ビル2階 電話 0742-35-3232 / FAX 0742-81-7320 |
| ITセンター大和八木 (A・B 多機能型) | 〒634-0078 奈良県橿原市八木町1丁目7-3 かしはらビル5階 電話 0744-47-2681 |
| ITセンター榛原 (B型・移行 多機能型) | 〒633-0254 奈良県宇陀市榛原高萩台78番地 グリーンスクエア榛原駅前1番館105号 TEL 0745-96-9012 / FAX 0745-96-9013 |
| SCファームぷろぼの (B型) | 〒630-8115 奈良県奈良市大宮町3丁目5-39 第3やまと建設ビル201号 電話 0742-35-3232 / FAX 0742-81-7320 |

【指定特定相談支援事業】

| | |
|-------------------|--|
| 特定相談支援事業所 ぷろぼの | 〒630-8115 奈良県奈良市大宮町3丁目5-39 第3やまと建設ビル201号 電話 0742-81-7164 / FAX 0742-81-7032 |
|-------------------|--|

【地域活動支援センターⅢ型事業】

〒630-0257 奈良県生駒市元町2丁目1-19 元町ストレートビル1階
電話/FAX 0743-85-5658

【共同生活援助事業】

GHぷろぼの 奈良市杉ヶ町

【放課後等デイサービス】

| | |
|-------------|--|
| ぷろぼのスコラ 生駒校 | 〒630-0257 奈良県生駒市元町2丁目1-19 元町ストレートビル3階 電話/FAX 0743-85-6397 |
| ぷろぼのスコラ 八木校 | 〒634-0078 奈良県橿原市八木町1丁目7-3 かしはらビル3階305号 電話 0744-47-4763 |

詳しくは、各事業所又は事務局までご連絡ください。

事務局 〒630-8115 奈良県奈良市大宮町3丁目5-39 第3やまと建設ビル201号
電話/FAX 0742-81-7032



表紙デザインについて

表紙に使用されている文様は、正倉院に収められている宝物に描かれた宝相華文や連珠文、唐華文などの文様（デザイン）を、写真などをもとに時間をかけてデータ化した「天平文様」です。
「天平文様」を利用したデザインは、奈良女子大学 社会連携センター 藤野千代氏と、奈良の福祉グループぷろぼのとの共同研究によるものです。

